



進取の気風にあふれる総合大学

国立大学法人

鹿児島大学概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY
2016



鹿児島大学公式
マスコットキャラクター

さっつん

CONTENTS

はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学の基本的な目標
- 04… 大学憲章
- 05… 学生憲章
- 06… 教育目標／生涯学習憲章
- 07… 男女共同参画基本理念
- 08… ポリシー
- 11… 沿革

組織

- 13… 組織図
- 16… 役職員等
- 19… 役職員数

学部・大学院等

- 20… 学部
- 23… 大学院
- 26… 教育学部附属学校
- 27… 医学部・歯学部附属病院
- 29… 附属動物病院
- 30… 教育関係共同利用拠点
- 31… 附属図書館
- 33… 学内共同教育研究施設等
- 40… 海外拠点等
- 41… 奄美群島拠点
- 42… 司法政策教育研究センター等

学生等

- 43… 入学定員・現員数
- 45… 附属学校入学定員・現員数
- 46… 入学状況
- 48… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 49… 奨学生状況／経済支援制度

教育・研究・社会貢献活動

- 50… 重点領域研究
- 53… かごしまルネッサンスアカデミー／大学地域コンソーシアム
- 54… COC／COC+
- 55… 教育プログラム等
- 56… リポジトリ／学術刊行物
- 57… 産学官連携活動
- 58… 公開講座等

国際交流

- 59… 海外研修支援
- 60… 海外研修支援／国際共同研究プロジェクト等
- 61… 学術交流協定締結状況
- 63… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 64… 外国人留学生

財務

- 66… 収入・支出決算額／予算
- 67… 外部資金受入状況

キャンパス

- 69… 土地・建物・船舶
- 70… 地域交流施設／福利厚生施設／体育施設等
- 75… 地区別建物等配置図
- 79… 位置図・交通アクセス
- 80… 所在地一覧

学 年 暦

学 期	
前 期	……4月1日～9月30日
後 期	…10月1日～3月31日
入 学 式	……………4月7日
休 業 日	
春 季 休 業	……4月1日～4月10日
夏 季 休 業	… 8月1日～9月30日
冬 季 休 業	…12月25日～1月8日
鹿児島大学記念日	…………… 11月15日
卒 業 式・修 了 式	……………3月24日

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
”	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
”	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日	
中 村 未 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※
”	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
”	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
”	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
”	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
”	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
”	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
前 田 芳 實	平成25年4月 1日～平成28年3月31日	
”	平成28年4月 1日～	

※学長事務取扱

「進取の気風にあふれる総合大学」を目指して



前田 芳實 学長

鹿児島大学は長い歴史と豊かな伝統を持ち、その起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に新制国立鹿児島大学として発足しました。

現在、鹿児島市内の三つのキャンパスに9学部と10大学院研究科を擁し、約9,000名の学部学生と約1,500名の大学院生（うち留学生約300名）が在籍する南九州最大の総合大学です。

これまでに10万人を超える卒業生を輩出し、国内はもとより世界の各地で、それぞれの専門的知識と技術を生かし、人類の平和と繁栄ならびに福祉の向上のために大きな足跡を残してきています。

本学は、平成19年に鹿児島大学憲章を制定し、“学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学”を目指しています。

また、学生自らが起草した鹿児島大学学生憲章（平成22年制定）では、“進取の精神の継承、地球的視野の学び、友情や思いやりの醸成、積極的社会参加の実践”が謳われ、自らを磨き、未来を拓くことを宣言しています。本学は、この大学憲章ならびに学生憲章の精神が学生のキャンパス生活の中でしっかりと培われ、本学での学びが学生の人生設計の礎となるように支援を惜しみません。

学生に対する支援としては、学生自らが困難な課題に果敢に挑戦する取組を支援する「進取の精神チャレンジプログラム」の実施やグローバル人材の養成などがあります。これまで、海外124の大学と学術交流協定を締結し、協定校との間で単位互換制度を設けるなど、学生が留学しやすい環境を整えています。

また、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、学生の海外研修を支援しています。その他に留学生を含む学生の向上心を育むため、学習環境の整備、社会貢献・研究活動の支援、奨学制度等の充実等を進め、「日本で一番学生を大切にする大学」を目指しています。

平成28年度から6年間、第3期中期目標・中期計画期間に入ります。

本学は、この期間において、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施します。

とりわけ、今日の地方における喫緊の課題は、人口減少に適切に対処し地方創生を推進することにあります。そのため、鹿児島の特性や発展可能性を踏まえ、地域志向型人材の育成に資する地域活性化の中核的拠点として、「オール鹿大」で地域創生に取り組みます。

国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標 第3期中期目標(平成28～33年度)

鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、アジア・太平洋の中の鹿児島という地理的特性を踏まえ、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第3期中期目標・中期計画期間においては、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化し、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成するとともに、18歳人口減少問題やグローバル化を視野に入れ、「進取の気風にあふれる総合大学」に相応しい大学改革を実施するため、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローバルな視点を有する地域人材育成の強化

地域特性を活かした教育及び国際化に対応した教育を推進するとともに、高大接続の見直し、アクティブ・ラーニングの強化、教育の内部質保証システムの整備、学生支援の拡充等の教育改革に取り組みます。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

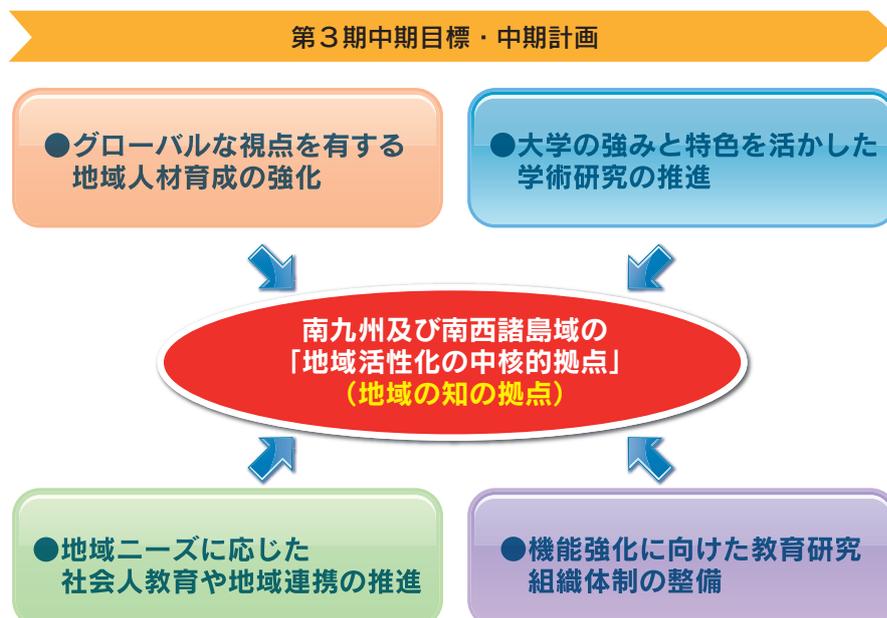
地域特有の課題研究「島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー」及び防災研究を推進するとともに、先進的な感染制御や実験動物モデル等の卓越した研究を促進します。

3. 地域ニーズに応じた社会人教育や地域連携の推進

知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域・産業界との連携を強化し、リカレント教育の拡充や地域イノベーションの創出等、「社会連携機構(仮称)」を中心に社会貢献の取組を推進します。

4. 機能強化に向けた教育研究組織体制の整備

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、学術研究院制度を効果的に活用し、地域の総合大学としての特色を活かした学部等の再編や奄美群島拠点の拡充等、組織の見直しや学内資源の再配分に全学的な観点から取り組みます。



鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

※「進取の精神」とは、自ら困難に立ち向かう態度である。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



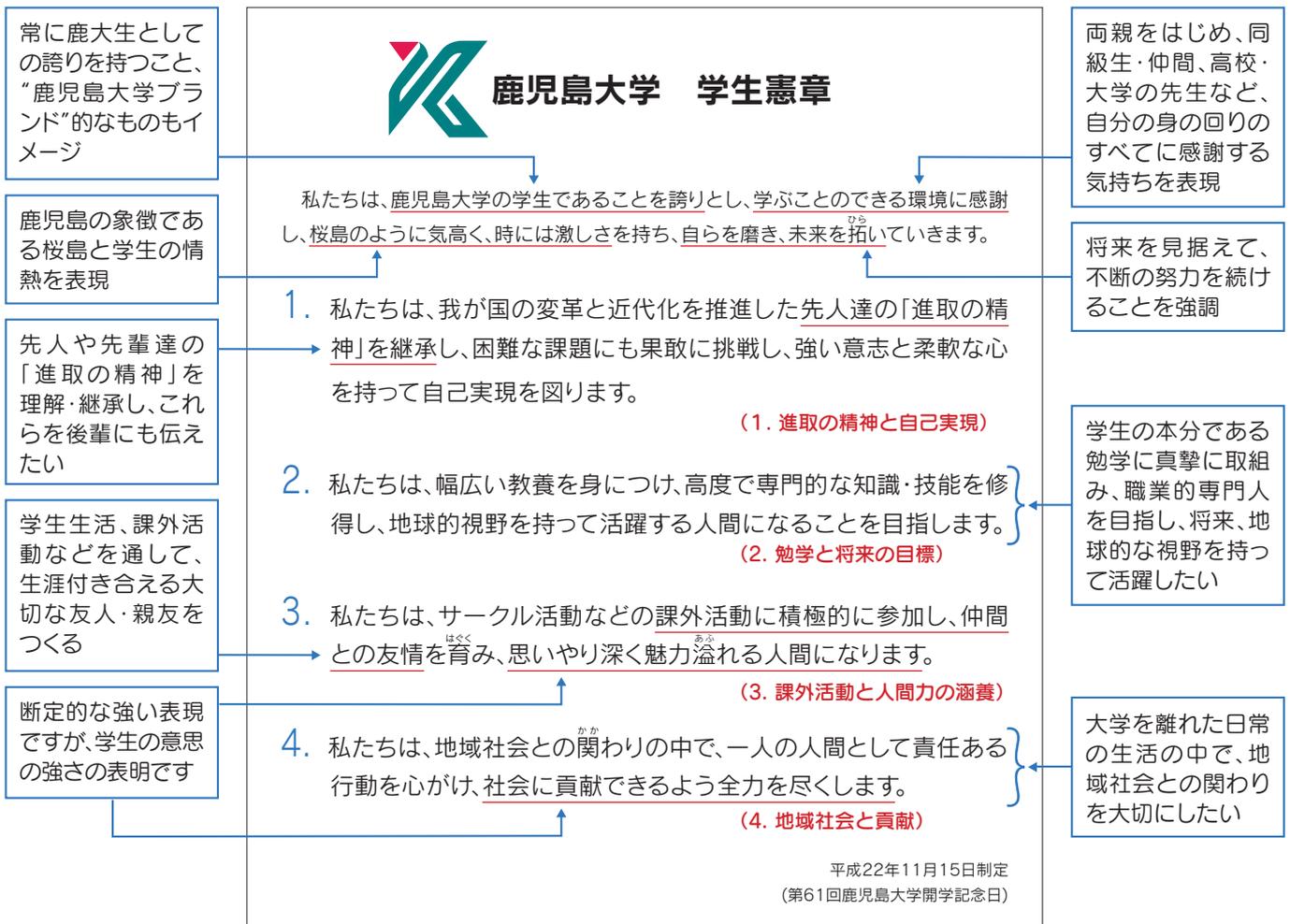
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説〉



鹿兒島大学教育目標

鹿兒島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げます。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。

平成23年12月15日制定

鹿兒島大学生涯学習憲章

鹿兒島大学は、大学憲章の理念に沿って、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざしており、大学と地域をつなぐ営みとして生涯学習を推進します。

鹿兒島大学は、古来より海上交通の要衝として多彩な文化を集積し、世界で固有の多様な自然と共生してきた地域に学び、成熟社会における新たな社会像、地域像、大学像を獲得できる生涯学習に全学で取り組みます。

地域のもつ知は大学及び大学人に新たな知的発見をもたらす宝庫であり、知的拠点としての鹿兒島大学がめざす生涯学習とは、地域に生きる人びとと大学人がともに学び教え合う関係から知の循環を促し相互に成長していくことです。

鹿兒島大学は、全構成員が生涯学習の理念を共有し、地域と世界を結ぶ視野をもって、生涯学習を組織的に実践するために、次の方針を掲げます。

1. 青年期の教育とともに、成人を対象とした教育に取り組み、生涯にわたる学習の機会を提供します。
2. 地域の発展の基礎となる多様な教育機会を用意し、激動の時代を生きる地域の人びとが、ともに支え合い、暮らしていくことに貢献します。
3. 大学の専門知と科学知が、地域の生活や経験と向きあうことを大切にします。そのことを通じて学問を鍛え直し、新しい社会を展望できる知を創造し、広く地域に還元していきます。
4. 鹿兒島大学学生憲章の実現に向けて、学びの主体性を支え、進取の精神を養い、課題解決能力や実践力を育むため、学生が大学で修める学問を基礎に、地域とともに成長できる機会を保障します。
5. 柔軟で闊達な組織づくりに努め、大学と地域の相互理解を深める機会を創出し、生涯学習の推進を地域とともに発展する大学づくりの柱と位置づけます。

平成25年9月19日制定

鹿兒島大学男女共同参画基本理念

男女共同参画社会基本法は、男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国の最重要課題であると位置づけています。男女共同参画社会とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することのできる社会のことです。この実現には、教育・研究の場であるとともに、就業の場である大学の果すべき役割・社会的責任が極めて大きいものと考えます。

鹿兒島大学は、男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画社会実現の意義と責任を認識しつつ、21世紀の総合大学に期待される使命を自覚し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざし、以下の基本理念の下、男女共同参画を積極的に推進します。

<基本理念>

鹿兒島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」

<行動指針>

1. 男女共同参画の視点に立った教育、研究、就業の場の確立および大学運営における意思決定過程への女性の参画を拡大します。
2. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を重視した施策を推進するための環境を整備します。
3. 女性の能力開発・能力発揮(エンパワーメント)を支援するために、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進、女性キャリアガイダンスの充実、再チャレンジ支援などを行います。
4. 男女共同参画に資する教育・研究、広報・啓発活動を、地域(地方自治体、教育機関、医師会、企業、NPO等)と連携して積極的に推進します。

平成22年1月21日制定
教育研究評議会決定

鹿児島大学入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

学士課程

<鹿児島大学が求める学生像>

鹿児島大学は、次のような学生を求めています。

- 1.鹿児島大学の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力や考える力と意欲をもつ人
- 2.人間としてのモラルを大切にし、教養をより高めようとする人
- 3.知的向上心に富み、専門職業人として社会に貢献することをめざす人
- 4.ボランティアやインターンシップをはじめ、広く具体的体験に積極的に取り組む意志をもつ人

大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に定める人材を育成するため、次のような学生を求めています。

- 1.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人
- 2.主体的に学ぶ態度を身につけ、専門分野に関連する諸問題に関心を持つ人
- 3.自ら課題を発見・探究・解決しようとする意欲に満ちた人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、高度専門職業人を養成するため、次のような学生を求めています。

- 1.学士としての確かな基礎学力と専門分野における知識・技能を有する人、または、当該分野の基礎資格や現場での経験を有する人
- 2.高度専門職業人をめざす明確な問題意識・関心を持ち、幅広い教養と柔軟な思考力を持つ人
- 3.専門職技能並びに実践力を身につけたい人

このような学生を適正に選抜するために、研究科の募集単位ごとに、多様な選抜を実施します。

鹿児島大学教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

学士課程

鹿児島大学は、教育目標に掲げる人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、初年次から卒業まで系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力を育む科目を配置します。
- 2.自ら課題を発見・探究・解決する能力を育成する実践的な科目を配置します。
- 3.大学、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開します。
- 4.アクティブ・ラーニングの推進を通して、学生が倫理観をもって自主的に問題に取り組むことを支援する教育を展開します。
- 5.人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島特有の資源を活用した教育を展開します。

大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に掲げる人材を育成するために、以下に示す方針に基づいて、系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.大学院課程(修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程)においては、研究倫理に則り、地域の活性化と国際社会の発展に資する幅広い学識と高度な専門性を修得できる科目の提供と、きめ細かな研究指導を行います。
- 2.修士(博士前期)課程においては、専門分野における基礎的な研究能力と高度な専門性を発揮できる実践的な能力を身につけた人材を育成する教育を展開します。
- 3.博士(博士後期)課程においては、鹿児島大学の多様な学術的研究を背景に、課題の発見・探究・解決を目指す研究者や、専門分野を牽引していく役割を担うことのできる専門家を育成する教育を展開します。

専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学術の理論及び応用を教授し、高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培う系統性のある教育課程(カリキュラム)を編成します。

- 1.高度専門職業人として、固有の専門業務に必要な深い学識と卓越した能力を養成する体系化した教育を展開します。
- 2.学外との連携を通じた実務教育を行い、地域に根ざした高度専門職業人としての責任感と倫理観を養成する教育を展開します。
- 3.専門分野において、指導的な役割を担う実務家を養成する教育を展開します。

鹿児島大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

学士課程

鹿児島大学は、大学憲章及び教育目標に鑑み、地域の活性化及び国際社会の発展に貢献していくため、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、多様なコミュニケーションができる能力
3. 自ら進んで様々な社会活動に参加し、省察し、その上で、将来の課題を発見し、その探究・解決を志向し続けられる実践力

大学院課程

鹿児島大学大学院は、教育目標に鑑み、以下に示す方針に基づいて、学位を授与します。

1. 修士(博士前期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、審査に合格した者に修士の学位を授与します。
 - 研究倫理を基盤とした専門分野における基礎的な研究能力
 - 高度な学識と専門性を活かして地域と国際社会の発展に貢献できる能力
2. 博士(博士後期)課程においては、以下に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与します。
 - 研究倫理を基盤とした専門分野における独創的な研究能力
 - 専門分野で指導的な役割を担い、地域と国際社会の発展に貢献できる能力

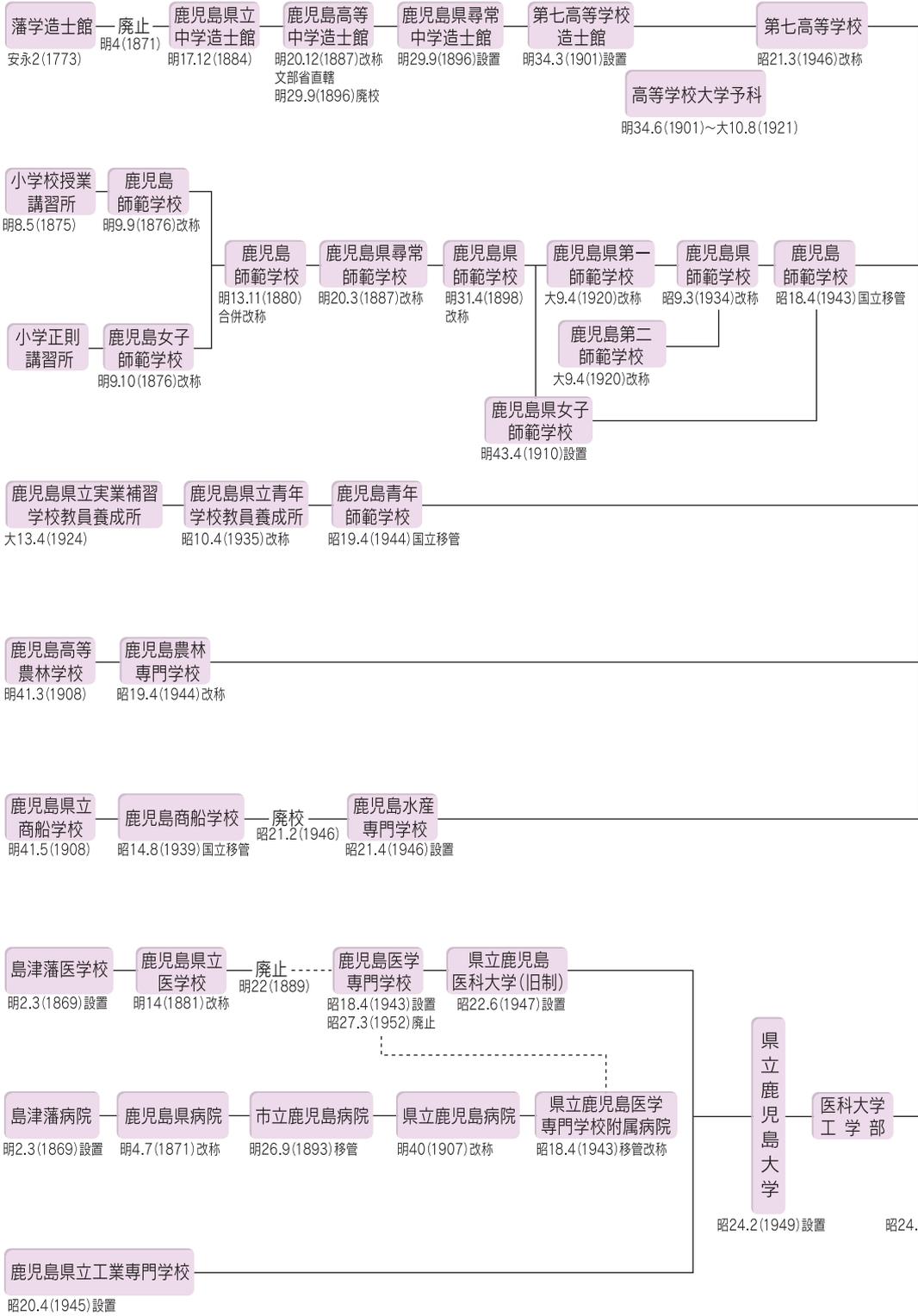
専門職大学院課程

鹿児島大学専門職大学院は、教育目標に鑑み、以下に挙げる能力を身につけた者に専門職の学位を授与します。

1. 高度専門職業人として求められる責任感、職業倫理観、及び実務能力
2. 専門分野で指導的な役割を担うことのできる能力

鹿児島大学

昭24.5(1949)設置

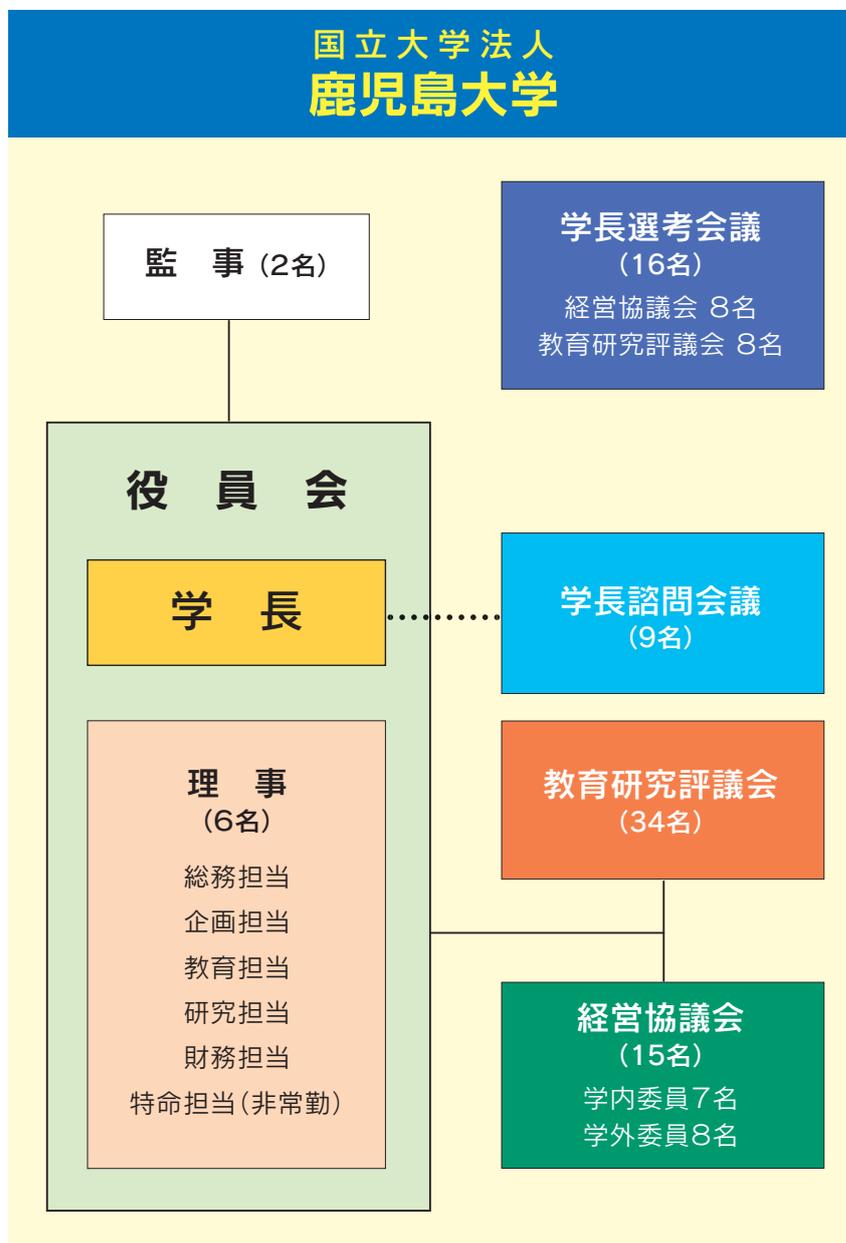


藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)

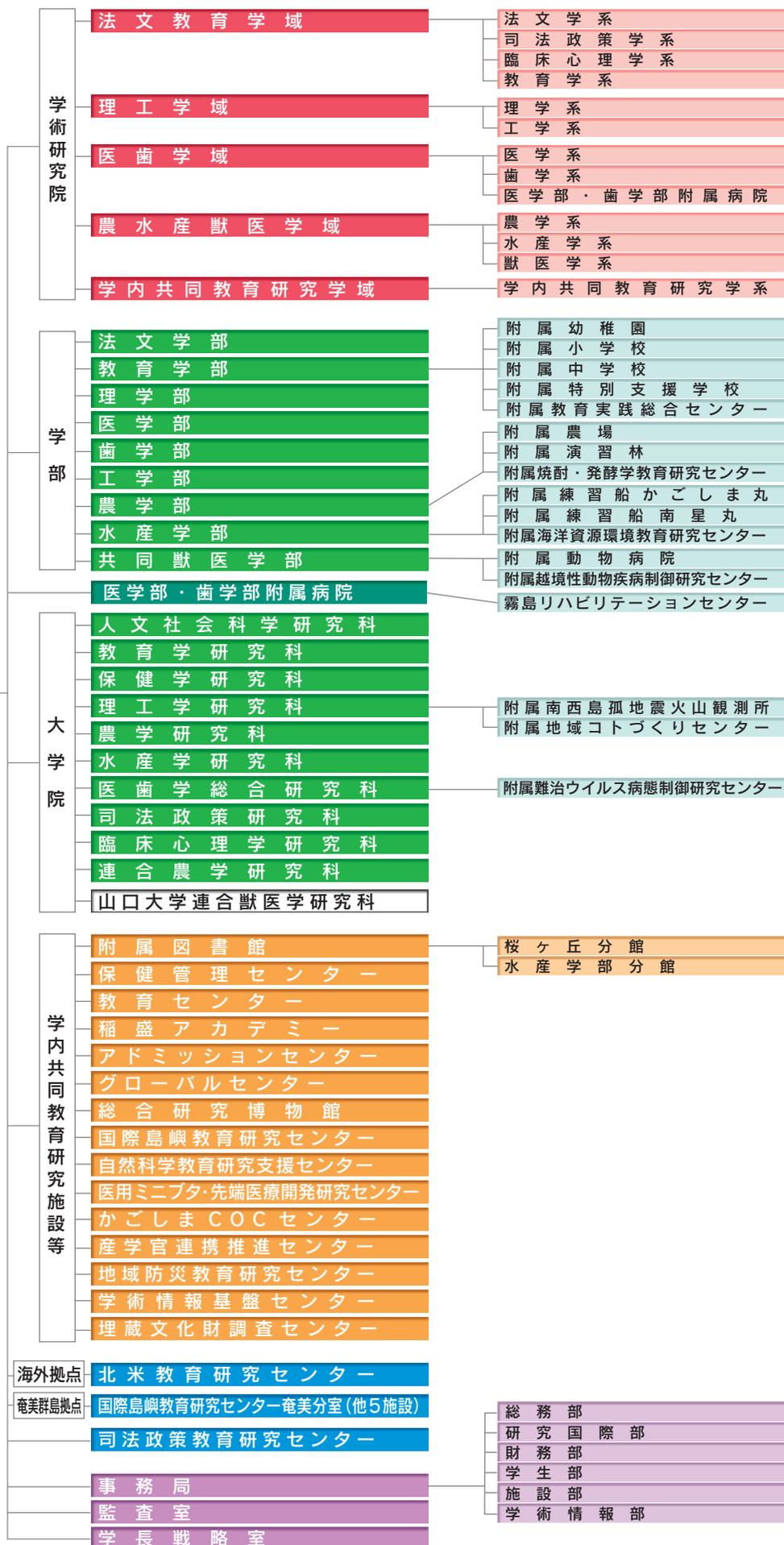


第七高等学校造士館前景

学 部	文学部 昭47.3(1972)廃止	法文学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属幼稚園 昭26.4(1951)設置
	第七高等学校 昭25.3(1950)廃止	教育学部 昭24.5(1949)設置	附属小学校 昭24.9(1949)設置
	鹿児島師範学校 昭26.3(1951)廃止 鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951)廃止	理学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属中学校 昭26.5(1951)設置
		医学部 昭30.7(1955)国立移管	附属特別支援学校 昭55.4(1980)設置、平19.4(2007)改称
		歯学部 昭52.10(1977)設置	附属教育実践総合センター 平14.4(2002)設置
		工学部 昭30.7(1955)国立移管	附属教育実践研究指導センター 平元.5(1989)設置、平14.3(2002)廃止
		農学部 昭24.5(1949)設置	医学部・歯学部附属病院 平15.10(2003)設置
		水産学部 昭24.5(1949)設置	医学部附属病院 昭33.5(1958)設置、平15.9(2003)廃止 歯学部附属病院 昭55.4(1980)設置、平15.9(2003)廃止
		共同獣医学部 平24.4(2012)設置	霧島リハビリテーションセンター 医学部附属病院分院 昭33.5(1958)設置、平15.10(2003)改称
		一般教養部 昭24.6(1949)学内措置、昭40.3(1965)廃止	附属農場 附属演習林 (高隈演習林 平26.7(2014)教育関係共同利用拠点認定)
教 養 部		附属焼酎・発酵学教育研究センター 平23.4(2011)設置	
		附属練習船かごしま丸 平24.3(2012)建造 (平22.3(2010)教育関係共同利用拠点認定)	
		附属練習船南星丸 平14.11(2002)建造	
		附属海洋資源環境教育研究センター 平12.4(2000)設置 附属水産実験所 昭47.5(1972)設置、平12.4(2000)廃止	
		附属動物病院 鹿児島高等農林学校附属家畜病院 昭16.8(1941)設置 鹿児島農林専門学校附属家畜病院 昭19.4(1944)改称 農学部附属家畜病院 昭24.5(1949)移管 農学部附属動物病院 平17.4(2005)改称、平24.4(2012)共同獣医学部へ移管 附属越境性動物疾病制御研究センター 農学部附属越境性動物疾病制御研究センター 平23.4(2011)設置、平24.4(2012)共同獣医学部へ移管	
		人文社会科学研究科(博・前) 平10.4(1998)設置	
		人文社会科学研究科(博・後) 平15.4(2003)設置	
		教育学研究科(修) 平6.4(1994)設置	
		保健学研究科(博・前) 平15.4(2003)設置	
		保健学研究科(博・後) 平17.4(2005)設置	
大 学 院	県立鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954)設置、昭36.3(1961)廃止	理工学研究科(博・前) 昭43.4(1968)工学研究科修士設置 平6.4(1994)(修)を改組、平10.4(1998)改称	附属南西島弧地震火山観測所 平3.4(1991)設置
	理学研究科 昭52.4(1977)設置、平10.3(1998)廃止	理工学研究科(博・後) 平6.4(1994)設置、平10.4(1998)改称	附属地域コトづくりセンター 平27.4(2015)設置
	医学研究科 昭34.4(1959)設置、平15.3(2003)廃止	農学研究科(修) 昭41.4(1966)設置	附属難治ウイルス病態制御研究センター 平16.4(2004)設置
	歯学研究科 昭59.4(1984)設置、平15.3(2003)廃止	水産学研究科(修) 昭44.4(1969)設置	医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 平5.4(1993)設置、平15.3(2003)廃止
	教育専攻科 昭34.4(1959)設置、平6.3(1994)廃止	医歯学総合研究科(博) 平15.4(2003)設置	医学部附属難治性ウイルス病態制御研究センター 平15.4(2003)設置、平16.3(2004)廃止
	理学専攻科 昭44.4(1969)設置、昭52.3(1977)廃止	医歯学総合研究科(修) 平16.4(2004)設置	
	工学専攻科 昭34.4(1959)設置、昭43.3(1968)廃止	司法政策研究科(専) 平16.4(2004)設置	
	農学専攻科 昭29.4(1954)設置、昭41.3(1966)廃止	臨床心理学研究科(専) 平19.4(2007)設置	
	水産専攻科 昭34.4(1959)設置、昭44.3(1969)廃止	連合農学研究科(博) 昭63.4(1988)設置	
	遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953)設置	(佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学で構成 平4.4(1992)琉球大学参加、平19.3(2007)宮崎大学離脱)	
水産専攻科 昭49.4(1974)	山口大学大学院連合獣医学研究科(博) 平2.4(1990)構成大学として参加		
(遠洋漁業学特設専攻科を改称) 平15.3(2003)廃止			
附 属 図 書 館	桜ヶ丘分館 昭33.5(1958)設置、昭54.4(1979)改称、平4.4(1992)改称	水産学部分館 昭24.7(1949)設置	
文理部分館 昭40.3(1965)廃止 農学部分館 昭40.3(1965)廃止	教育学部分館 昭40.3(1965)廃止 工学部分館 昭40.3(1965)廃止		
保 健 管 理 セ ン タ ー	昭47.5(1972)設置		
教 育 セ ン タ ー	平15.10(2003)設置		
稲 盛 ア カ デ ミ	平17.4(2005)設置、平20.4(2008)改組		
ア ド ミ ッ シ ョ ン セ ン タ ー	平26.4(2014)設置		
グ ロ ー バ ル セ ン タ ー	平28.4(2016)設置 (留学生センター 平12.4(2000)設置、平28.4(2016)改組)		
総 合 研 究 博 物 館	平13.4(2001)設置		
国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー	平22.4(2010)設置 (南方海域研究センター 昭56.4(1981)設置、昭63.3(1988)廃止 南大太平洋海域研究センター 昭63.4(1988)設置、平10.3(1998)廃止 多島嶼研究センター 平10.4(1998)設置、平22.4(2010)改組)		
自 然 科 学 教 育 研 究 支 援 セ ン タ ー	平24.4(2012)設置 (遺伝子実験施設 平8.5(1996)設置、平14.3(2002)廃止 医学部附属動物実験施設 昭48.4(1973)設置、平14.3(2002)廃止 生命科学資源開発研究センター 平14.4(2002)設置、平17.3(2005)廃止 アイソトープ総合センター 平11.4(1999)設置、平17.3(2005)廃止 機器分析センター 平13.4(2001)設置、平17.3(2005)廃止 フロンティアサイエンス研究推進センター 平17.4(2005)設置、平24.4(2012)改組)		
医 用 ミ ニ ッ タ ・ 先 端 医 療 開 発 研 究 セ ン タ ー	平24.4(2012)設置		
か ご し ま C O C セ ン タ ー	平26.10(2014)設置 (生涯学習教育研究センター 平15.4(2003)設置、平27.7(2015)改組)		
産 学 官 連 携 推 進 セ ン タ ー	平24.4(2012)設置 (地域共同研究センター 平4.4(1992)設置、平18.3(2006)廃止 知的財産本部 平15.12(2003)設置、平18.3(2006)廃止 産学官連携推進機構 平18.4(2006)設置、平24.4(2012)改称)		
地 域 防 災 教 育 研 究 セ ン タ ー	平23.6(2011)設置		
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー	平15.4(2003)設置 (情報処理センター 昭62.12(1987)設置、平7.3(1995)廃止 総合情報処理センター 平7.4(1995)設置、平15.3(2003)廃止)		
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー	平24.4(2012)設置 (埋蔵文化財調査室 昭60.6(1985)設置、平24.4(2012)改称)		
北 米 教 育 研 究 セ ン タ ー	平20.9(2008)設置		
奄 美 群 島 拠 点	平27.4(2015)設置		
司 法 政 策 教 育 研 究 セ ン タ ー	平27.3(2015)設置		
医療技術短期大学部 昭60.10(1985)設置、平11.4(1999)医学部保健学科に改組、平14.3(2002)廃止			



鹿児島大学



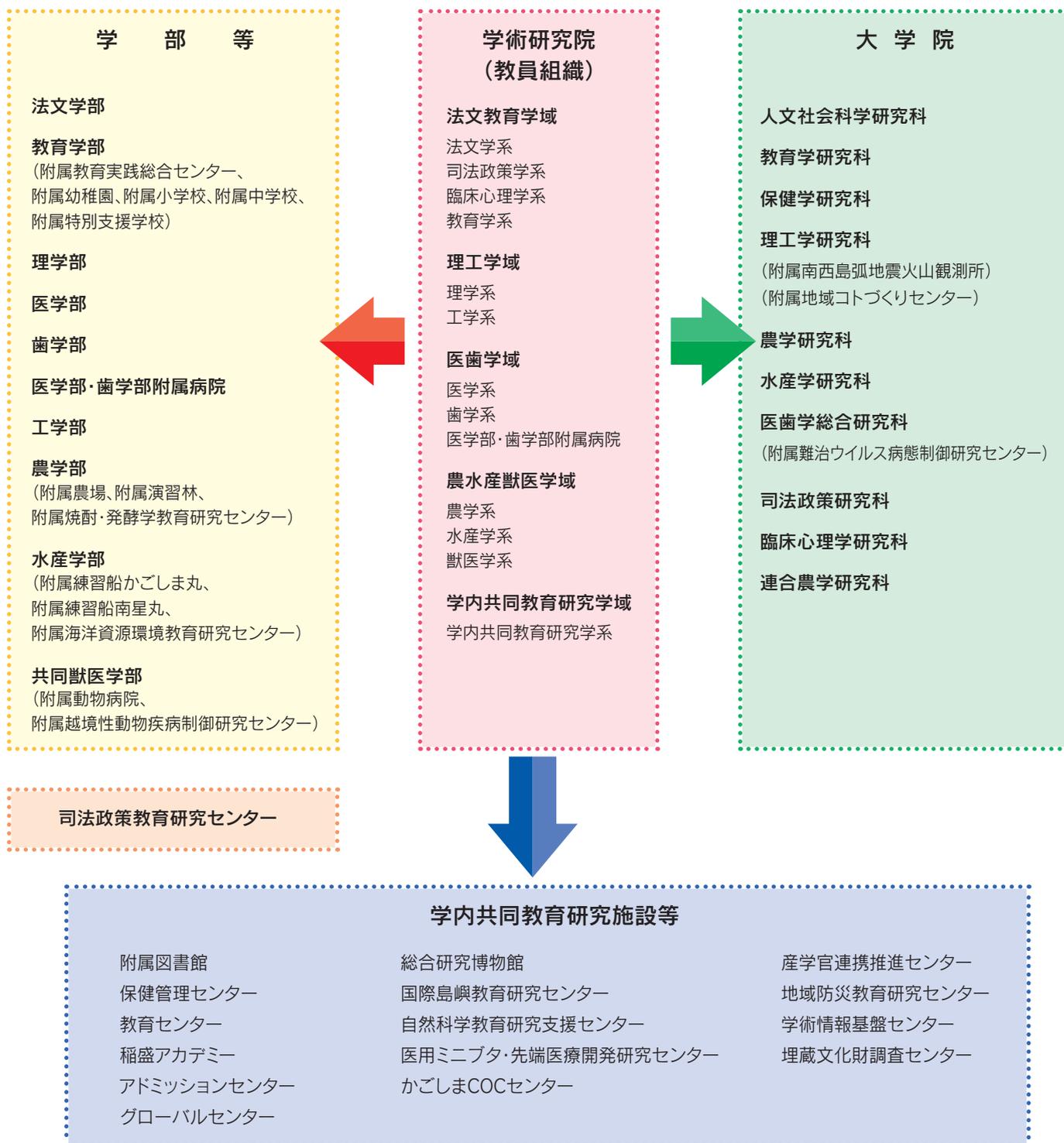
【学術研究院】

学長のリーダーシップの下、社会の変化に対応した教育研究組織づくり、教育課程の編成及び学内資源の再配分を全学的な視点で柔軟かつ迅速に進めるため、現行の教育研究組織を教員組織と教育研究組織に分離し、新たに学術研究院(教員組織)を平成27年4月1日に設置しました。

学術研究院は、5つの「学域」と13の「学系」からなり、学域は現在の学部・研究科等の教育研究分野に対応した一定規模の組織を形成し、学系は学域の下に教員の専攻分野に応じた組織となっています。

学術研究院長には学長を充て、今まで学部・研究科等ごとに所属していた教員を一元的に管理し、全学的な視点に基づいた計画的な教員人事を行うこととしています。

教育研究組織 (平成27年4月1日)



(平成28年6月1日現在)

役員

学 長	前 田 芳 實
理事・副学長 総務担当	島 秀 典
理事・副学長 企画担当	高 松 英 夫
理事・副学長 教育担当	清 原 貞 夫
理事・副学長 研究担当	住 吉 文 夫
理事・副学長 財務担当	永 井 義 美
理 事 特命担当	石 窪 奈穂美
監 事 業務監査	伊牟田 均
監 事 会計監査	押 越 武 彦

副学長

附属病院担当	熊 本 一 朗
共通教育担当	飯 干 明
大学改革・附属図書館担当	平 井 一 臣
学生生活担当	前 田 雅 人
稲盛アカデミー担当	武 隈 晃
男女共同参画担当	橋 口 知
情報セキュリティ担当	森 邦 彦

経営協議会委員

学 長	前 田 芳 實
笹川法律事務所弁護士	笹 川 理 子
鹿児島県高等学校長協会会長	豊 島 真 臣
鹿児島県立鶴丸高等学校校長	
NPO 法人地域サポートよしのねぎぼうず理事長	永 山 恵 子
日本有機株式会社代表取締役社長	野 口 愛 子
鹿児島県医師会副会長	野 村 秀 洋
今村病院名誉院長	
鹿児島県立短期大学学長	野 呂 忠 秀
鹿児島県副知事	布 袋 嘉 之
株式会社エルム代表取締役	宮 原 隆 和
理 事	島 秀 典
理 事	高 松 英 夫
理 事	清 原 貞 夫
理 事	住 吉 文 夫
理 事	永 井 義 美
医学部・歯学部附属病院長	熊 本 一 朗

教育研究評議会評議員

学 長	前 田 芳 實
理 事	島 秀 典
理 事	高 松 英 夫
理 事	清 原 貞 夫
理 事	住 吉 文 夫
理 事	永 井 義 美
副学長	前 田 雅 人
法文学部	高 津 丸 孝 哲
教育学部	土 田 理 順 三 郎
理学部	與 倉 昭 治 一

医学部	佐 野 輝 彰
	木 佐 貴 一
歯学部	宮 脇 正 一
	山 崎 要 一
工学部	渡 邊 睦 雄
	本 間 俊 一
農学部	岩 井 久 雄
	橋 本 文 雄
水産学部	越 塩 俊 介
	小 山 次 朗
共同獣医学部	宮 本 篤 浩
	三 角 一 朗
医学部・歯学部附属病院長	熊 本 一 朗
理工学研究科長	近 藤 英 二
医歯学総合研究科長	馬 場 昌 範
司法政策研究科長	米 田 憲 市
臨床心理学研究科長	中 原 睦 美
連合農学研究科長	初 井 和 朗
附属図書館長	平 井 一 臣
学内共同教育研究施設代表者	森 邦 彦
教育センター長	飯 干 明

学長諮問会議委員

学 長	前 田 芳 實
公益社団法人鹿児島県医師会会長	池 田 琢 哉
京セラ株式会社名誉会長	稲 盛 和 夫
日本航空株式会社名誉顧問	
鹿児島大学同窓会連合会会長	江 口 正 純
株式会社南日本新聞社代表取締役社長	逆 瀬 川 尚 文
株式会社南日本放送代表取締役社長	中 村 耕 治
日本芸術院会員/鹿児島大学名誉教授	中 村 晋 也
株式会社鹿児島銀行相談役	永 田 文 治
鹿児島市長	森 博 幸

学長補佐

総務・法務担当	坂 本 正 幸
人事担当	松 田 忠 大
危機管理・コンプライアンス担当	小 栗 實
企画・評価担当	尾 崎 孝 宏
法人評価担当	仙 波 伊 知 郎
広報担当	中 島 大 輔
教務担当	有 倉 巳 幸
教育改善担当	大 前 慶 和
就職・学生支援担当	枚 田 邦 宏
ボランティア支援・ピアサポート担当	西 隆 一 郎
入試広報担当	松 元 光 春
入試統計担当	新 森 修 一
研究推進担当	宮 田 篤 郎
研究支援担当	太 田 一 郎
産学官連携担当	福 島 誠 治
社会貢献担当	木 村 郁 夫
国際担当	鈴 木 英 治
留学生担当	畝 田 谷 桂 子
財務担当	鈴 木 廣 志
キャンパス計画担当	木 方 十 根

事務局

総務部長	大園利則
総務課長	松野下繁文
企画評価課長	中村智子
人事課長	通山裕樹
情報企画課長	荒武祐宏
労務調査室長	内山保一
研究国際部長	永田恒久
研究協力課長	安武博隆
社会連携課長	松浦洋人
国際事業課長	横枕健児
財務部長	
財務課長	落合祐二
経理課長	西信博
学生部長	内山修一
教務課長	西郷豊
学生生活課長	上菌和郎
入試課長	池田淳之助
施設部長	光武俊明
企画課長	壽福初美
建築課長	桑原孝行
設備課長	中之園昭一
学術情報部長	渡邊俊彦
情報管理課長	二石章
情報サービス課長	高木貞治

監査室

監査室長	古川加代子
------	-------

学長戦略室

学長戦略室長	平野謙一郎
--------	-------

学術研究院

学域長

理工学域長	近藤英二
医歯学域長	馬場昌範

学系長

法文学系長	高津孝
司法政策学系長	米田憲市
臨床心理学系長	中原睦美
教育学系長	土田理
理学系長	與倉昭治
工学系長	渡邊睦
医学系長	佐野輝
歯学系長	宮脇正一
農学系長	岩井久
水産学系長	越塩俊介
獣医学系長	宮本篤

学部等

法文学部

学部長	高津孝
副学部長	金丸哲
副学部長	藤内哲也
事務長	上國料宏

教育学部

学部長	土田理
副学部長	上谷順三郎
副学部長	大坪治彦
副学部長	樋口晶彦
事務長	安永政喜
附属教育実践総合センター長	武隈晃
附属幼稚園長	小江和樹
附属小学校長	小江和樹
附属中学校長	山口武志
附属特別支援学校長	今林俊一

理学部

学部長	與倉昭治
副学部長	藏脇淳一
副学部長	仲谷英夫
副学部長	藤井伸平

医学部

学部長	佐野輝
副学部長	木佐貫彰
副学部長	河野嘉文
副学部長	古川龍彦
副学部長	米和徳

歯学部

学部長	宮脇正一
副学部長	山崎要一
副学部長	杉浦剛
副学部長	西村正宏

医学部・歯学部附属病院

病院長	熊本一郎
副病院長(医科担当)	有田和徳
副病院長(歯科担当)	山崎要一
薬剤部長	武田泰生
看護部長	向窪世知子
臨床技術部長	弓場裕之
事務部長	林勝幸
総務課長	島森俊光
経営企画課長	脇野龍也
管理課長	中園康弘
医務課長	馬場園誠

工学部

学部長	渡邊睦
副学部長	本間俊雄
副学部長	甲斐敬美
副学部長	川畑秋馬

農学部

学部長	岩井久
副学部長	橋本文雄
副学部長	岩崎浩一
副学部長	境雅夫
附属農場長	津田勝男
附属演習林長	西野吉彦
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	高峯和則

水産学部

学部長	越 塩 俊 介
副学部長	小 山 次 朗
副学部長	大 富 潤
副学部長	佐久間 美 明
事務長	有 川 博 幸
附属練習船かごしま丸船長	内 山 正 樹
附属練習船南星丸船長	幅 野 明 正
附属海洋資源環境教育研究センター長	前 田 広 人

共同獣医学部

学部長	宮 本 篤
副学部長	三 角 一 浩
副学部長	三 好 宣 彰
附属動物病院長	遠 藤 泰 之
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小 原 恭 子

農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	稲 葉 成 人
総務課長	鮎 川 秋 徳
学務課長	今 村 哲 郎

大 学 院

人文社会科学研究科

研究科長	高 津 孝
副研究科長	萩 野 誠

教育学研究科

研究科長	土 田 理
------	-------

保健学研究科

研究科長	木佐貫 彰
副研究科長	米 和 徳

理工学研究科

研究科長	近 藤 英 二
副研究科長	與 倉 昭 治
副研究科長	渡 邊 陸
副研究科長	武 若 耕 司
副研究科長	小 山 佳 一
附属南西島弧地震火山観測所長	後 藤 和 彦
附属地域コトづくりセンター長	武 若 耕 司

理工学研究科等事務部

事務部長	
研究科・工学系総務課長	白 坂 義 浩
研究科・工学系学務課長	坂 口 智 子
理学系事務課長	野 頭 俊 明

農学研究科

研究科長	岩 井 久
------	-------

水産学研究科

研究科長	越 塩 俊 介
------	---------

医歯学総合研究科

研究科長	馬 場 昌 範
副研究科長	宮 田 篤 郎
副研究科長	菊 地 聖 史
附属難治ウイルス病態制御研究センター長	池 田 正 徳

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	平 原 安 昭
総務課長	小 澤 結 花
学務課長	宮 崎 逸 男

司法政策研究科

研究科長	米 田 憲 市
副研究科長	志 田 惣 一

臨床心理学研究科

研究科長	中 原 睦 美
副研究科長	稲 谷 心み枝

連合農学研究科

研究科長	初 井 和 朗
副研究科長	寺 田 竜 太

学内共同教育研究施設等

附属図書館	
附属図書館長	平 井 一 臣
桜ヶ丘分館長	小 片 守
水産学部分館長	山 本 淳
保健管理センター所長	伊地知 信 二
教育センター長	飯 干 明
副センター長	富 原 一 哉
稲盛アカデミー長	武 隈 晃
アドミッションセンター長	清 原 貞 夫
グローバルセンター長	鈴 木 英 治
総合研究博物館長	本 村 浩 之
国際島嶼教育研究センター長	河 合 溪
自然科学教育研究支援センター長	藏 脇 淳 一
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター長	山 田 和 彦
かごしまCOCセンター長	木 村 郁 夫
産学官連携推進センター長	福 島 誠 治
地域防災教育研究センター長	浅 野 敏 之
学術情報基盤センター長	森 邦 彦
埋蔵文化財調査センター長	中 村 直 子

海外拠点

北米教育研究センター長	中 谷 純 江
-------------	---------

奄美群島拠点

奄美群島拠点長	住 吉 文 夫
---------	---------

司法政策教育研究センター

司法政策教育研究センター長	米 田 憲 市
---------------	---------

■現員

(平成28年5月1日現在)

部 局 名	学 長		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		教 諭		小 計		事務・技術・その他						小 計		合 計	
	男性	女性	事務		技術		その他		男性	女性	男性	女性																
																	男性	女性	男性	女性	男性	女性					男性	女性
役員等	1		7	1													8	1						0	0	8	1	
監査室																	0	0		3				0	3			
学長戦略室																	0	0	2					2	0			
総務部																	0	0	49	13				49	13			
研究国際部																	0	0	14	9		1		14	10			
財務部																	0	0	24	4			2	26	4			
学生部																	0	0	25	14				25	14			
施設部																	0	0	9		10			19	0			
学術情報部																	0	0	9	13				9	13			
法文学部					41	5	26	7	2					2			69	14	12	5				12	5	81	19	
教育学部					28	4	32	12	7	1							67	17	10	9	1	1						
附属教育実践総合センター					3		5	1	1								9	1										
附属幼稚園																1	3	1	3					14	16	163	62	
附属小学校																30	7	30	7	1	2		1	1				
附属中学校																26	7	26	7	2								
附属特別支援学校																16	11	16	11	1	1							
医学部					13	7	3	3	2	3	5	14					23	27						0	0	23	27	
医学部・歯学部附属病院					1		7	1	36	5	83	19					127	25	60	29	6	1	190	714	256	744	383	769
農学部					28		30	2		1	5	1					63	4			2							
附属農場					1		2										3	0			15	1						
附属演習林					1		1										2	0			5							
附属焼酎・発酵学教育研究センター					2		1	1									3	1	19	10				42	12	145	21	
共同獣医学部					13		12	2			3						28	2										
附属動物病院							2				1						3	0			1		1					
附属越境性動物疾患制御研究センター					1	1		1									1	2										
水産学部					13	1	18	1	2		7	2					40	4	6	7	3	2						
附属練習船かごしま丸																	0	0					20	1	46	10	90	15
附属練習船南星丸																	0	0					12					
附属海洋資源環境教育研究センター					2		2				1						4	1			5							
医歯学総合研究科(医学系)					41	1	17	5	15	2	45	17					118	25										
医歯学総合研究科(歯学系)					20		12	3	3		36	15					71	18	34	14	6	5	2	40	21	235	65	
附属難治ウイルス病態制御研究センター					3		3	1									6	1										
司法政策研究科					9		1										10	0						0	0	10	0	
臨床心理学研究科					2	2	3		1								5	3						0	0	5	3	
連合農学研究科					1												1	0						0	0	1	0	
理工学研究科(理学系)					25		25	2	1	1	12	3					63	6	6	5				7	5	72	11	
附属南西島弧地震火山観測所					1						1						2	0			1							
理工学研究科(工学系)					44		47				30	2					121	2	10	9	20	5		30	14	151	16	
保健管理センター					1		1					1					2	1		2			3	0	5	2	6	
教育センター					4		3	3	2	3		1					9	7						0	0	9	7	
稲盛アカデミー							1										1	0						0	0	1	0	
アドミッションセンター							1										1	0						0	0	1	0	
グローバルセンター							3			1							0	4						0	0	0	4	
総合研究博物館					2		1						1				3	1						0	0	3	1	
国際島嶼教育研究センター					2		2										4	0						0	0	4	0	
自然科学教育研究支援センター					1		3				1						5	0		7				7	0	12	0	
医用ミニプタ・先端医療開発研究センター					2		2										4	0						0	0	4	0	
かごしまCOCセンター							1	1									1	1						0	0	1	1	
産学官連携推進センター					1		1										2	0						0	0	2	0	
廃液処理センター												1					0	1						0	0	0	1	
学術情報基盤センター					2		2				1						5	0						0	0	5	0	
埋蔵文化財調査センター							1				1						1	1						0	0	1	1	
合 計	1		8		333		312		90		308		3		101		1,156				1,487			1,487		2,643		
	1	0	7	1	308	25	266	46	72	18	231	77	0	3	73	28	958	198	291	151	82	16	225	722	598	889	1,556	1,087

■学術研究院

学 域	学 系	教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		合 計	
		男性	女性	男性	女性								
法文教育学域	法文学系	41	5	26	7	2					2	69	14
	司法政策学系	9		1								10	0
	臨床心理学系	2	2	3		1						5	3
理工学域	教育学系	31	4	37	13	8	1					76	18
	理学系	26		25	2	1	1	13	3			65	6
医歯学域	工学系	44		47				30	2			121	2
	医学系	57	8	23	9	17	5	50	31			147	53
	歯学系	20		12	3	3		36	15			71	18
農水産獣医学域	医学部・歯学部附属病院	1		4	1	34	4	83	19			122	24
	農学系	32		34	3		1	5	1			71	5
	水産学系	16	1	20	1	2		7	3			45	5
学内共同教育研究学域	獣医学系	14	1	14	3			4				32	4
	学内共同教育研究学系	15	4	17	4	3	4	3	3		1	38	16
合 計		333		309		87		308		3		1,040	
		308	25	263	46	70	17	231	77	0	3	872	168

法文学部



法政策学科／経済情報学科／人文学科

法文学部は、藩学造士館、旧制第七高等学校造士館の系譜を引く学部で、現在、法政策学科、経済情報学科、人文学科の3学科から構成される文系総合学部となっている。本学部では、社会や文化に関する確かな知識と幅広い教養を有し、現代社会の諸問題に適切に対処できる能力をもつ学生の育成を目指している。

法政策学科では、多方面に応用できる法的思考能力と政策立案能力を育成する現代型法学教育の展開、経済情報学科では、少人数教育、情報教育を基礎に3つの履修モデルによる問題解決型教育の推進、人文学科では、人間と社会の相互作用の認識や心のケア、多文化社会やメディア文化、地域の理解と文化の育成、国際交流など多方面の教育の充実を図っている。また、3つの学科の個性を生かしながら、キャリア教育やメディア教育など、今日的な課題に積極的に対応した教育を展開している。

教育学部



学校教育教員養成課程／特別支援教育教員養成課程
／生涯教育総合課程

教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。現在は、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程、特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程、社会教育分野などの指導者養成に当たる生涯教育総合課程の3課程で構成されており、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

理学部



数理情報科学科／物理科学科／生命化学科
／地球環境科学科

「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- * 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- * 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- * 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

医学部



医学科／保健学科

医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部に改称された。また、平成10(1998)年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。この間、多くの人材を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

歯学部



歯学科

歯学部は、沖縄を含む南九州地域における唯一の歯科医学教育・研究施設として、歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置され、来年創立40周年を迎える。

本学部では、生命科学の原理を理解し、科学的探究心と解決能力を身につけるとともに、各種口腔・顎顔面領域の疾患の診断、予防、および治療に関わる知識と技能を修得することを、教育目標としている。また、県内離島の歯科巡回診療同行実習などを通して地域医療の重要性を理解させると共に、コミュニケーション能力を備えた国際的視野を養育することで、ローカルにもグローバルにも活躍しうる人材を育成している。同時に、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践者としての歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

工学部



機械工学科／電気電子工学科／建築学科
／環境化学プロセス工学科／海洋土木工学科
／情報生体システム工学科／化学生命工学科

工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科系学徒の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

農学部



農業生産科学科／食料生命科学科／農林環境科学科
／国際食料資源学特別コース(農学系サブコース)

農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、農業生産科学科(3教育コース)、食料生命科学科(3教育コース)、農林環境科学科(2教育コース)および獣医学科(平成23年度入学生まで所属)の4学科ならびに特別コース(農・水産分野からなる国際食料資源学特別コース)から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。

水産学部



水産学科
／国際食料資源学特別コース(水産学系サブコース)

水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、高度で先端的教育を受けた技術者を養成し、水産海洋科学の分野から、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。平成15年には大学教育の分野では初めて、国際的な品質基準であるISO9001認証を取得した。また、平成27年には、カリキュラム改革に伴い、教育分野を再編成した。また、農学部と連携した国際食料資源学特別コースを設置、グローバル人材の育成を強化している。

共同獣医学部



獣医学科

共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指している。教育病院である附属動物病院には軽種馬診療センターが併設され、伴侶動物だけでなく、産業動物の中核動物診療施設としても地域に貢献する。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、高病原性鳥インフルエンザや狂犬病などの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

人文社会科学研究科

人文社会科学研究科は、平成10年、既に開設されていた法学研究科〔昭和54(1979)年設置〕、人文科学研究科〔昭和61(1986)年設置〕を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

博士前期課程

- 法学専攻
- 経済社会システム専攻
- 人間環境文化論専攻
- 国際総合文化論専攻

博士後期課程

- 地域政策科学専攻

教育学研究科

教育学研究科は、平成21年4月に「学校教育専攻」と「教科教育専攻」の2専攻から「教育実践総合専攻」の1専攻に改組された。すなわち、教科や学問分野に細分化されたコース・専修を融合し、より広範な単位である学修コースを設置することによって、現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導が可能となり、視野の広い高度の専門的知識・技能を背景に、広く教育の分野において優れた指導力を有する高度専門職業人の養成を図ることとしている。

さらに、小学校以外の教員免許状を取得している人においては「小学校教員免許取得プログラム(長期在学履修)」も選択できるようになった。なお、現職教員をはじめとする社会人が夜間でも受講可能で修士の学位を取得することのできる昼夜開講制を実施している。

修士課程

- 教育実践総合専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ高度専門職業人ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度専門職業人の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究ができる人材の育成、(4)離島・へき地を含めた地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、平成24年度には放射線看護専門コース(定員2名)を、平成26年度には助産学コース(定員7名)を博士前期課程(看護学領域)に設置した。

博士前期課程

- 保健学専攻

博士後期課程

- 保健学専攻

理工学研究科

理工学研究科は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもと、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極め、社会の発展に寄与する高度専門職業人の育成を目的としている。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に1専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

博士前期課程

- 機械工学専攻
- 電気電子工学専攻
- 建築学専攻
- 化学生命・化学工学専攻
- 海洋土木工学専攻
- 情報生体システム工学専攻
- 数理情報科学専攻
- 物理・宇宙専攻
- 生命化学専攻
- 地球環境科学専攻

博士後期課程

- 総合理工学専攻

農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端的技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発を中心とした教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・創造力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

修士課程

- 生物生産学専攻
- 生物資源化学専攻
- 生物環境学専攻

水産学研究科

水産学研究科では、水圏科学、水産資源科学、食品生命科学、水産経済学、水圏環境保全学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は水産企業や食品企業、研究機関などで専門的な仕事についている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)に進学する者もいる。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、修了に必要な全ての学修を英語で行える留学生プログラムもある。

フィリピン大学ピサヤス校等との大学院生レベルでの交流事業も活発に行われており、平成27年度からは「熱帯水産学国際連携コース」がスタートした。アジア各国の研究科が開設した熱帯水産学国際連携プログラムでの学修により、グローバルな視野を有する国際的に通用性の高い人材の育成強化に努めている。

修士課程

- 水産学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座(63研究分野)、3プロジェクト講座、4連携講座のほか、HTLV-1をはじめとしたウイルス性疾患の病態制御をめざした難治ウイルス病態制御研究センター(平成16年4月)、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)を含む7研究センター、5寄附講座が設置されている。

修士課程

- 医科学専攻

博士課程

- 健康科学専攻
- 先進治療科学専攻

司法政策研究科

司法政策研究科(法科大学院)は、平成16年4月設置の、3年を標準年限とする専門職大学院である。司法過疎と呼ばれる南九州に位置する法科大学院として、これからの司法を構想、実現していく活動的な法曹を養成することを目的とし、修了者には「法務博士(専門職)」の学位と司法試験の受験資格が授与される。専任教員13名(研究者教員9名、実務家教員4名)のほか、非常勤講師30人の教員のもとで徹底した少人数教育を行い、法律実務家を目指す問題意識や関心を育てつつ、21世紀の我が国社会を支える法曹としての能力を涵養している。

なお、当研究科は、平成27年度より学生募集を停止し、法科大学院の課程で展開した高度な教育ノウハウをはじめ、遠隔講義システムや各種データベースなどの教育研究環境などを、新たに設けられた司法政策教育研究センターで継承することとしており、今後も鹿児島大学として、南九州の法律系人材養成とその充実の拠点としての役割を果たすこととなっている。

専門職学位課程

- 法曹実務専攻

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理分野の専門職学位課程であり高度専門職業人の臨床心理士養成に特化した国立大学初の独立研究科として平成19年度に設置され、学位は臨床心理修士（専門職）である。教育理念に（1）個別支援、集団支援、地域文化を理解した地域支援、危機介入支援ができる人材（2）教育、福祉、医療、司法矯正領域での即戦力となる人材の育成を掲げ、21世紀の国民のこころの健康に寄与することを目的としている。学内実習・学外実習を充実強化した2年間の教育課程を編成し、講義・演習・実習を連動させた個別・少人数制の指導を展開している。

入学定員は15名で、修了後は全国各地で公務員心理職、教育委員会、児童養護施設、精神科や一般病院、家庭裁判所調査官や少年鑑別所技官などの心理専門職に就き、8期生まで100%の就職率及び臨床心理士資格取得率98%の実績がある。



専門職学位課程

臨床心理学専攻

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して安全・安心な食料生産と生物資源の環境保全を目指す、農林水産学分野における高度な専門教育と研究を行っている。3つの専攻の中には農学・林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業（タカラバイオ（株））との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座など、特徴ある分野が設置されている。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国内外の幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

（注）連合農学研究科は、3大学（佐賀、琉球、鹿児島）で構成



博士課程

生物生産科学専攻

応用生命科学専攻

農水圏資源環境科学専攻

山口大学連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、基礎獣医学、病態予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成る。学生の入学定員は12人で創造性豊かで高度の専門知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、相互の親睦と連携感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。

独立行政法人農業生物資源研究所、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所、国立感染症研究所、日本中央競馬会との連携協力により、教育研究交流活動の活性化が図られている。

（注）山口大学連合獣医学研究科は3大学（鹿児島、鳥取、山口）で構成



博士課程

獣医学専攻

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児36人、5歳児36人、計3学級92人が在籍している。研究主題に『「遊ぶ子ども 学ぶ子ども」を育む保育を目指して』を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。また、学部と連携し研究を深めるとともに、親と子が共に育つ場としての幼稚園を目指している。



附属小学校

附属小学校は創立139周年を迎え、児童数879名(学級数27)で国立大学法人の附属小学校の中でも大規模を誇る学校である。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命を持ち、複式教育や外国語教育における先進的な研究、実践でも高い評価を得ている。平成23年度から二学期制を導入しており、平成24年度の入学児童からは、1学級35名の定員としている。



附属中学校

附属中学校は、創立65年目を迎え、596名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、その1本1本に校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の名をもつシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒60人が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



医学部・歯学部附属病院

医学部・歯学部附属病院は、平成15年10月に医学附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

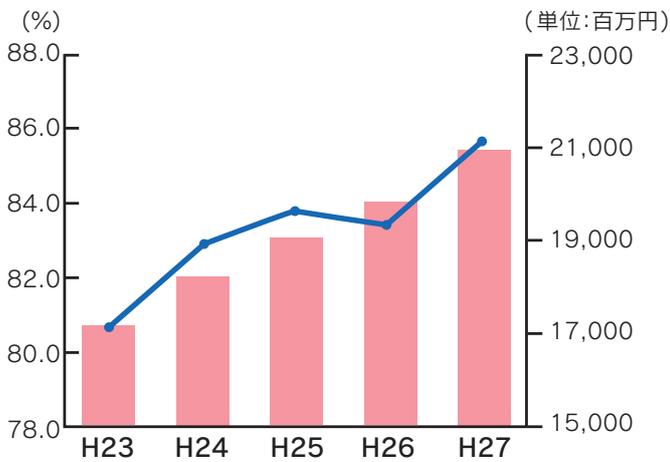
平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

また、平成14年に、医療提供の質が多面的に評価され、九州の国立大学病院として初めて日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を取得し、さらに、平成20年には病院機能評価Ver.5の認定取得、平成24年度にはVer.6が認定され、また、平成26年4月には、県より救命救急センターとしての指定を受け、平成26年1月にC棟に整備した屋上ヘリポートを有効活用し、救急患者の受入態勢の充実を目指している。

教育面では、平成25年度に「総合臨床研修センター」が設置され、センターが中心となり、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努めている。

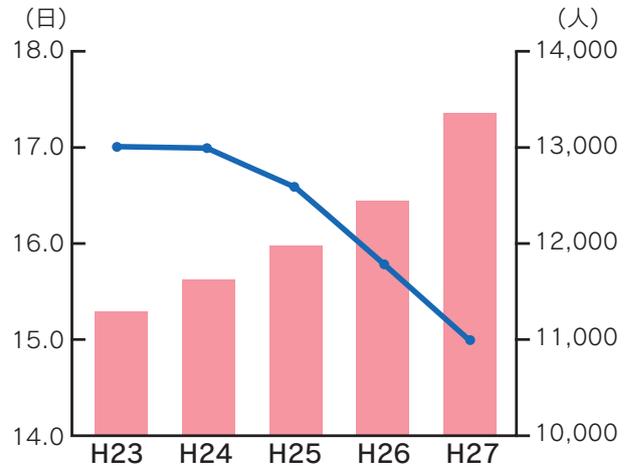
診療センター	部門科	中央診療施設等
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救命救急センター(救急科) ■集中治療部 ■輸血・細胞治療部 ■周産母子センター ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部(病理診断科) ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■HIV対策室 ■緩和ケアセンター ■歯科口腔ケアセンター ■超音波センター ■ME機器センター ■探索的医療開発センター
消化器センター	消化器内科 消化器外科	■医療器材管理部 ■医療情報部 ■総合臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室 ■臨床研究管理センター ■看護師特定行為研修センター
脳・神経センター	神経内科 脳神経外科	■薬剤部
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科	■看護部
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科	■臨床技術部
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・甲状腺外科	■事務部
メンタルケアセンター	神経科精神科	
小児診療センター	小児科 小児外科	
女性診療センター	産科、婦人科	
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科	
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科	
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科	
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科	
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科	
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科	

診療報酬請求稼働額と病床稼働率の推移



	H23	H24	H25	H26	H27
稼働額 (百万円)	17,132	18,202	19,032	19,795	20,920
病床稼働率 (%)	80.7	82.9	83.8	83.4	85.7

平均在院日数 (一般病床) と新入院患者数の推移



	H23	H24	H25	H26	H27
新入院患者数 (人)	11,287	11,601	11,973	12,444	13,364
平均在院日数 (日)	17.0	17.0	16.6	15.8	15.0



▲医科診療棟



▲歯科診療棟

病床数

	床
一般病床	662
精神病床	40
感染症病床	1
霧島リハビリテーションセンター	50
結核病床 (休床)	13
医学部・歯学部附属病院合計	766



▲霧島リハビリテーションセンター

附属動物病院

鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院は、学部附属の教育施設であり、将来の獣医師を養成するための重要な教育病院である。動物の診断や治療に関する各種研究活動も行っており、地域獣医療の中核病院としても機能している。診療対象動物は、犬や猫といった伴侶動物の他に、地域性も背景とした産業動物の比率も大きく、この分野における機能が充実した数少ない病院でもある。平成20年には他の獣医系大学では類を見ない軽種馬診療センターも設置し、馬の診療にも対応している。共同獣医学部では国際的な獣医学教育に関する認証取得を目指しているが、その一環として動物病院も平成29年度より臨床獣医学研修センターとして機能すべく、伴侶動物診療のための新病院の新築、ならびに産業動物診療に関する施設の改修を行っているところである。



▲軽種馬診療センター



▲手術の様子

診療時間	9:00 ~ 11:30 (予約制)
月~金曜日	14:00 ~ 16:30 (予約制)
	19:00 ~ 23:00 (予約制・夜間診療)
休診	土曜日 日曜日 祝祭日

平成27年度診療件数					
伴侶動物					
伴	侶	系	3,651件		
検	査	系	681件		
産業動物					
馬	診	療	科	218件	
牛・山	羊	診	療	科	371件

教育関係共同利用拠点

各国立大学が有するさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、平成21年9月に認定制度が創設された。国立大学からの申請に基づき、文部科学大臣が認定を行う。

水産学部附属練習船かごしま丸

平成24年3月30日に新しい「かごしま丸(4代目)」が竣工し、平成24年度から運航を開始している。この船は、斜め移動やその場回頭などが可能な特殊操船能力を持った新鋭船である。今まで出来なかった荒海中での実験・観測をはじめ、最新の観測機器の導入による新しい研究・教育の充実が可能となった。この船は前かごしま丸(3代目)に引き続き、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点としての認定を受けている。この認定制度は、練習船ばかりでなく、留学生センターや農場などさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、新たに設けられたものである。

具体的には、かごしま丸は、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として認定された。これは、我が国南方の熱帯・亜熱帯水域が、水産資源や地球環境に大きな影響を及ぼすことと、この水域で長年活動してきたかごしま丸及び本学の実績が認められたものである。このため、本学学生ばかりでなく他大学の学生も、本船を利用して充実した乗船実習教育を受け単位を取得できるようになった。今後は、我が国ばかりでなく東南アジア・南太平洋水域も含めた、洋上教育の拠点としての活動が期待されている。



農学部附属高隈演習林

高隈演習林(垂水市)は、森林・林業に関する教育研究のための附属施設として旧制鹿児島高等農林学校時代の明治42(1909)年に開設された。総面積3061ヘクタール(垂水市の19%、本学が所有する土地の84%を占める)の広大な森林は、100年余り前から先人達が築き上げてきた人工林(屋久杉を起源とするスギやヒノキなど)がおよそ3分の1を占め、残りは南九州を代表する豊かな照葉樹の天然林に覆われている。演習林は主に農学部森林科学コースの学生によって、専門課程の実習や研究等で利用してきたが、平成12(2000)年ごろから専門課程以外の共通教育や他大学の授業で、あるいは地域貢献として児童生徒を対象とした森林環境教育や社会人を対象とした林業技術者教育など、利用の幅が大きく広がるようになってきた。

そこでこれまでの実績を基に、演習林のさらなる有効活用を図るため、平成26年度より高隈演習林は「鹿児島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点」として文部科学省より教育関係共同利用拠点到認定された。平成26年度は15大学等から延べ368人、平成27年度は24大学等から延べ702人の利用があり、平成28年度も林業教育、環境教育、防災教育、動植物教育など多様な分野でさらに多くの利用が計画されている。



附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元地区)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘地区)および水産学部分館(下荒田地区)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実に努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋地上5階地下2階建 (平成8年12月竣工)	
延床面積	12,697m ²
閲覧スペース	4,459m ²
サービススペース	2,044m ²
収蔵スペース	2,359m ²
歴史資料展示室	140m ²
事務室等	775m ²
その他	2,920m ²
総座席数	910席
収容可能冊数	972,000冊



【桜ヶ丘分館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

(偶数月の第1土曜日は14:00～18:00)

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋3階建 (昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築)	
延床面積	1,980m ²
閲覧スペース	1,229m ²
サービススペース	208m ²
収蔵スペース	189m ²
事務室等	211m ²
その他	143m ²
総座席数	158席
収容可能冊数	192,000冊



【水産学部分館】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

- 日曜日、国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建 (昭和45年2月竣工・平成26年3月改修)	
延床面積	795m ²
閲覧スペース	176m ²
サービススペース	137m ²
収蔵スペース	280m ²
事務室等	34m ²
その他	168m ²
総座席数	123席
収容可能冊数	63,500冊



【平成27年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	326	216,468	90,360	306,828	55,884	362,712
桜ヶ丘分館	343	52,113	26,401	78,514	11,962	90,476
水産学部分館	277	27,280	4,935	32,215	1,962	34,177
合 計		295,861	121,696	417,557	69,808	487,365

【蔵 書】

図書(冊)

(平成28年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	66,874	42,621	79,423	205,537	108,551	70,383	52,380	30,671	28,546	71,292	756,238
	桜ヶ丘分館	856	1,841	700	4,971	92,322	998	329	668	1,640	1,485	105,810
	水産学部分館	1,679	427	1,380	6,935	13,262	6,936	13,496	899	1,209	741	46,964
	小 計	69,409	44,889	81,503	217,443	214,095	78,317	66,205	32,238	31,395	73,518	909,012
洋書	中央図書館	14,988	18,163	17,081	53,233	83,755	19,338	19,975	5,047	13,759	32,810	278,149
	桜ヶ丘分館	739	367	117	677	76,013	93	74	83	402	427	78,992
	水産学部分館	400	105	246	639	5,405	2,250	4,096	243	281	68	13,733
	小 計	16,127	18,635	17,444	54,549	165,173	21,681	24,145	5,373	14,442	33,305	370,874
合 計	85,536	63,524	98,947	271,992	379,268	99,998	90,350	37,611	45,837	106,823	1,279,886	

学部・大学院等

雑誌(総種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	22,452	9,697	32,149
桜ヶ丘分館	4,149	2,903	7,052
水産学部分館	2,763	1,199	3,962
合 計	29,364	13,799	43,163



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馱謨、臼杵の各郡が比較的まとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	144点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

保健管理センター

保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的としている。

センターでは、専任の医師4名、保健師4名のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、精神神経科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および臨床心理士が心理相談にあっており、ソーシャルワーカーによる学生支援もある。

また、禁煙サポートの結果解析、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。平成25年8月より、桜ヶ丘分室への保健師1名の配置を開始した。



【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 禁煙サポート
- 心肺蘇生法講習会
- 産業医活動



教育センター（共通教育）

教育センターは、平成15年10月に設置され、その任務は「鹿児島大学の教育の充実・発展」と「共通教育の実施」である。

共通教育は、旧制第七高等学校時代以来、連綿と引き継がれてきた学士課程教育で、幅広い知識・教養・技能等を有するとともに、進取の精神、自主自律の精神に富み、深い歴史感覚、鋭い現実感覚、高い公共意識に裏付けられた判断力と構想力を有する個性豊かな人材の育成を目指しており、どの学部 of 学生にも必要な大学教育の大きな柱の一つとなっている。

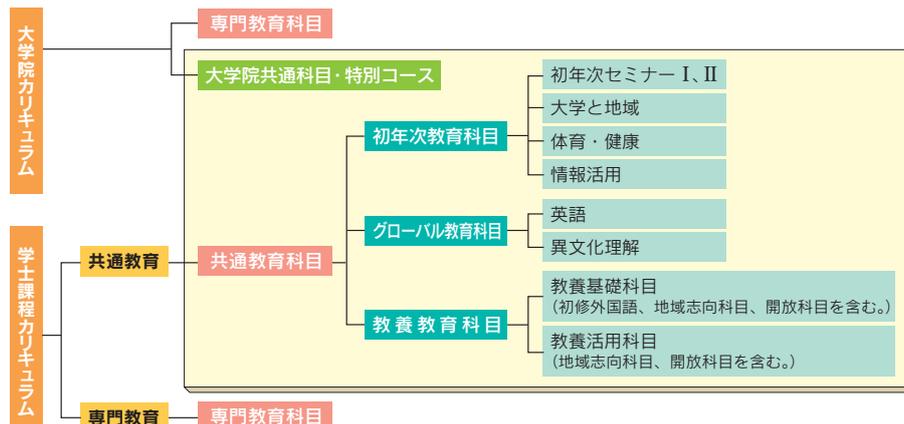
教育センターは、全学共通教育と外国語教育の企画・運営、学士課程教育の充実・推進と全学的ファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画・促進、さらには大学院共通科目・特別コースの企画・推進を目的としている。

教育センターの組織構成

【共通教育企画実施部】 共通教育科目の研究開発・実施	【高等教育研究開発部】 高等教育の教育方法・教育支援・FDの研究開発、授業改善・教育評価・自己点検などの研究開発	【外国語教育推進部】 全学の外国語教育の研究・改善・提言およびカリキュラム開発	【大学院共通科目・特別コース推進部】 大学院共通科目教育の企画・立案・実施
--------------------------------------	--	---	---

鹿児島大学教育課程

（大きな枠内が教育センターの教育）



▲共通教育科目「屋久島の環境文化II－生き物－」授業風景



▲共通教育棟1号館

稲盛アカデミー

昭和30年に鹿児島大学工学部を卒業された稲盛和夫京セラ株式会社名誉会長および京セラ株式会社からの寄付により、平成17年に、学内共同教育研究施設「稲盛経営技術アカデミー」として設置し、平成20年に「稲盛アカデミー」へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観と進取の精神を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」ことを基本理念としている。このため稲盛哲学(フィロソフィ)の探求および継承・発展を基盤に据えている。

学内向けプログラム

共通教育科目の提供：「稲盛経営哲学」、「進取の精神」などに関わる科目の開設
国内体験学習や海外研修などの学習機会の提供

学外向けプログラム

「履修証明制度」に基づく社会人向けプログラム「稲盛経営哲学」の実施
「公開シンポジウム」の実施



「稲盛アカデミーに学んだ若者達が、ベンチャー精神に燃え、素晴らしい社会のリーダーになっていくこと、そして鹿児島大学の名声をさらに高めていく」という稲盛名誉会長の期待に応えるべく、人材育成を目指した教育研究および社会貢献(人間教育、経営教育、地域・国際連携)を展開するとともに、名誉会長創設の国際賞、「京都賞」の受賞者講演会や関係行事などを通じた鹿児島県との連携・協働を図っている。

アドミッションセンター

アドミッションセンターは、入学者選抜方法等の調査・研究、入学試験データの分析・評価等を行うとともに、各学部と共同し、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜機能の検証、入学後の学業成績の追跡調査、学生確保に係る広報活動及び全国的な志願者動向を踏まえた志願状況の分析等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として活動している。

【業務内容】

- 高等学校及び高校生と大学との相互理解を深める「高校訪問」の企画実施
- 高校生やその保護者等の団体に対して進学支援の機会を提供する「大学訪問」の実施
- 鹿児島県内各地への地域貢献及び連携強化を目的とした「鹿児島大学単独主催説明会」の企画実施
- 全国的な入試動向に関する説明会の企画実施



▲説明会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」の様子

グローバルセンター

グローバルセンターは鹿児島大学の教育と研究の国際化推進を目的に平成28年4月に設置された。次の3部門から成り、国際共同教育研究の促進を支援すると共に日本人学生の海外への留学、外国人留学生の受け入れを促進する。

キャンパス・グローバル化部門

- 国際プロジェクトの支援
- 海外の大学・研究機関との連携強化
- 国際社会に向けた情報発信

学生海外派遣部門

- 国際教育プログラム(P-SEG)の実施:
海外研修、学術交流協定校、トビタテ!留学JAPAN等の派遣留学促進
- 海外留学に必要な情報の提供、相談・指導
- 日本人学生と外国人留学生の協働学習促進

外国人留学生部門

- 全学留学生向け日本語、異文化理解、日本文化教育
- 外国人留学生への生活・学習支援
- 留学生と地域との交流促進



▲バングラデシュ学生海外研修の様子



▲留学生のポスターセッション。日本語で母国等を紹介

総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニュースレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲特別展



▲公開講座

国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島県からアジア・太平洋までを含む島嶼域を対象とした教育・研究を推進している。学内の兼務教員と協力して島嶼域の諸問題について先進的な教育・研究をおこなうとともに、英文学術誌『South Pacific Studies』を発行して世界の島嶼学研究を牽引し、研究会やシンポジウム、公開市民講座を通して研究成果を地域に還元している。平成27年度は三島・トカラ列島やミクロネシアにおいて兼務教員とともに総合学術調査をおこない、学術報告会を1回、研究会を10回、シンポジウムを2回開催した。鹿児島の島嶼域における研究成果については、高校生・大学生など将来の人材への育成や一般の方への知の還元のために『鹿児島の島々』『鹿児島大学島嶼研ブックレット』を発刊するとともに、英文書籍『The Amami Islands』（平成27年度出版）や『The Osumi Islands』（平成28年度出版予定）を出版して海外にも成果を発信している。また「島における教育」を積極的に実施しており、共通教育科目「島のしくみ」では与論島、大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースの「島嶼学概論I」では三島村硫黄島、「島嶼学概論II」では十島村中之島、「太平洋島嶼学特論」ではミクロネシア連邦・グアムにおいて一部講義をおこなっている。さらに、平成27年4月に奄美市に国際島嶼教育研究センター奄美分室を設置し、文化・社会・生物の多様な地域として発展してきている奄美群島で急務である多様性維持機構の解明と保全の活動を行っている。

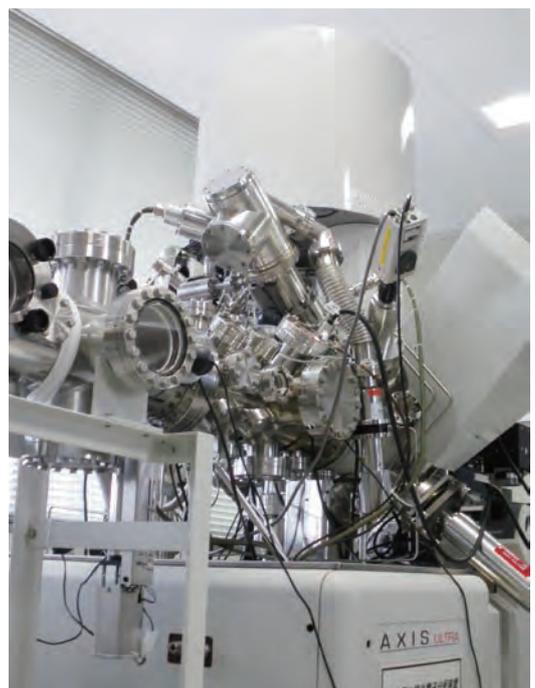


▲大学院全学横断型教育プログラム・島嶼学教育コースのオープン科目「太平洋島嶼学特論」の様子（ミクロネシア連邦チューク州）

自然科学教育研究支援センター

自然科学教育研究支援センターは、4施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。



▲走査型X線光電子分析装置（島津AXIS-ULTRA DLD）

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点的先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

遺伝子発現制御学分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタ及び疾患モデルブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(松原修一郎准教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・薬剤耐性など癌の特性を担う癌幹細胞に対する治療戦略の開発研究、腫瘍内微小環境で癌細胞を取り巻く宿主の細胞群と癌細胞との相互作用における癌幹細胞の役割についての基礎研究およびミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を研究課題の中心としている。

また産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第3回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2015年3月24日)

かごしま COC センター

かごしまCOCセンターは、平成26年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された「火山と島嶼を有する鹿児島島の地域再生プログラム」(COC事業)を推進する地域活性化の中核拠点として平成26年10月に設置され、平成27年7月には生涯学習教育研究センターを再編統合した。本学が地域とともに社会の発展に貢献する総合大学となるために、特徴的な地域課題(防災、災害時医療、農林畜産業、水産業、水、エネルギー、離島医療、流通輸送、地域教育、環境、観光等)を自治体と協働して解決し、その成果を地域志向力のある人材養成や地域社会の再生・活性化に繋げる活動を行っている。

教育部門

- 大学と地域の関わり合いを通じて、大学で学ぶための基礎学力を育成
- 鹿児島の現状と課題に関する理解と地域マインドの醸成
- 多様な地域志向科目(共通教育)及び地域関連科目(専門教育)による地域課題解決力や地域貢献力の養成

研究部門

- 地方自治体との連携による地域課題解決の推進
- 地域課題に取り組む地域志向教育研究の推進とその成果の活用
- 島嶼、環境、食と健康などの重点領域研究の推進

社会貢献・生涯学習部門

- 地域志向型研究成果の生涯学習への展開
- 地域ニーズに即した社会人向け専門教育、生涯学習の場の提供
- 地域志向型視点を持った教員と学生による研究成果の現場活用の推進



▲かごしまCOCセンター



▲平成26年度地域志向教育研究経費教育研究成果報告会(平成27年11月 薩摩川内市)

産学官連携推進センター

産学官連携推進センターは、鹿児島大学が地域とともに社会に貢献するために、産業界や地方公共団体などと鹿児島大学の教員の連携活動を計画・推進・支援することを目的とした組織である。

産学官連携部門

地域社会、地方公共団体や民間企業等外部機関との共同研究、技術開発、技術教育などに関する要請に対して、地域の拠点である鹿児島大学のさまざまな「知」を広く社会に提供するための基盤とネットワークの整備、企画、コーディネートを行っている。

知的財産部門

教育研究活動の中で生まれた知的財産を一元的に管理するとともに、知的財産の創出、権利化、維持及び活用の戦略的な推進を図っている。特許の活用については、企業への技術移転を拡充し、社会貢献を推進する。また、知的財産に係る教育・啓発活動、知的財産関係契約業務と支援を行っている。

事業化支援部門

ベンチャー企業や産学官連携事業のためのインキュベーション機能を有する教育研究施設。インキュベーションプロジェクトとしては、ナノテクノロジー・バイオテクノロジー関連および社会科学関連の研究テーマも受け入れている。

ベンチャー創業時に必要な実践ビジネス教育プログラムとして、「知的財産戦略構築実務論」や「技術経営と社会連携」を大学院科目として開講している。

COC+推進部門

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、県内7校、鹿児島県及び企業団体等とともに、オール鹿児島で学卒者の地元就職率向上に向けた教育プログラムの構築、インターンシップや就職支援の整備充実のほか、食と観光に関する産業を中心とした新規事業創出及び既存雇用拡大による雇用創出を目指している。



▲認定コーディネーター研修会



◀研究シーズ集2015

地域防災教育研究センター

南九州から南西諸島にかけては、豪雨、台風、火山噴火、地震・津波などに起因する様々な自然災害が発生している。地域防災教育研究センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携して取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指している。

なお本センターでは上記した自然災害だけでなく、原子力発電所の立地県であることも考慮して、以下のような部門・分野を置き、地域防災に関する様々な活動を行っている。

調査研究部門

総合防災分野: 災害時の応急対応、災害心理・災害時医療、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

水害・土砂災害分野: 台風、大雨による洪水害、山崩れ、土石流などによる土砂災害に関する調査研究

火山災害分野: 桜島や霧島等の噴火に伴う災害に関する調査研究

地震・津波災害分野: 地震・津波によって引き起こされる災害に関する調査研究

放射線災害分野: 放射線によって引き起こされる災害に関する調査研究

教育部門

- 本学の共通教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営
- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援、防災士資格取得支援

地域連携部門

- 地方公共団体、地域住民と連携した地域防災に係る課題の解決
- 自治体、自主防災組織、企業等からの防災に関する問い合わせの対応



▲平成27年度「広島豪雨災害に学ぶ」シンポジウム
(平成28年2月 鹿児島市)

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、電子計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、事業継続計画対策、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT 相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

特に、情報セキュリティマネジメントシステムJIS Q 27001 (ISO/IEC27001)の認証を取得し、国際的な情報セキュリティ基準の下、安全な情報サービスを提供している。さらに平成28年度からは、サイバーセキュリティ戦略室が設置され、さらなるセキュリティ対策の強化および、事業継続計画対策、セキュリティ啓発活動、緊急を要するセキュリティ事案への迅速な対応を行う体制を整えている。

また、研究開発を行う情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門が置かれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内部局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



埋蔵文化財調査センター

鹿児島大学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパス、唐湊学生寮と入来牧場には埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されている。埋蔵文化財調査センターは、施設整備事業等にもなって影響を受けるこれらキャンパス内遺跡の保護対策を講ずることを目的としている。事業としては、校舎建設等工事に伴い発掘調査などの調査を実施し、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成等を行っている。また調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。



▲発掘調査の様子

北米教育研究センター

米国カリフォルニア州サンノゼ市に、海外拠点として北米教育研究センターを置いている。平成16年に産学連携ベンチャービジネス部門のシリコンバレー・オフィスとしてスタートし、平成20年に全学組織へと発展した。平成23年には、本学のブランチ・オフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実ともに海外拠点としての体制を整えた。センターは、1) 学生海外研修やインターンシップの実施、2) 北米における大学や企業等との連携、3) ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間ネットワークであるJUMBAへの参加、情報交換などを行っている。



▲北米教育研究センターのあるビル



▲カリフォルニア学生海外研修の様子

フィリピン大学ピサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ピサヤス校 (UPV) の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミヤガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピンから採用された准教授が常駐していた時期もあり、水産資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研究の拠点となっている。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行っている。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており、平成27年度から開始された国際連携プログラム「熱帯水産学国際連携コース」などによる大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ピサヤス校



▲ピサヤス校ミヤガオ・キャンパス

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

ベトナム事務所には客員教授を配置し、(1) ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2) ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3) ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4) その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するなど、ベトナム教育研究交流活動を行っている。



▲この建物の11階に事務所が入っている

鹿児島大学奄美群島拠点

奄美群島拠点は、鹿児島大学の機能強化の一環として、奄美群島における地域活性化の中核的拠点として教育、研究及び社会貢献活動を推進し、地域課題を解決することを目的として設置された。この拠点は、(1)国際島嶼教育研究センター奄美分室、(2)奄美島嶼実験室、(3)奄美サテライト教室、(4)徳之島サテライト教室、(5)与論活性化センター、(6)与論水産実験室の6つの施設から構成されている。

国際島嶼教育研究センター奄美分室(奄美市)

国際島嶼教育研究センター奄美分室は、奄美群島拠点の6つの施設の中で唯一教職員が常駐しており、奄美群島拠点の中核的施設である。平成27年4月に奄美市名瀬の旧名瀬保健所跡に設置された奄美分室内には、教職員スペースのほかに、中学生・高校生に鹿児島大学や大学生活を紹介するスペースや奄美群島の社会・文化・自然などに関連する書籍を準備し、教育・研究及び地域貢献を推進することを目的としている。また、この施設の近くには、奄美島嶼実験室(名瀬公民館金久分館内)や教職員・学生が利用できる宿泊所(名瀬長浜町)がある。



▲分室内の大学紹介スペース

奄美サテライト教室(奄美市)・徳之島サテライト教室(徳之島町)

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市(旧名瀬市)に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町にもサテライト教室が開設された。

科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学部研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景



司法政策教育研究センター

鹿児島大学司法政策教育研究センターは、平成27年3月に、司法政策研究科による法科大学院での法曹養成の経験とノウハウを継承し、法学分野の教育研究の高度化や法律系人材の養成・充実を実現する基盤を確保することや、法科大学院修了後の司法試験受験のサポートを含む法曹志願者の支援、地域で活躍している法律系人材や各種専門職のニーズに応えるリカレントや職能高度化の場の提供、臨床法学教育の推進とともに地域貢献活動の一層の充実を図ることなどを目的として設置された。

法律系総合情報データベースの提供や、センター相談室での無料法律相談、司法修習生や若手弁護士向けのロイヤリング実践セミナー、離島等司法過疎地における法律相談実習等の事業をはじめ、若手弁護士をチューターとする法務学修生や法科大学院生向けの学修支援を実施している。

これまでの「地域に学び、地域に貢献する」という理念を継承し、今後も、鹿児島大学が南九州における法学系の知の拠点として相応しいものとなるような事業を企画・整備し、実施して行く予定である。



男女共同参画推進センター

男女共同参画推進センター(愛称:“muse篤姫”)は、鹿児島大学男女共同参画基本理念に基づき、「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」をスローガンに掲げ、男女共同参画に係る広報・意識啓発、教職員のワーク・ライフ・バランス支援、女性研究者支援ならびに次世代女性研究者育成など、各種イベントや学内外関係機関との連携を通じて、鹿児島大学の男女共同参画を推進しています。



就職支援センター

全学的な就職支援に関する企画立案及び実施の充実を図ることを目的として設置された就職支援センターは、学部や研究科、学年を問わず、学生のキャリア観を育成し、主体的かつ適切な進路選択を支援するため、主に次のような業務に取り組んでいる。

- (1) 就職支援戦略に関すること
- (2) 就職支援に関すること
- (3) キャリア教育支援に関すること
- (4) 就職支援に係る広報に関すること
- (5) その他本学における就職に関すること



ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、平成20年7月に設置され、学生が様々なボランティア活動に参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整、災害支援ボランティア活動を行う学生に対する活動費の一部助成などの業務を行って、学生がボランティア活動に参加しやすい環境を設けて支援している。



障害学生支援センター

障害学生支援センターでは、つまずきを感じている学生や障害を有する学生および保護者、担当教員からの修学に関わる相談に応じている。専任教員および事務職員が常駐し、障害を有する学生への支援を円滑に実施するため、各部署や保健管理センターと連携を取りながら、必要であれば、支援申請書の提出や修学支援会議を実施し、障害を有する学生が自分らしく豊かな学生生活を送ることができるように、支援を行っている。



■学 部

(平成28年5月1日現在)

学 部	学 科・課 程	入 学 定 員	3年次編入学員	収 容 定 員	現 員							
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
法文学部	法 政 策 学 科	95	10	380	102 (38)	101 (37)	103 (38)	124 (49)	-	-	430 (162)	
	経 済 情 報 学 科	145		580	150 (73)	146 (69)	154 (77)	185 (80)	-	-	635 (299)	
	人 文 学 科	155		620	159 (108)	157 (121)	165 (114)	219 (154)	-	-	700 (497)	
	小 計	395		1,600	411 (219)	404 (227)	422 (229)	528 (283)	-	-	1,765 (958)	
教育学部	学校教育教員養成課程	225	10	900	238 (119)	229 (110)	234 (130)	272 (131)	-	-	973 (490)	
	特別支援教育教員養成課程	15		60	16 (9)	17 (16)	16 (13)	18 (12)	-	-	67 (50)	
	生涯教育総合課程	35		140	38 (23)	38 (24)	39 (32)	51 (32)	-	-	166 (111)	
	小 計	275		1,100	292 (151)	284 (150)	289 (175)	341 (175)	-	-	1,206 (651)	
理学部	数理情報科学科	40	10	160	42 (5)	41 (4)	66 (8)	32 (2)	-	-	181 (19)	
	物 理 科 学 科	45		180	45 (12)	46 (8)	66 (12)	42 (6)	-	-	199 (38)	
	生 命 化 学 科	50		200	54 (24)	51 (20)	57 (19)	52 (18)	-	-	214 (81)	
	地球環境科学科	50		200	52 (11)	53 (19)	65 (25)	50 (19)	-	-	220 (74)	
	小 計	185		740	193 (52)	191 (51)	254 (64)	176 (45)	-	-	814 (212)	
医学部	医 学 科	107	10	692	108 (23)	108 (34)	121 (43)	131 (43)	111 (32)	131 (58)	710 (233)	
	保 健 学 科	120	20	520	120 (91)	120 (99)	135 (99)	125 (95)	-	-	500 (384)	
	小 計	227	30	1,212	228 (114)	228 (133)	256 (142)	256 (138)	111 (32)	131 (58)	1,210 (617)	
歯学部	歯 学 科	53		318	55 (29)	59 (34)	46 (25)	46 (27)	55 (27)	59 (19)	320 (161)	
工学部	機 械 工 学 科	94	20	376	111 (8)	114 (6)	103 (4)	117 (2)	-	-	445 (20)	
	電 気 電 子 工 学 科	78		312	98 (3)	110 (1)	98 (4)	69 (1)	-	-	375 (9)	
	建 築 学 科	55		220	69 (16)	71 (15)	54 (15)	61 (21)	-	-	255 (67)	
	環境化学プロセス工学科	35		140	41 (12)	38 (9)	39 (11)	38 (10)	-	-	156 (42)	
	海洋土木工学科	48		192	52 (2)	54 (8)	60 (9)	47 (5)	-	-	213 (24)	
	情報生体システム工学科	80		320	93 (17)	99 (15)	90 (8)	87 (11)	-	-	369 (51)	
	化学生命工学科	50		200	57 (25)	60 (15)	47 (9)	53 (17)	-	-	217 (66)	
	小 計	440		1,800	521 (83)	546 (69)	491 (60)	472 (67)	-	-	2,030 (279)	
	農学部	農業生産科学科		75	10	300	84 (44)				-	-
食料生命科学科		70	280	72 (44)					-	-	72 (44)	
農林環境科学科		60	240	57 (20)					-	-	57 (20)	
生物生産学科※						84 (33)	85 (37)	95 (44)	-	-	264 (114)	
生物資源化学科※							65 (33)	67 (34)	75 (32)	-	-	207 (99)
生物環境学科※							64 (18)	65 (28)	80 (24)	-	-	209 (70)
獣 医 学 科 ※											36 (22)	36 (22)
小 計	205	820	213 (108)	213 (84)	217 (99)	250 (100)	0 (0)	36 (22)	929 (413)			
水産学部	水 産 学 科	140	10	560	145 (45)	144 (39)	142 (39)	138 (30)	-	-	569 (153)	
	水産教員養成課程※						13 (4)	10 (5)	-	-	23 (9)	
	小 計	140		560	145 (45)	144 (39)	155 (43)	148 (35)	-	-	592 (162)	
共同獣医学部	獣 医 学 科	30		180	32 (14)	35 (16)	33 (14)	32 (12)	27 (10)		159 (66)	
合 計		1,950	60	8,330	2,090 (815)	2,104 (803)	2,163 (851)	2,249 (882)	193 (69)	226 (99)	9,025 (3,519)	

- (注) 1. ()は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。
 2. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。
 3. ※は旧学科、旧課程を表す。
 4. 農学部及び水産学部の国際食料資源学特別コースの現員は学科に含まれる。

<東京海洋大学水産専攻科>

入 学 定 員	現 員
10	2

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。

■大学院

(平成28年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	現 員								合 計
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	56	25 (17)	31 (20)	56 (37)	-	-	-	-	-	56 (37)
	6	18	-	-	-	4 (4)	3 (2)	13 (4)	-	20 (10)	20 (10)
教育学研究科	38	76	35 (20)	41 (24)	76 (44)	-	-	-	-	-	76 (44)
保健学研究科	22	44	22 (11)	30 (16)	52 (27)	-	-	-	-	-	52 (27)
	6	18	-	-	-	4 (3)	4 (3)	9 (6)	-	17 (12)	17 (12)
理工学研究科	286	572	293 (32)	304 (51)	597 (83)	-	-	-	-	-	597 (83)
	24	72	-	-	-	18 (1)	16 (4)	21 (5)	-	55 (10)	55 (10)
農学研究科	69	138	59 (27)	44 (19)	103 (46)	-	-	-	-	-	103 (46)
水産学研究科	32	64	32 (10)	31 (9)	63 (19)	-	-	-	-	-	63 (19)
医歯学総合研究科	10	20	9 (2)	10 (5)	19 (7)	-	-	-	-	-	19 (7)
	50	200	-	-	-	51 (17)	39 (13)	53 (14)	166 (36)	309 (80)	309 (80)
司法政策研究科※			-	-	-	-	-	4 (3)	-	4 (3)	4 (3)
臨床心理学研究科	15	30	-	-	-	17 (15)	13 (9)	-	-	30 (24)	30 (24)
連合農学研究科	23	69	-	-	-	43 (17)	27 (8)	45 (12)	-	115 (37)	115 (37)
合 計	609	1,377	475 (119)	491 (144)	966 (263)	137 (57)	102 (39)	145 (44)	166 (36)	550 (176)	1,516 (439)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12		-	-	-	6 (2)	4 (0)	5 (2)	10 (3)	25 (7)	25 (7)

(注) 1. () は女子で内数。現員には外国人留学生を含む。

2. 司法政策研究科(法科大学院)、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。

3. 司法政策研究科(法科大学院)は平成27年度より募集停止。

4. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

5. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教員)に属する学生数である。

6. ※印は旧研究科である。

■大学院の社会人選抜入学者数

(平成28年5月1日現在)

研究科	平成28年度	
人文社会科学研究科	博士前期	2
	博士後期	-
教育学研究科		8
保健学研究科	博士前期	11
	博士後期	3
理工学研究科	博士前期	1
	博士後期	8
農学研究科		-
水産学研究科		1
医歯学総合研究科	修士課程	6
	博士課程	22
臨床心理学研究科		-
連合農学研究科		-
合 計		62

(注) 現職教員を含む。

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(平成28年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20	20	36	36	92	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	2年保育 15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(平成28年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
单式学級	1~4年	140	140	138	137	133			832	各学年4学級 計24学級
	5~6年	160					132	152		
複式学級	1年	8	8						47	1・2年で1学級
	2年	8		8						
	3年	8			8					3・4年で1学級 計3学級
	4年	8				8				
	5年	8					7			
6年	8						8			
合 計	1~4年 148 5~6年 168		148	146	145	141	139	160	879	計27学級

【教育学部附属中学校】

(平成28年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	200	199	198	199	596	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(平成28年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	小学部	3	3	3	1	3	3	3	16	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	6	6	7	-	-	-	19	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	8	9	8	-	-	-	25	各学年1学級 計3学級

学部

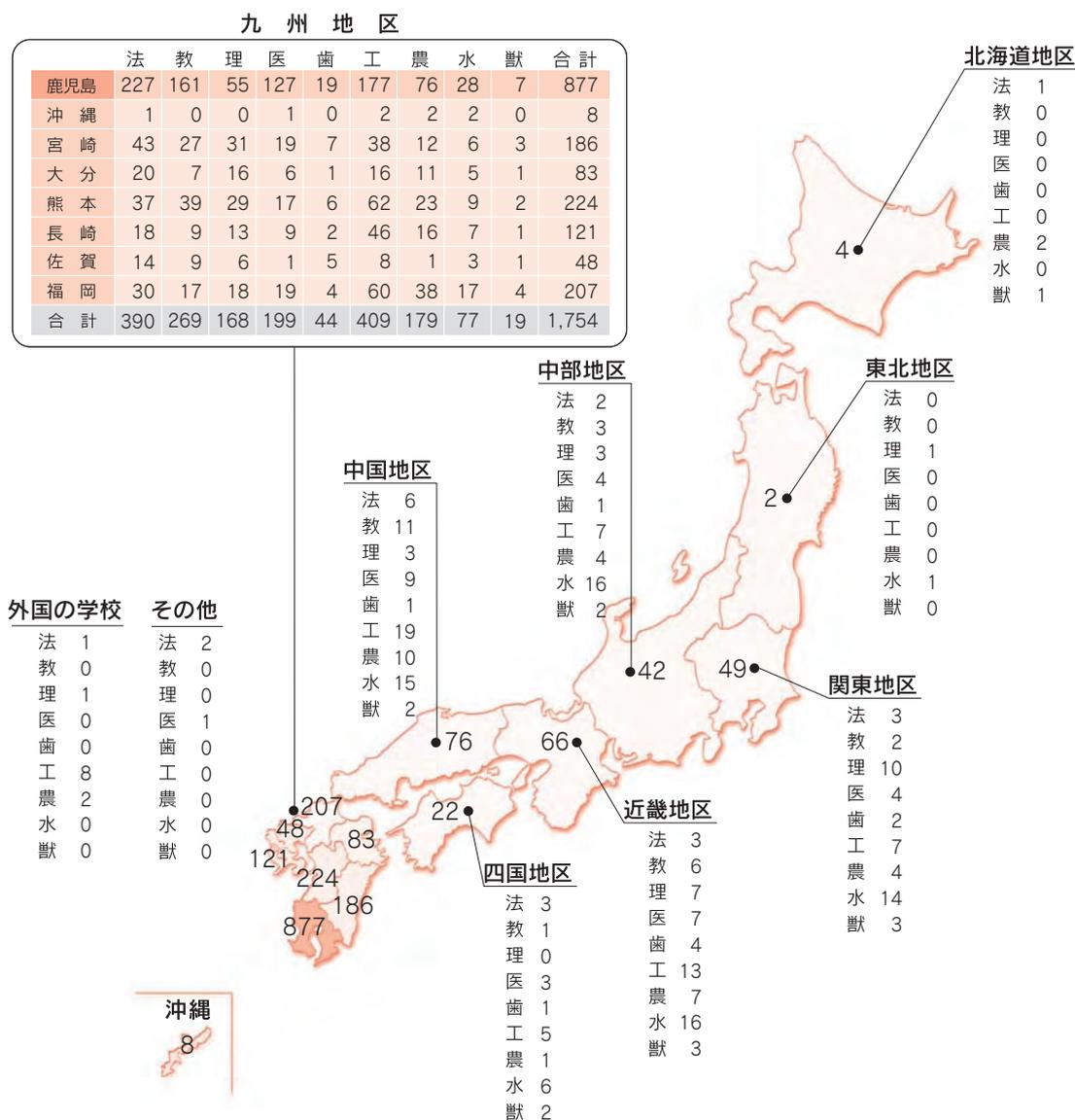
(平成28年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	395	1,482 (736)	411 (219)	55.2	44.8
教 育 学 部	275	1,036 (511)	292 (151)	55.1	44.9
理 学 部	185	530 (155)	193 (52)	28.5	71.5
医 学 部	227	1,281 (615)	227 (114)	55.9	44.1
歯 学 部	53	263 (106)	53 (28)	35.8	64.2
工 学 部	440	1,282 (216)	468 (80)	37.8	62.2
農 学 部	205	539 (254)	209 (106)	36.4	63.6
水 産 学 部	140	545 (172)	145 (45)	19.3	80.7
共同獣医学部	30	252 (110)	32 (14)	21.9	78.1
合 計	1,950	7,210 (2,875)	2,030 (809)	43.2	56.8

※()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。



学生等

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)

【修士課程・博士前期課程】

(平成28年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学	5	3	0	1	-	4	3	0	1	-	4	3	0	1	-	4	4
	経済社会システム	10	1	2	3	-	6	1	2	3	-	6	1	2	2	-	5	4
	人間環境文化論	5	4	0	6	-	10	3	0	6	-	9	3	0	5	-	8	8
	国際総合文化論	8	6	0	2	-	8	6	0	1	-	7	5	0	0	-	5	5
	計	28	14	2	12	-	28	13	2	11	-	26	12	2	8	-	22	21
教育学研究科	教育実践総合	38	31	9	5	-	45	31	9	5	-	45	30	8	3	-	41	35
保健学研究科	看護学	12	12	3	0	-	15	12	3	0	-	15	8	3	0	-	11	10
	理学療法・作業療法	10	4	8	0	-	12	4	8	0	-	12	4	8	0	-	12	12
	計	22	16	11	0	-	27	16	11	0	-	27	12	11	0	-	23	22
理工学研究科	機械工学	50	71	0	3	-	74	68	0	3	-	71	53	0	3	-	56	54
	電気電子工学	45	60	0	0	-	60	58	0	0	-	58	49	0	0	-	49	46
	建築学	25	37	0	1	-	38	37	0	1	-	38	34	0	0	-	34	34
	化学生命・化学工学	42	73	0	0	-	73	71	0	0	-	71	51	0	0	-	51	48
	海洋土木工学	18	20	0	0	-	20	19	0	0	-	19	16	0	0	-	16	13
	情報生体システム工学	42	64	0	0	-	64	64	0	0	-	64	51	0	0	-	51	40
	数理情報科学	14	17	0	0	-	17	15	0	0	-	15	14	0	0	-	14	10
	物理・宇宙	15	27	0	0	-	27	24	0	0	-	24	17	0	0	-	17	15
	生命化学	18	31	0	0	-	31	31	0	0	-	31	22	0	0	-	22	22
	地球環境科学	17	15	1	0	-	16	14	1	0	-	15	13	1	0	-	14	11
	計	286	415	1	4	-	420	401	1	4	-	406	320	1	3	-	324	293
農学研究科	生物生産学	26	36	0	0	-	36	35	0	0	-	35	31	0	0	-	31	30
	生物資源化学	21	15	0	0	3	18	14	0	0	3	17	13	0	0	3	16	14
	生物環境学	22	14	0	0	3	17	14	0	0	3	17	13	0	0	3	16	15
	計	69	65	0	0	6	71	63	0	0	6	69	57	0	0	6	63	59
水産学研究科	水産学	32	40	1	7	-	48	37	1	6	-	44	32	1	6	-	39	32
医歯学総合研究科	医科学	10	3	7	0	-	10	3	7	0	-	10	3	6	0	-	9	9
	合計	485	584	31	28	6	649	564	31	26	6	627	466	29	20	6	521	471

※教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(平成28年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学	6	0	1	1	4	0	1	1	4	0	1	1	4	3
			2		2		2								
保健学研究科	保健学	6	1	3	0	4	1	3	0	4	1	3	0	4	4
理工学研究科	総合理工学	24	9	5	2	16	9	5	2	16	9	5	2	16	15
			健康科学	19	15		4	0	19		15	4	0		
医歯学総合研究科	先進治療科学	31	7	16	3	26	7	16	3	26	7	16	3	26	26
			計	50	22		20	3	45		22	20	3		
連合農学研究科	生物生産科学	7	12	0	0	12	11	0	0	11	11	0	0	11	11
	応用生命科学	8	5	0	0	5	4	0	0	4	4	0	0	4	4
	農水圏資源環境科学	8	18	0	0	18	18	0	0	18	18	0	0	18	18
	計	23	35	0	0	35	33	0	0	33	33	0	0	33	33
	合計	109	67	29	6	104	65	29	6	102	65	29	6	102	100

※人文社会科学研究科の下段は、進学者選考の数を表す。

【専門職学位課程】

(平成28年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
臨床心理学研究科	臨床心理学	15	28	1	0	29	28	1	0	29	20	0	0	20	16
	合計	15	28	1	0	29	28	1	0	29	20	0	0	20	16

■卒業生数・就職状況

(平成28年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	平成27年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率(%)	業種別			地区別										
						農林業 漁業	建設業 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	16,219	370	298	284	95.3	1	93	115	65	3	7	48		3	2	1	85	143	2
教育学部	18,972	269	208	193	92.8		22	37	21	109	4	19		2	4		54	111	3
理学部	7,039	169	91	84	92.3		30	30	16	6	2	23	1	5	1		25	28	1
医学部	7,118	230	114	112	98.2			102	10			11				3		36	62
歯学部	2,002	47																	
工学部	18,308	423	159	158	99.4		111	30	17			58	9	19	1	1	41	28	1
農学部	12,780	240	176	170	96.6	7	57	51	45	3	7	30	4	9	7	1	67	52	
水産学部	7,701	127	87	87	100.0	4	49	18	9	5	2	19	8	10	2	1	21	24	2
(文理学部)	2,651																		
合計	92,790	1,875	1,133	1,088	96.0	12	362	383	183	126	22	208	22	48	20	4	329	448	9

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

■大学院修了生数

(平成28年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成27年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成27年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成27年度 修了生数
人文社会科学研究科	552	27	18	2	-	-
教育学研究科	770	35	-	-	-	-
保健学研究科	234	12	4	-	-	-
医学研究科*	-	-	581	-	-	-
理工学研究科	6,283	276	388	19	-	-
農学研究科	2,093	55	-	-	-	-
水産学研究科	1,193	40	-	-	-	-
医歯学総合研究科	163	8	338	39	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	140	5
臨床心理学研究科	-	-	-	-	119	17
連合農学研究科	-	-	695	14	-	-
法学研究科*	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科*	120	-	-	-	-	-
理学研究科*	539	-	-	-	-	-
歯学研究科*	-	-	112	-	-	-
合計	12,070	453	2,136	74	259	22

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
 2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(平成28年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	平成27年度 授与	累計	平成27年度授与	累計	平成27年度授与	累計	平成27年度 授与
人文社会科学研究科	552	27	31	6	1	-	-	-
教育学研究科	770	35	-	-	-	-	-	-
保健学研究科	234	12	9	1	1	-	-	-
医学研究科	-	-	701	1	1,484	-	-	-
歯学研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学研究科	6,283	276	438	20	73	1	-	-
農学研究科	2,093	55	-	-	-	-	-	-
水産学研究科	1,193	40	-	-	-	-	-	-
医歯学総合研究科	163	8	369	45	26	6	-	-
司法政策研究科	-	-	-	-	-	-	140	5
臨床心理学研究科	-	-	-	-	-	-	119	17
連合農学研究科	-	-	862	24	134	1	-	-
(法学研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
合計	12,070	453	2,546	97	1,790	8	259	22

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(平成28年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
		第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,765	461	403	24	888	50.3
	教育学部	1,206	306	243	22	571	47.3
	理学部	814	209	168	8	385	47.3
	医学部	1,210	227	222	12	461	38.1
	歯学部	320	47	60	2	109	34.1
	工学部	2,030	455	450	29	934	46.0
	農学部	929	202	159	7	368	39.6
	水産学部	592	108	109	4	221	37.3
	共同獣医学部	159	37	25	0	62	39.0
計	9,025	2,052	1,839	108	3,999	44.3	
大学院 (修士課程・ 博士前期課程)	人文社会科学研究科	56	3	0	0	3	5.4
	教育学研究科	76	5	2	0	7	9.2
	保健学研究科	52	5	0	0	5	9.6
	理工学研究科	597	174	23	3	200	33.5
	農学研究科	103	19	3	1	23	22.3
	水産学研究科	63	15	1	1	17	27.0
	歯学総合研究科	19	2	1	0	3	15.8
	計	966	223	30	5	258	26.7
大学院 (博士課程・ 博士後期課程)	人文社会科学研究科	20	2	0	3	5	25.0
	保健学研究科	17	1	0	0	1	5.9
	理工学研究科	55	11	1	1	13	23.6
	歯学総合研究科	309	12	0	1	13	4.2
	医学研究科				0	0	0.0
	連合農学研究科	115	10	0	2	12	10.4
	計	516	36	1	7	44	8.5
大学院 (専門職学位課程)	司法政策研究科	4	2	0	0	2	50.0
	臨床心理学研究科	30	8	2	0	10	33.3
	計	34	10	2	0	12	35.3

<備考：日本学生支援機構奨学金月額(平成28年度入学者)>

- 第一種奨学生
 - 学部生：自宅通学30,000・45,000円/自宅外通学 30,000・45,000円・51,000円
 - 大学院生：修士・博士前期課程 50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生
 - 学部生：30,000・50,000・80,000・100,000円・120,000円
 - 大学院生：50,000・80,000・100,000・130,000円・150,000円

■大学独自の経済支援制度

(1)鹿児島大学大学院メディポリス教育振興基金授業料免除

大学院に在籍する学生の修学・研究環境の向上等を図ることを目的として、財団法人メディポリス医学研究財団からの寄附金を原資とした鹿児島大学大学院メディポリス教育振興基金を平成23年度に設立し、学業、人物ともに優れ、かつ経済的支援を必要とする大学院学生(外国人留学生含む)に対して、毎年度、後期の授業料免除を実施している。

なお、平成27年度は、12名の後期の授業料全額免除を実施した。

(2)種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿児島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄付金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

◆重点領域研究

鹿児島大学では、南九州及び南西諸島域の地域活性化の中核的拠点を目指し、次の二種類の研究を推進している。

- (1) 地域社会の課題解決につながる、島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー等の研究、火山や地震等の防災研究、各分野の基盤研究
- (2) 国際水準の卓越した研究として、先進的感染制御（難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等）、生物多様性、先進的実験動物モデル（ミニブタ等）、天の川銀河、難治性がん等の研究

以下、上記の(1)の研究のうち、①島嶼、②環境、③食と健康、④水、⑤エネルギーについて紹介する。火山や地震等の防災研究については、**地域防災教育研究センター**の記載を参照のこと。

一方、(2)の研究のうち、⑥**先進的感染制御（難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等）**、⑦**天の川銀河**、⑧**難治性がん**についても紹介する。生物多様性については②及び**総合研究博物館**を、また、**先進的実験動物モデル（ミニブタ等）**については、**医用ミニブタ・先端医療開発研究センター**を参照のこと。

(1) 地域社会の課題解決につながる研究

① 島嶼

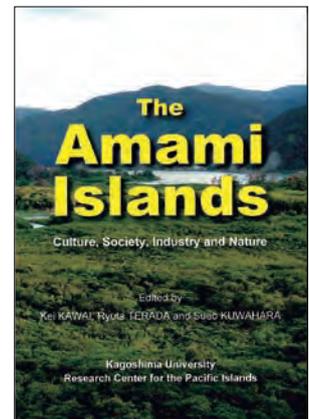
南九州からアジア・太平洋諸島域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化・情報環境の改善や向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトとデータベース作成が行われている。

環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクトでは、自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。

島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクトでは、人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。

島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクトでは、県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。

多島域データベースとして、鹿児島県南部の島嶼に関する文献データベースである「薩南諸島データベース」、国際島嶼教育研究センターの出版物データベースである「島嶼研出版物データベース」、奄美群島の自然科学系文献を対象にした「奄美生物多様性文献データベース」から成る『文献データベース』と鹿児島県島嶼統計資料から成る『資料データベース』を作成している。



▲平成27年度に奄美群島を対象に調査研究を行った成果をもとに奄美群島の文化・社会・産業・自然を英文で紹介した書籍「The Amami Islands」

教育・研究・社会貢献活動

② 環境

世界自然遺産に登録された屋久島と世界自然遺産登録を目指している奄美地域を抱える鹿児島県の豊かな自然環境に関して、地域とともに問題解決を模索する研究である**鹿児島環境学プロジェクト**と、生物多様性に関する全学的な研究を推進する**生物多様性プロジェクト**を進めている。

鹿児島環境学プロジェクトは、環境問題を地域から問い直し、屋久島や奄美という地域の諸課題を分析して現場において具体的な解決の道を探ろうとする学際的な研究である。平成27年度には、具体的な課題として世界自然遺産登録を目指す奄美大島において希少種保護の脅威となっているノネコ問題に焦点を当て、地域の暮らしと密接にかかわる複雑な要素を抱えるこの問題を考える際の視点の提示を行うとともに、学内外のメンバーからなる研究会と地域の学校、活動家、マスコミ、行政と協働して問題解決を模索した。その成果は希少種と捕食動物問題の先進地であるニュージーランドの研究者を交えた国際シンポジウムや講演会などを通じて地域住民と共有を図った。

生物多様性プロジェクトでは、文科省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点形成」等の研究者と協力して、魚類相調査、海岸の底生生物調査、陸水産甲殻類調査、魚類仔稚魚相の調査、哺乳類の分布調査、野生植物の遺伝特性の解析、アリ相の調査、海岸植生調査等を行った。重点的に調べた加計呂麻島では、人が残した陶器も林内にあり、人と自然の関わりが昔から大きかった事が分かった。



▲奄美国際ノネコ・シンポジウムで配布された龍郷町立大勝小学校5年生作成の絵本



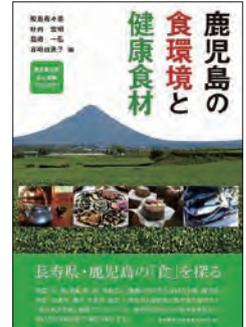
▲成果出版物「奄美群島の生物多様性」

③ 食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、日本における食料供給の重要拠点である。同時に、アジアにおける食料生産や食文化において、歴史的に重要な地理的特徴を有した地域といえる。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で食料の需要量の減少が見込まれるが、世界ではアジア圏などで急激に人口が増加することが明らかであり、食料供給ならびに食による健康的な生活を実現することは今後の大きな課題である。

「食と健康」プロジェクトでは、南九州に特徴のある農水産食品の健康機能性について、科学的な研究により生活習慣病予防や老年症候群等との関連を明確にする。また、農畜水産業の技術課題の解決と、これら事業を取り巻く社会環境の変化に対応する資源循環型持続的農漁村の再構築および安全な食生活を可能とする食育教育を推進する。これら地域と連携して行う学術研究の成果を応用して、アジア圏や地域の食を通じた、健康的な生活基盤の構築や農畜水産業に関わる地域食産業の振興に貢献すると同時に、国際的な研究拠点となることを目標とする農学・水産学・理工学・教育・医学など各研究科を連携した全学的研究・教育プロジェクトである。

鹿児島の高機能成分含有食材に注目した「黒膳プロジェクト」を進める他、平成27年度には、初の離島実施となった「第2回鹿児島の黒膳機能性食と健康シンポジウム」の開催、国際シンポジウムであるFood for Health International Conference 2016(健康のための食品国際大会2016)を主催した。



◀ 成果出版物「鹿児島島の食環境と健康食材」

④ 水

「水の未来を考える～地域における人と自然と水の関わり～」の視点から、地域の水利用や水源開発・保全、火山地域の水の流れ、豪雨地域の土砂・洪水災害、および南九州における水環境汚染など、鹿児島特有の水に関わる課題に対して、学内の学際的共同研究のもと研究を推進している。

課題「水資源と利水」では、鹿児島の特徴的な水資源である池田湖および島嶼域の地下水に関して、質と量の地域課題を把握し、水文科学的検討を加えている。また、小規模溜池の農業用利用に関して、奄美群島における過去の経験をフィリピンでの稲作利用に応用する可能性について社会経済的考察を加えている。

課題「水と災害」では、近年の気候変化に伴い、記録的な豪雨が各地で発生しており、大規模な土砂・洪水災害が目立っている。そこで、降水の流出機構を明らかにするとともに、大規模な土砂災害を引き起こす深層崩壊の発生箇所の予測、警戒対応等に関する理工学的研究を推進し、地域防災力の向上を図っている。

課題「水と生活」では、山川湾における赤潮の基礎調査および輝北ダムでのアオコの実態調査を行い、水環境保全のための基礎データの収集を行うとともに、対策について検討を加えている。



◀ 小規模溜池灌漑に関するフィリピンと鹿児島離島の比較調査(写真・フィリピンネグロス島シエラル・マル・多目的農業組合の小規模溜池)

⑤ エネルギー

バイオマス、太陽光、海洋エネルギーなど再生可能エネルギーを生産する実用技術の開発と、分散型再生可能エネルギーの利用システムの確立により、地域再生、環境保持、農工連携などの課題に対するソリューションを創出することを目的として、以下の分野での研究を推進している。

バイオリファイナリー技術開発: バガス等からバイオ燃料油を製造するプロセス技術の確立をめざし、産官学での共同プロジェクトを実施してきた。また、鹿児島の離島振興、農業畜産振興など地域再生に結びつけたバイオマス活用ビジネスモデル検討を農工連携で進めている。

太陽光発電システムの高度利用・高効率化: 太陽電池モジュールメーカーや国および県の研究機関と火山降灰・微粉塵等対策用太陽電池モジュールについて検討すると共に、積灰の抑制と発電量最大化の実現を目的として、降灰による発電量低下特性を明らかにするための実験を行っている。

バイオガス改質プロセスを利用した水素製造とCO2の分解: 多孔質酸化物イオン導体からなる電気化学反応器を用い、いちき串木野市の焼酎滓処理工場で生産されるバイオガスから水素を製造し、副生する一酸化炭素を固体炭素と酸素へ分解する。この実証試験を平成26-27年度に実施した。

海流・潮流エネルギーポテンシャルの調査: トカラ海峡の海流と長島海峡の潮流のパワーポテンシャルを調査した。今後は、鹿児島県の潮流発電実証実験候補の黒之瀬戸でのポテンシャル調査やトカラ海峡での水中浮遊式海流発電システムの実証実験を企業、自治体、漁協等と連携して推進する。

再生可能エネルギーによる地域防災システム構築: 薩摩川内市と共同でスマートグリッド電力データの分析を行い、世帯構成によって電気の使用状況に大きな差が見られることが明らかになった。特に高齢者世帯は冬期の電力消費量が大きく、住宅の断熱性能が影響していると推測され、今後は実地調査やアンケートにより住環境と消費エネルギーの関係性について検討する。

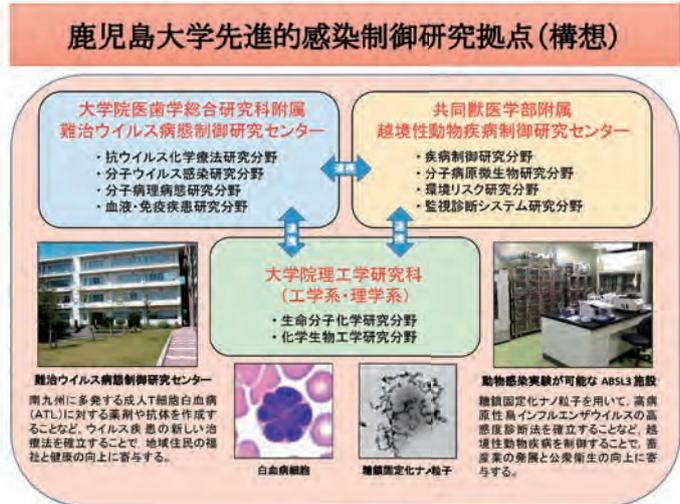


◀ 潮流計測器の設置作業(かごしま丸にて)

(2) 国際水準の卓越した研究

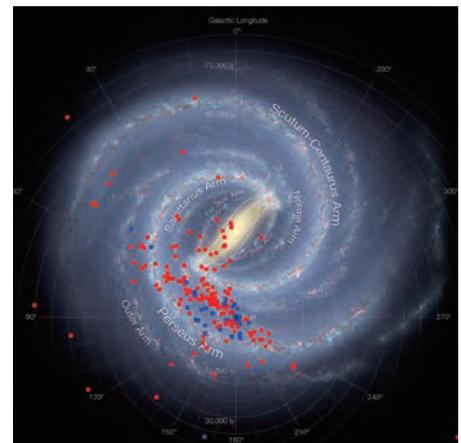
⑥ 先進的感染制御(難治性ウイルス疾患、人獣共通感染症等)

大学院医歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター、共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター、そして大学院理工学研究科の研究分野の一部が連携することで、感染症制御に関する新しい学際的研究を実施している。特に、HTLV-1や鳥インフルエンザウイルスなど、鹿児島地域において脅威となる感染症に対し、診断・予防・治療に関わる先進的な研究を展開する事によって防御体制を構築し、地域住民の福祉と健康の増進を図るとともに、地元畜産業の発展と公衆衛生の向上にも寄与するような、感染症に関する国際レベルの研究を目指している。本学ではこれまでに、医学分野においてHTLV-1やそれによって起こる成人T細胞白血病や中枢神経疾患のHAMに関する卓越した研究業績があり、また、獣医学分野では鳥インフルエンザのサーベイランスや各種ウイルスの病原性解析、感染実験動物モデルの構築に多くの実績がある。



⑦ 天の川銀河

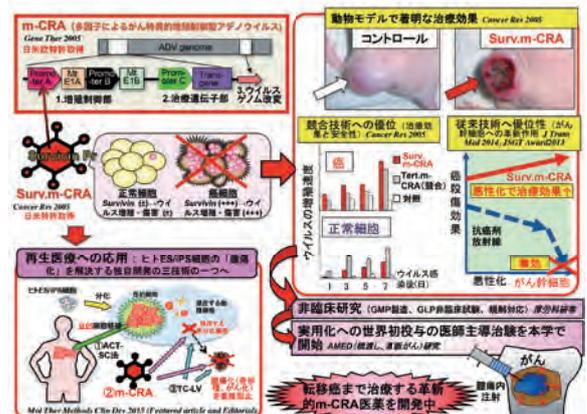
七夕伝承でおなじみの天の川は、数千億もの星々が集まった直径10万光年にも及ぶ天体で、太陽系はその中にある。宇宙には、同種の天体である銀河が無数に存在するが、内部を詳しく調べることができるのは天の川銀河だけである。鹿児島大学では、天の川銀河の構造・内部運動、そして、そこで起こる恒星・惑星の形成や末期の恒星が起こす種々の現象を調べるなど、世界トップレベルの研究を行っている。満月の見かけの直径の2億分の1まで測定できるVERA望遠鏡を用いて、国立天文台と共同で種々の天体までの距離や運動を高い精度で観測し、天の川銀河の構造・運動の解明に大きな貢献をしている。できかけの恒星から噴出するガスが螺旋運動をしていることも世界で初めて明らかにした。薩摩川内市入来にある20mアンテナはVERA望遠鏡の構成要素で鹿児島大学が運用している。その隣には鹿児島大学1m赤外線望遠鏡があり、周期的に明るさが変わる星を観測して距離を求める研究を行っている。これに加えて、国内外の種々の望遠鏡を用いて様々な天体を詳細に観測し、天の川の完全理解に挑戦している。



▲VERAの観測で得られた電波天体の分布(青)と鹿児島大学1m望遠鏡によって得られた赤外線天体の分布(赤)

⑧ 難治性がん

腫瘍溶解性ウイルス(OV)による遺伝子・ウイルス治療は、米国で新薬承認され、革新的がん治療薬として世界的に期待されている。従来のOVの性能を凌ぐ「多因子によるがん特異的増殖制御型アデノウイルス(m-CRA)」作製法を独自開発し、がん制圧へのm-CRA医薬開発を進めてきた。第一弾のSurvivin反応生m-CRAは、本分野の競合技術を治療効果と安全性で凌ぎ、さらに従来技術が治療できないがん幹細胞にはむしろ治療効果が増強して全がんを治療可能という、革新的治療作用を示した。本研究は種々の大型競争的研究費で基礎・開発研究、非臨床研究(GMP製造、GLP非臨床試験、規制対応)を着実に進め、医療研究開発機構(AMED)の「橋渡し」と「革新がん」の二つの大型研究にて、実用化に繋がるFirst-in-human(患者さんへ世界初の投与)の医師主導治験を本学で開始するところである。さらに転移がんも含めたがん制圧を目指した新規のm-CRA治療法を研究開発中である。またm-CRA技術を応用し、ヒトES/iPS細胞の再生医療の最大障壁の腫瘍化を克服する新技術開発にも成功した。本研究は高い科学的意義を持つだけでなく、実用化の点で大きな社会貢献にも繋がるプロジェクトである。



▲難治性がんへの革新治療法となる遺伝子・ウイルス治療の独自開発と実用化

教育・研究・社会貢献活動

◆かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。

平成24年度からは、この成果を受け、本アカデミーの後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム（焼酎マイスター養成コース、林業生産専門技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム）を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲実習（焼酎マイスター養成コース）



▲実習（林業生産専門技術者養成プログラム）



▲講義（稲盛経営哲学プログラム）

◆大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内12の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。現在、「教育連携」「高大連携」「ICT活用」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「地域共同リポジトリ」の7事業部会を置き、活動を行っている。

〈構成大学等〉

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター



▲かごしまフィールドスクール



▲かごしま教養プログラム

◆文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」

火山と島嶼を有する鹿児島県の地域再生プログラム

鹿児島大学は地域とともに社会の発展に貢献する総合大学となることを目指して取り組んできているものの、今までの自治体や地域と大学との関係は教員やプロジェクト毎の対応であり、分散型の教育・研究・社会貢献の活動でした。これを、学長のリーダーシップの下、かごしまCOCセンターが統括し、自治体との協働連携を行い得られる情報を参考として、地域志向の教育・研究・社会貢献を集約型で取り組む体制としています。本事業の活動を通して、鹿児島大学は地域志向の人材養成や地域の再生・活性化を明確に目指した大学教育改革・ガバナンス改革を推進していきます。(※COC=Center of Community)

<事業コンセプト>

- ①鹿児島大学と地方自治体の密接な組織間の協働・連携と地域課題解決への積極的な取組み
- ②活動成果を活用した地域社会に貢献する総合大学にふさわしい教育カリキュラムの構築
- ③持続的な地域再生・活性化に繋がる生涯学習の場の充実と地域貢献を志する人材養成

<かごしまCOCセンター 教育研究・地域連携・運営体制>



◆文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

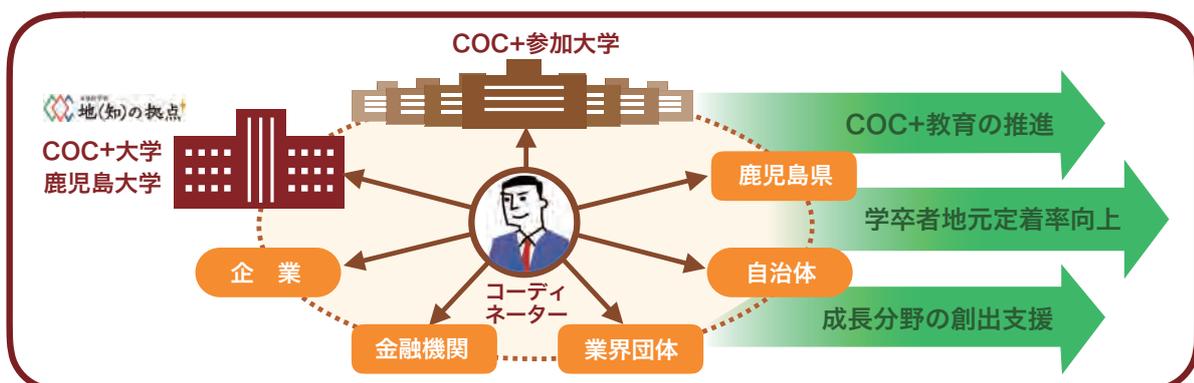
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム

COC+とは、大学が地方公共団体や地元企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行し、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目指したものです。COC+大学である鹿児島大学は、COC+参加校(県内7校)と鹿児島県、金融機関、地域産業界等の事業協働機関と連携協働して、主たる事業目標である鹿児島県内の学卒者の地元就職率を平成26年度比で事業期間終了後(平成31年度末)に7.5%増(本学10.5%増)の61.5%(本学50.0%)を達成するべく、教育及び就職支援でさまざまな取組みを推進していきます。

<事業コンセプト>

- ①地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
- ②参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ③学卒者の地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化

<オール鹿児島県の事業協働体制>



■機能強化経費(運営費交付金)

区 分		事 業 名	部局(実施主体)	平成28年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事 業 期 間
機能強化促進分	南九州及び南西諸島域(島嶼・へき地)の活性化への貢献並びに教育体系の再構築	薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備	国際島嶼教育研究センター	20,000	平成28~31年度
		大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み	地域防災教育研究センター	27,000	平成28~33年度
		南九州・南西諸島を舞台とした地域中核人材育成を目指す新人文社会系教育プログラムの構築	法文学部	5,114	平成28~31年度
	畜産地・食料基地としての南九州の地域振興に資するための人材育成	増養殖環境保全のための赤潮モニタリングおよび対策法の高度化ー南九州における赤潮研究拠点の構築ー	水産学部	13,539	平成28~29年度
		大学院熱帯水産学国際連携プログラム推進のための機能強化	水産学部	9,026	平成28~30年度
		世界水準の獣医学教育研究拠点を基軸とした畜産地・食料基地としての南九州の地域活性化に資する人材育成	共同獣医学部	19,529	平成28~33年度
	南九州固有の地域的課題解決に寄与する研究の推進	難治性の慢性ウイルス疾患を対象とした医・理工連携による先端的発症予防・治療法確立を目指した基盤構築ー鹿児島県に多発するATL、HAM、および、AIDS、ウイルス肝炎に対する新規発症予防・治療法の開発に向けてー	医歯学総合研究科	6,327	平成28~33年度
		高度動物発生工学・生物学を駆使した先進ミニプタを用いた部局間横断的連携研究による前臨床研究開発・研究者養成拠点形成ー鹿児島大学発信トランスレーショナル先端研究推進プロジェクトー	医用ミニプタ・先端医療開発研究センター	11,172	平成28~31年度
		入学者選抜改革分	多面的・総合的に評価する入学者選抜改革事業	アドミッションセンター	9,941
新たな共同利用・共同研究体制の充実	先進的感染制御研究拠点	医歯学総合研究科 附属難治ウイルス病態制御研究センター (改組予定)	18,392	平成28~32年度	
教育関係共同実施分	かごしま丸の熱帯・亜熱帯水域洋上教育共同利用拠点機能の高度化	水産学部附属練習船 かごしま丸	4,528	平成27~31年度	
	鹿児島島の自然環境と100年の森林から学ぶ森林・環境・防災教育拠点機能の充実	農学部附属演習林	8,981	平成27~30年度	

教育・研究・
社会貢献活動

■リポジトリ

(平成28年3月31日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	989
教 育 学 部	1,958
理 学 部	597
医 学 部	67
歯 学 部	242
工 学 部	997
農 学 部	2,463
水 産 学 部	1,040
共 同 獣 医 学 部	22
人 文 社 会 学 研 究 科	94
保 健 学 研 究 科	9
理 工 学 研 究 科	792
医 歯 学 総 合 研 究 科	944
司 法 政 策 研 究 科 (法 科 大 学 院)	2
臨 床 心 理 学 研 究 科 (専 門 職 大 学 院)	6
連 合 農 学 研 究 科	436
連 合 獣 医 学 研 究 科 (基 幹 校 : 山 口 大 学)	5
医 学 部 ・ 歯 学 部 附 属 病 院	53
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	1,638
教 養 部 (1965.4-1997.3)	23
関 連 学 会 等	445
合 計	12,822



■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要(法学論集、経済学論集)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部紀要(人文学科論集)	年 1 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	地域政策科学研究 Discussion Papers In Economics and Sociology	年 1 回 不 定 期
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔 年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	ネッ上で随時更新
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	不 定 期
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国際島嶼教育研究センター	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
	島嶼研だより South Pacific Newsletter	年 2 回 年 1 回
保健管理センター グローバルセンター	年報	年 1 回
	紀要	年 1 回
総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
	鹿児島大学総合博物館ニュースレター 年報	年 2 回 年 1 回
学術情報基盤センター	年報	年 1 回
生涯学習教育研究センター	年報	年 1 回
産学官連携推進センター	鹿児島大学産学官連携推進センター活動実績報告書 研究シーズ集	年 1 回 隔 年 1 回
教 育 セ ン タ ー	年報	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
自然科学教育 研究支援センター	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回

教育・研究・
社会貢献活動

協定

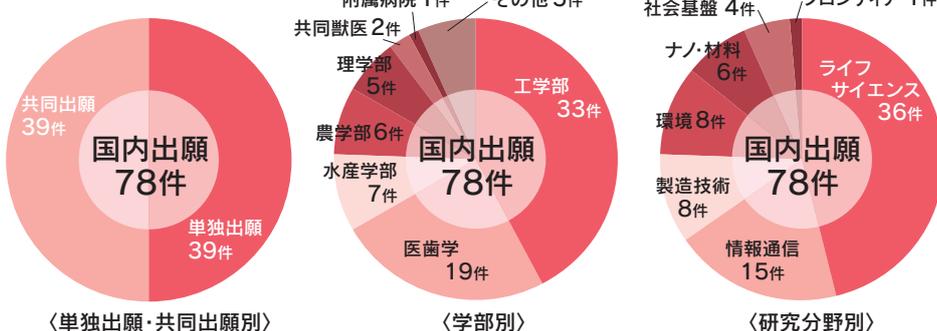
協定名	協定締結年月日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係わる施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びひかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との次世代エネルギーに関する協定	平成24年 5月 7日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日
国立大学法人鹿児島大学と独立行政法人水産総合研究センターとの包括連携に関する協定	平成25年 9月27日
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定	平成26年 6月23日
鹿児島県と国立大学法人鹿児島大学の動物疾病制御及び関連分野に係る相互連携に関する協定	平成26年 7月 3日
特定非営利活動法人 NPO 造士館講座と国立大学法人鹿児島大学との連携協定	平成26年 7月 7日
株式会社鹿児島銀行及び野村證券株式会社との産学連携授業に関する連携協定	平成26年 9月26日
奄美群島広域事務組合との包括連携協定	平成26年11月28日
与論町漁業協同組合と国立大学法人鹿児島大学との水産学分野における実践的教育研究等に関する協定	平成27年 7月14日
鹿児島県との「雇用創出と若者定着に関する協定」(文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」関係)	平成27年12月14日
鹿児島商工会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成28年 4月 7日

寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄附者名	主な研究内容等
水産学部	次世代型養魚飼料開発ラボトリ	平成28年4月1日～平成30年3月31日	スクレッティング(株)	●魚粉代替タンパク質を含有した養魚飼料の開発を目指し、魚粉やその代替タンパク質素材の適正添加量を決定し、魚類の成長を含めた生理機能を損なわない飼料の開発を目的とする。
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月1日～平成30年5月31日	京セラメディカル(株)	●人工股関節の開発 ●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生 ●軟骨分化 ●変形性股関節症の成因
	システム血栓制御学講座	平成27年4月1日～平成32年3月31日	(株)バイオメテックインターフェース 薬糧開発(株) (株)ドクターズチョイス (株)シノテスト 藤森工業(株) (株)メディカ	●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究 ●血栓傾向、血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立 ●伝統医学のサイエンス化 ●糖代謝と炎症・免疫系のクロストロークの研究 ●創薬に至る前の機能性食品の開発
	近未来運動器医療創生学講座	平成23年6月1日～平成29年5月31日	医療法人くすのき会	●腫瘍幹細胞の解明と治療への応用 ●脊髄再生医療
	分子応用外科学講座	平成23年7月1日～平成29年6月30日	中外製薬(株)	●消化器癌における血中遊離癌細胞の検出 ●微小癌細胞の基礎および臨床研究
	HGF組織修復・再生医療学講座	平成25年4月1日～平成30年3月31日	エーザイ(株) (株)ミノファージェン製薬	●HGFによる難治性疾患動物モデルに対する組織修復および再生促進作用に関する研究およびHGFによる難治性疾患の新規治療法の開発

知的財産管理状況

〈平成27年度 出願状況〉



〈平成27年度末 特許保有件数〉

	登録済	出願中	合計
国内	248	176	424
外国	35	76	111

〈平成27年度 ライセンス・譲渡実績〉

	新規件数	金額(千円)
特許	5	10,492
商標	0	279
ソフトウェア	1	0
ノウハウ	2	75
マテリアル	1	130
合計	9	10,975

※千円未満四捨五入により作成(平成28年3月31日現在)

■平成27年度鹿児島大学公開講座

講座名	学部等	開催期間	代表者	受講対象者	開催場所
「楽しい合唱表現」～発声の基礎から学ぶ合唱～	教育学部	平成27年6月4日～6月25日	齊藤 祐 教授	県民社会人一般	かごしま県民交流センター(リハーサル室1)
英語やりなおし講座	水産学部	平成27年4月7日～7月28日	板倉 隆夫 教授	英語を訳さずに理解できるようになりたい人(高校卒業程度)	鹿児島大学水産学部
森林環境教育指導者養成研修～森で遊ぼう編～	農学部	平成27年8月1日～8月2日	井倉 洋二 准教授	教員および森林環境教育に関心のある方	農学部附属高隈演習林
森林環境教育指導者養成研修～森で学ぼう編～	農学部	平成28年1月23日	井倉 洋二 准教授	教員および森林環境教育に関心のある方	農学部附属高隈演習林
森林環境教育入門講座	農学部	平成28年2月28日	井倉 洋二 准教授	教員および森林環境教育に関心のある方	県民交流センター
動物の生命(いのち)と人との係わり	共同獣医学部	平成27年11月14日	遠藤 泰之 教授	一般市民	農・獣医共通棟 101 講義室
現代天文学に基づく宇宙人の存在環境	理学部	平成27年6月20日	半田 利弘 教授	一般市民(高校生以上希望すれば中学生以下でも可)	かごしま県民交流センター
教育臨床セミナー・ベーシック篇	教育学部	平成27年8月4日	関山 徹 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	鹿児島大学(都元キャンパス)
教育臨床セミナー・アドバンス篇	教育学部	平成27年8月5日	関山 徹 准教授	現職教員を中心とした教育関係者	鹿児島大学(都元キャンパス)
中堅助産師のためのステップアップ研修	医学部	平成27年6月7日、6月20日、9月26日、9月27日	吉留 厚子 教授	中堅助産師	鹿児島大学医学部保健学科
理学療法士・作業療法士のためのやさしい生体力学	医学部	平成27年6月13日、6月27日	大渡 昭彦 助教	理学療法士、作業療法士など	医学部保健学科 研究棟 2階 運動療法実習室
看護研究の基礎及びデータ解析入門	医学部	平成27年7月11日	吉留 厚子 教授	看護職	鹿児島大学医学部保健学科
高齢者の介護	医学部	平成27年9月5日	吉元 洋一 教授	医療従事者・福祉関係者等	保健学科 2階 運動療法実習室
在宅ALS(筋萎縮性側索硬化症)療養者の支援(講義・演習)	医学部	平成27年9月12日	中俣 直美 講師	看護師、保健師、介護支援専門員等	桜ヶ丘キャンパス 保健学科研究棟:601号教室
在宅ALS(筋萎縮性側索硬化症)療養者の支援(講義のみ)	医学部	平成27年9月12日	中俣 直美 講師	看護師、保健師、介護支援専門員等	桜ヶ丘キャンパス 保健学科研究棟:601号教室
リハビリテーションを目指すケア“最期までその人らしく”を支える	医学部	平成27年9月26日	丹羽 さよ子 教授	看護職	鹿児島大学医学部保健学科
最新脳卒中リハビリの講義と実技セミナー(看護職・介護職・一般向け)	医歯学総合研究科	平成27年7月5日	宮田 隆司 助教	看護師、介護士、保健師、ケアマネージャー、医療ソーシャルワーカー、一般の方	鶴陵会館
革新的治療の研究と応用の展望	医歯学総合研究科	平成27年7月31日	小戴 健一郎 教授	高校生から大学生、一般社会人	かごしま県民交流センター中ホール
最新脳卒中リハビリの講義と実技セミナー(リハビリ専門職向け) 明日の訓練に生かせる脳卒中リハビリの知識と訓練技術	医歯学総合研究科	平成27年8月2日	宮田 隆司 助教	理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、医師、医学生、リハ専門看護師等	鹿児島大学病院 霧島リハビリテーションセンター
日常の臨床で活躍する接着技法	医歯学総合研究科	平成27年10月31日	南 弘之 教授	指宿市歯科医師会、南薩歯科医師会、枕崎市歯科医師会	指宿市民会館
エネルギー法・限界耐力計算法の基礎理論	工学部	平成27年10月3日	澤田 樹一郎 准教授	建築構造技術者	鹿児島大学 工学部共通棟 301 室
銀河系下敷きを作って銀河系について学ぼう	理学部	平成27年7月28日	中西 裕之 准教授	小学校高学年以上	理学部2F 大会議室
高校物理と高校数学でさぐる宇宙	理学部	①平成27年7月11日 ②平成27年12月12日	中西 裕之 准教授	中学3年生以上	理学部2F 大会議室
いまさら聞けない! NISA の基礎知識	法文学部	平成27年8月9日	王 鏡凱 准教授	社会人	鹿児島大学法文学部
いまさら聞けない! 住宅ローンの基礎知識	法文学部	平成27年8月9日	王 鏡凱 准教授	社会人	鹿児島大学法文学部
鹿児島大学音楽専修演奏会・奏しよう打楽器、知ってみよう宗教音楽	教育学部	平成27年7月16日	齊藤 祐 教授	県民一般	かごしま県民交流センター(県民ホール)
親子で冒険 かごしまの海	生涯学習教育研究センター	平成27年8月8日	大富 潤 教授 小栗 有子 准教授	小学生以上とその保護者	鹿児島大学水産学部 錦江湾
垂水市地域振興計画 報告会	生涯学習教育研究センター	平成27年7月14日	小栗 有子 准教授	垂水市、および、一般市民	垂水市中央公民館
ジュニア陸上教室 1期(小学生)	工学部	平成27年4月11日～8月末	塗木 淳夫 准教授	基本コース(小学1～6年生)、育成コース(小学5・6年生)	鹿児島大学 グラウンド 及び 講義室 など
ジュニア陸上教室 1期(中学生)	工学部	平成27年4月2日～8月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生～3年生	鹿児島大学 グラウンド 及び 講義室 など
ものづくりにチャレンジ	理工学研究科	平成27年8月7日	井手 英夫 教授	小学生・中学生(学年・学科は問いません)	理工学研究科(工学部)
ランニング女性トップアスリート養成講座	工学部	平成27年5月末～平成28年3月末	塗木 淳夫 准教授	ランニング女性トップアスリート(3000mを10分以内のレベルの方、学生不可)	鹿児島大学 グラウンド 及び 講義室 など
台湾とのつながりから考える鹿児島の多文化共生(2)～外国人旅行者に配慮した観光まちづくり～	生涯学習教育研究センター	平成27年7月11日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	鹿児島大学都元キャンパス 共通教育棟1号館5階 生涯学習演習室
鹿児島の医療を支える看護を考える～シームレスケアを目指して～	附属病院	①平成27年7月4日 ②平成27年10月17日	向窪 世知子 看護部長	看護職	鹿児島大学病院医学部 鶴陵会館
夏休み体験学習「放射線ってどんなもの?」	自然科学教育研究センター	平成27年8月5日	福徳 康雄 准教授	小・中学生・保護者・教員	鹿児島大学 農学部・共同獣医学部共通棟 101 講義室
人骨の考古学	埋蔵文化財調査センター	平成27年7月26日	寒川 朋枝 特任助教	中学生～一般	鹿児島大学教育学部 第一講義棟102号
発見! 体感! 本物の海藻を見てさわって食べて、「海の森」図鑑をつくらう	水産学部	平成27年7月20日～7月27日	寺田 竜太 准教授	小学校5、6年生	鹿児島大学水産学部 5 号館学生実験室 1-1-1-2
水辺環境を調べよう	水産学部	平成27年10月16日	小山 次朗 教授	一般市民(大人)	鹿児島市内(主に甲突川)
鹿児島大学公開授業特別編 課外活動～鹿大で学ぶことは楽しい!～ Vol.2	かごしまCOCセンター(社会貢献・生涯学習部門)	平成27年8月3日～8月7日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	鹿児島大学生涯学習教育研究センター演習室
基本的な人権としての性の多様性	男女共同参画推進センター	平成27年10月23日	前田 晶子	社会人、中・高・大学生	共通教育棟1号館132号室
ジュニア陸上教室 2期(中学生)	工学部	平成27年9月1日～12月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生～3年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ジュニア陸上教室 2期(小学生)	工学部	平成27年9月5日～12月19日	塗木 淳夫 准教授	基本コース小学1年生～6年生 育成コース小学5・6年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
ストーマケアの基本	附属病院	平成27年10月3日	向窪 世知子 看護部長	病院看護師、訪問看護師、介護職	病院総合臨床研修センターセミナー室
救急患者のフィジカルアセスメント～小児から老年期まで～	附属病院	平成27年11月14日	向窪 世知子 看護部長	看護職	鹿児島大学病院C棟8階総合臨床研修センターセミナー室
看護師に対する緩和ケア教育のための研修会「がん患者の意思決定支援の実例」	附属病院	平成27年12月20日	向窪 世知子 看護部長	看護職	鹿児島大学病院C棟9階総合臨床研修センターセミナー室
第4期ランニングの実践と科学	工学部	平成27年10月17日～平成28年2月27日	塗木 淳夫 准教授	健康で週1回以上ランニング習慣のある方でランニングに関する座学にも興味のある方	鹿児島大学グラウンド 及び 講義室 など
英語やりなおし講座	水産学部	平成27年10月27日～平成28年1月26日13回程度	板倉 隆夫 教授	前期に本講座を受講した人	鹿児島大学水産学部板倉研究室
英語やりなおし講座	水産学部	平成27年10月31日～平成28年1月30日隔週土曜日7回程度	板倉 隆夫 教授	英語を訳さずに理解できるようになりたい人(高校卒業程度)	鹿児島大学水産学部板倉研究室
ジュニア陸上教室 3期(小学生)	工学部	平成28年1月9日～3月19日	塗木 淳夫 准教授	基本コース(小学1～6年生)	鹿児島大学グラウンド 及び講義室
鹿児島大学公開授業特別編 課外活動～鹿大で学ぶことは楽しい!～ Vo.3	かごしまCOCセンター(社会貢献・生涯学習部門)	平成28年2月22日～2月24日	酒井 佑輔 講師	誰でも参加可能	学習交流プラザ学習ラウンジ3
ジュニア陸上教室 3期(中学生)	工学部	平成28年1月9日～3月末	塗木 淳夫 准教授	中学1年生～3年生	鹿児島大学グラウンド 及び講義室

教育・研究・社会貢献活動

鹿児島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成25年度 (研修人数5名)	教育学部	ドイツ	ドイツにおけるボールゲーム指導の現状と課題に関する研究-Ballschule実践のフィールド調査を通じて-
	医学部	アメリカ	中枢神経障害後のよりよい機能回復を促進する治療法の検討
	理工学研究科(理学系)	ドイツ・フランス	鉱物のナノスケール微細組織解析方法の習得
	理工学研究科(工学系)	オランダ	沿岸域を対象とした凝集性微細懸濁物質輸送モデルの高精度化
平成26年度 (研修人数5名)	医歯学総合研究科(歯学系)	アメリカ	酸化ストレス下におけるマンガンスーパーオキシドデヒドロゲナーゼ(MnSOD)の修飾
	教育学部	イギリス	含鉄長石の結晶構造に関する研究
	理工学研究科(理学系)	フランス	イオン液体の基礎物性・応用に関する共同研究
	理工学研究科(工学系)	イギリス	斜陽産業都市における持続可能な居住地のプランニングとデザインに関する研究
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ・イタリア	神経内視鏡を用いた頭蓋底外科手術・脊椎脊髄外科手術、脳幹の神経モニタリングに関する知識・技術の習得
平成27年度 (研修人数4名)	医学部・歯学部附属病院	カナダ	新生仔ブタモデルを用いた小児腸管不全の病態解明および治療法の研究
	教育学部	オーストリア	フーゴ・ヴォルフのピアノ作品自筆譜に関する研究
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ	腫瘍核医学に関する知識・技術の習得
	医歯学総合研究科(歯学系)	アメリカ	歯をモデルにした幹細胞への進化発生的アプローチ
	理工学研究科(工学系)	カナダ	神経科学的知見に裏付けられた視覚的注意の処理モデル構築

鹿児島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

(平成27年度実績)

開講部局	開講期	授業科目名	授業担当部局	支援人数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	派遣国
教育センター	前期	東アジア社会の共通課題は何か?	国際連携推進センター	9	H27.8.14	H27.8.28	15	韓国
教育センター	前期	国際協力体験講座-タイコース-	農学部	6	H27.9.1	H27.9.11	11	タイ
教育センター	前期	北米におけるグローバル人材育成	国際連携推進センター	15	H27.9.1	H27.9.20	20	米国
教育センター	前期	太平洋島嶼学特論	国際島嶼教育研究センター	4	H27.9.6	H27.9.12	7	ミクロネシア連邦・米国(グアム)
教育センター	前期	国際協力体験講座-ミャンマーコース-	農学部	17	H27.9.9	H27.9.18	10	ミャンマー
教育センター	前期	進取の精神海外研修 in ベトナム	稲盛アカデミー	3	H27.8.23	H27.8.31	9	ベトナム
教育センター	前期	南米における進取の気風研修計画	生涯学習教育研究センター	4	H27.9.3	H27.9.16	14	ブラジル
教育センター	前期	持続可能な社会形成の海外研修II	法文学部	9	H27.9.11	H27.9.22	12	インドネシア
教育センター	前期	海外研修基礎コース in カリフォルニア	北米教育研究センター	30	H27.9.12	H27.9.22	11	米国
教育センター	前期	グローバル人材育成(雲南)	農学部	12	H27.9.18	H27.9.29	12	中国
教育センター	後期	共生のためのフェアトレードII	国際連携推進センター	7	H28.2.8	H28.2.19 H28.2.20	12 13	イラン
教育センター	後期	海外研修基礎コース in ハワイ	北米教育研究センター	29	H28.2.11	H28.2.22	12	米国(ハワイ)
教育センター	後期	海外研修基礎コース in 東南アジア	北米教育研究センター	20	H28.2.14	H28.2.24	11	シンガポール
北米教育研究センター	前期	国際プロフェッショナル養成プログラム	北米教育研究センター	5	H27.8.29	H27.9.22	25	米国
法文学部	前期	フィールド学実習(文化人類学)	法文学部	1	H27.8.25	H27.9.2	9	韓国
法文学部	前期	海外短期留学1	法文学部	3	H27.8.29	H27.9.22	25	米国
法文学部	前期	法律学特殊講義(外国の法を学ぶ)	法文学部	6	H27.9.29	H27.10.5	7	カナダ
法文学部	後期	フィールド実習(経済学)	法文学部	5	H28.2.22	H28.2.29	8	フィリピン
教育学部	後期	理科教育特講	教育学部	5	H28.2.18	H28.2.27	10	ドイツ
農学部	前期	臨床獣医学特別研修	共同獣医学部	3	H27.8.14	H27.8.31	18	米国
農学部	前期	国際協力体験講座-タイコース-	農学部	1	H27.9.2	H27.9.11	10	タイ
農学部	前期	学外研修	農学部	3	H27.9.14	H27.9.19	6	フィリピン
農学部・農学研究科	前期	海外森林・林業事情特論、国際森林論	農学部	16	H27.9.12	H27.9.22	11	ドイツ
水産学部	前期	実用水産英語(海外研修)	水産学部	12	H27.8.18	H27.9.3	17	フィリピン
水産学研究科	前期	Tropical Fisheries	水産学部	9	H27.6.15	H27.6.28	14	フィリピン
医学部	前期	国際看護学	医学部	6	H27.8.30	H27.9.6	8	韓国
医学部	前期	離島看護学	医学部	5	H27.8.30	H27.9.7	9	米国
医学部	後期	公衆衛生看護管理論I	医学部	5	H28.2.14	H28.2.20	7	フィリピン
共同獣医学部	前期	獣医学特別研修	共同獣医学部	2	H27.8.9	H27.8.23	15	台湾
合 計				252				

鹿兒島大学学生海外学会発表支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、海外で研究発表を行う学生を支援することを目的とする。
(平成26年度より実施)

申請者所属部局	26年度	27年度
医学部		1名
歯学部		1名
工学部	2名	
農学部		3名
理工学研究科(理学系)	3名	11名
理工学研究科(工学系)	17名	18名
農学研究科		1名
水産学研究科		2名
医歯学総合研究科	2名	1名
連合農学研究科		3名
合計支援者数	24名	41名

鹿兒島大学学生海外留学支援事業

大学憲章及び学生憲章に謳われている「進取の気風にあふれ、困難な課題に果敢に挑戦し、国際的に通用する人材」を育成するため、海外の学術協定交流校へ6月以上1年未満の期間に留学する日本人学生を経済的に支援することを目的とする。(平成23年度より実施)

派遣年度	支援人数合計	支援実績(派遣国・地域、支援人数)
平成23年度	6名	韓国4名、台湾1名、ドイツ1名
平成24年度	12名	タイ1名、中国3名、ドイツ3名、フランス1名、台湾3名、韓国1名
平成25年度	8名	韓国2名、台湾2名、スペイン1名、フランス2名、ドイツ1名
平成26年度	15名	米国1名、オーストラリア1名、スウェーデン1名、タイ1名、韓国4名、中国1名、ドイツ1名、フィリピン1名、フランス2名、台湾2名
平成27年度	20名	米国3名、オーストラリア2名、スウェーデン3名、タイ1名、韓国4名、ドイツ2名、フランス2名、台湾1名、インドネシア1名、スペイン1名

外国へ留学した学生数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大学間学術交流協定校	5	11	13
部局間学術交流協定校	5	4	6
鹿兒島大学学生海外研修支援事業	230	241	252
トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム		6(5)	4
鹿兒島県清華大学留学支援奨学金交付事業		0	5
その他(個人渡航等)	41	56	67
合計	281	318	347

※()内は、トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムの留学生数のうち学術交流協定校への留学生数を除いた数を示す。

日本学術振興会採択事業

事業名	課題	事業期間	実施主体部局	概要
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	糖鎖に基づくウイルス感染症および癌の検査診断法と治療薬の開発研究による人材育成	平成25～27年度	理工学研究科(工)	本事業は、糖鎖に基づくウイルス感染症や癌に対する検査診断法・治療薬開発の国際共同研究に若手研究者を主体的に参加させることによって、困難に自ら挑戦する「進取の気風」をもった次世代を担う人材を養成するものである。 本研究では(i) Dengue熱ウイルスの検査診断法と抗ウイルス薬の開発;(ii) ウイルスベクターの改良;(iii) HTLV-1感染により起こる成人T細胞白血病(ATL)細胞表面の糖鎖解析とそれに基づくATLの治療薬・検査薬の開発;(iv) 抗HBV(B型肝炎ウイルス)薬の開発を国際共同研究として行っている。なお、すべての派遣若手研究者は、まずインドネシアでの疫学研究に従事し、本事業の重要性を認識し、モチベーションを高く持って各派遣先で最先端研究に従事する。

留学生交流支援制度(短期派遣・受入れ)

留学生交流支援制度(短期派遣) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、在籍大学等に在籍したまま1年以内の期間、在籍大学等が実施する派遣プログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

留学生交流支援制度(短期受入れ) 日本の大学等と諸外国の高等教育機関との学生交流に関する協定等に基づいて、諸外国の大学等に在籍したまま1年以内の期間、受入れ大学等が実施する受入れプログラムに参加する学生に対し、独立行政法人日本学生支援機構が奨学金を支給するもの。

プログラム区分	プログラム名	国または地域	人数	プログラム開始日	プログラム終了日
派遣	進取の気風育成短期派遣留学プログラム	インドネシア、タイ、韓国、オーストラリア、米国、スウェーデン、スペイン、フランス	12	H27.7.27	H29.2.22
派遣	大学院理工系イノベーション海外研修プログラム Graduate Overseas Engineering and Science Studies for Innovation (GOES)	米国	11	H27.6.8	H27.9.25
派遣	国際水準を満たす臨床獣医学教育のための研修派遣プログラム	米国	2	H27.8.15	H27.8.31
派遣	ボーダレス獣医学教育を目指したアジア獣医学教育体験研修プログラム	台湾	2	H27.8.9	H27.8.23
派遣	鹿兒島大学「グローバル人材育成(雲南農業大学、派遣)」	中国	7	H27.9.18	H27.9.29
派遣	熱帯水産学国際連携プログラムの実施(派遣)	タイ、フィリピン	11	H27.6.17	H27.12.14
派遣	全学的カリキュラムとして実施する国際プロフェッショナル人材育成プログラム	シンガポール、韓国、米国	56	H27.8.14	H28.2.24
派遣	北米におけるグローバル人材育成プログラム	米国	7	H27.9.1	H27.9.20
派遣	共生のためのフェアトレード、バングラデシュ研修※	イラン	5	H28.2.8	H28.2.19
受入	鹿兒島大学スタディ・ジャパン・プログラム	インドネシア、韓国、中国、フィリピン、ベトナム、米国、ドイツ、フランス	48	H27.4.1	H28.9.30
受入	熱帯水産学国際連携プログラムの実施(受入)	インドネシア、タイ、フィリピン	14	H27.8.22	H27.9.30
受入	アジアにおける神経科学の共同研究体制形成に向けた人材養成	インドネシア、中国	6	H27.10.1	H28.9.30

※派遣先をイランに変更

■大学間学術交流協定校(21カ国・地域、72機関)

(平成27年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日		2	
	アングラス大	2003年12月1日		1	1
	インドネシア大	2009年12月9日		13 (9)	1
	ボゴール農科大学	2010年6月4日		3 (1)	2
	デポネゴロ大	2010年8月5日	5 (4)	2 (1)	1
	バンドン工科大学	2010年11月22日			2
	サムラトランギ大	2011年2月8日	5	8 (1)	
	パテイムラ大	2014年3月25日	1		1
	スリウィジャヤ大	2015年11月2日	5		1
	メジョー大	2001年4月30日	16	8 (6)	
タイ	国立モンクット王トンプリ工科大学	2002年1月16日		3	
	カセサート大	2008年7月1日	1	13 (8)	1
	スラナリ工科大学	2009年4月17日	4		
韓国	釜慶大	1995年7月6日	5 (1)	4	
	全北大	1997年4月22日	22 (18)	21 (18)	
	群山大	1997年12月1日	2 (2)		
	済州大	1998年1月30日			
	江陵原州大	2001年2月8日	14 (13)	4	
	江原大	2002年4月5日			2
	公州大	2004年10月18日			
	木浦大	2010年5月28日	3 (2)	3	1
	祥明大	2013年5月13日	3 (3)	3 (2)	
中国	湘潭大	1986年12月11日	4 (4)	1	
	雲南農業大	1989年5月11日	15 (9)	18 (12)	1
	湖南農業大	1989年6月2日	11 (3)	2	3
	中南大	1993年6月15日	2 (2)	2	2
	中国医科大	1993年9月13日			3
	湖南大	1995年8月23日	3 (3)	1	
	南京工業大	1999年9月14日	2 (2)	3	
	東北師範大	2001年11月13日	1 (1)		
	中国人民大	2002年7月1日			
	東北大	2004年12月3日	3 (3)		
	重慶大	2006年5月22日	1 (1)		
	中国社会科学院日本研究所	2006年7月4日			
	山東師範大	2009年12月24日	2 (2)		
	上海海洋大	2011年10月24日	8 (2)	10	
	首都経済貿易大	2013年3月1日			
	華東政法大	2013年10月10日	2 (2)	4	
	大連海事大	2015年7月27日	2	1	1
バングラデシュ	ダツカ大	2013年12月24日			
	バングラデシュ農業大	2014年12月27日	1		1
フィリピン	フィリピン大	2007年12月12日	4 (2)	45 (27)	3
ベトナム	ベトナム国家農業大	2002年3月6日	1 (1)		
	ハノイ貿易大	2002年12月25日	3 (3)		
	ベトナム社会科学院	2007年5月23日	3	7 (3)	
	アンジャン大	2013年8月7日			
	ニャチャン大	2015年7月31日		7	
マレーシア	マレーシアアレンガヌ大	2005年4月22日		4 (1)	
	マレーシアサバ大	2009年3月4日	3	1	
	マレーシアアプトラ大	2010年3月16日			
	マレーシア国際イスラム大	2013年10月29日		2	
台湾	淡江大	2005年11月5日		1 (1)	
	国立高雄海洋科技大	2008年2月29日			
	国立中興大	2009年4月1日	5 (5)	3 (2)	
オーストラリア	ニューイングランド大	1995年7月20日	2 (2)	1 (1)	
	シドニー工科大	2000年3月1日		1 (1)	
バブアニューギニア 南太平洋12カ国・地域	バブアニューギニア大	1987年5月29日			
	南太平洋大	1982年7月21日			1
アメリカ合衆国	ジョージア大	1979年11月29日	1 (1)	6 (5)	
	マイアミ大	1992年11月30日			1
	グアム大	2006年4月5日		5 (4)	1
	アルフレッド大	2006年11月8日			
	西ジョージア大	2007年5月23日			
	サンノゼ州立大	2012年4月23日		49 (37)	
	ノースダコタ州立大	2014年1月15日	2	38 (30)	
ブラジル	サンカルロス連邦大	2011年8月19日			
スウェーデン	リンシェーピング大	2010年6月11日		3 (3)	
スペイン	バレンシア工芸大	2000年2月7日	1 (1)	1 (1)	
スロバキア	スロバキア農業大	2015年5月1日			
ドイツ	カール・フォン・オシエツキー大学オルテンブルク	2015年7月27日			
トルコ	アンカラ大	2012年12月10日	5 (4)		
エジプト	カフルアッシャイフ大	2011年9月5日	8 (2)	1	

(注)受入数・派遣数欄は、教職員・学生の学術交流数。()は、学生交流数で内数。

■部局間学術交流協定校(21カ国・地域、52機関)

(平成27年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
法 文 学 部					
韓 国	釜 山 大 学 校 社 会 科 学 大 学	2007年3月8日	1(1)	4(1)	
中 国	長 江 師 範 大 学 外 国 語 学 院	2012年3月26日	2(2)		
ド イ ツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日	1(1)		
フ ラ ン ス	レンヌ第2-オート・ブルターニュ大学舞台芸術学部	2010年7月1日	2(2)	3(2)	
教 育 学 部					
韓 国	韓 国 外 国 語 大 学 校 日 本 語 大 学	2013年1月22日	1(1)	1(1)	
台 湾	国 立 台 北 教 育 大 学	2012年4月1日	6(2)	2(2)	
ド イ ツ	ポ ン 大 学 哲 学 部	2006年9月26日	2(2)	1(1)	
フ ラ ン ス	国立障害者教育指導方法高等研究所	2013年9月24日			
教育学部附属中学校					
台 湾	台 北 市 立 大 直 高 級 中 学 校	2013年12月16日			
理 学 部					
インドネシア	インドネシア科学院生物学研究センター	2006年2月20日		6(2)	4
ナイジェリア	インドゥフ・アリケ・イクウォ連邦大学理工学部	2014年3月28日	1(1)		
	ナイジェリア大学物理科学部	2014年4月1日	1		
医 学 部					
韓 国	中 央 大 学 校 赤 十 字 看 護 大 学	2012年11月15日	7(6)	8(6)	
医学部・歯学部附属病院					
韓 国	韓 国 中 央 大 学 病 院	2015年1月28日	9(6)	5	
歯 学 部					
インドネシア	国立アイルランガ大学歯学部	2012年11月19日		1	
ミャンマー	ヤ ン ゴ ン 歯 科 大 学	2014年10月30日			
	マ ン ダ レ ー 歯 科 大 学	2014年10月30日			
モンゴル	モンゴル健康科学大学歯学部	2014年1月13日			
	モンゴル健康科学大学生命医科学部	2014年1月13日			
カナダ	ブリティッシュコロンビア大学歯学部	2014年11月17日			
工 学 部					
タ イ	チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科	2000年7月28日		2	
農 学 部					
中 国	四川大学錦江学院醸造工学部	2011年12月16日	2(2)		
台 湾	中 国 文 化 大 学 農 学 院	2012年10月3日			
ド イ ツ	ロ ッ テ ン ブ ル ク 林 業 大 学	2013年11月5日	19(12)	21(16)	
タンザニア	ソ コ イ ネ 農 科 大 学	1999年8月30日			
水 産 学 部					
インドネシア	ハサヌティン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日			
タ イ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日		29(23)	
韓 国	韓 国 海 洋 研 究 所	2001年9月28日			
中 国	大 連 海 洋 大 学	2003年10月21日	2(2)	1	
	浙 江 海 洋 学 院	2011年4月5日			
	中国海洋局第2研究所	2014年10月9日			
台 湾	国 立 台 湾 海 洋 大 学	2010年7月15日		1	
フィリピン	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日	1	1	
ベトナム	カントー大学水産・養殖学部	2009年5月25日			
スペイン	ア リ カ ン テ 大 学	2012年3月28日			
エリトリア	海 洋 科 学 技 術 大 学	2011年4月30日			
大学院国際連携プログラムの形成のための包括協定	サムラトランギ大学(インドネシア) フィリピン大学ヴィサヤス校(フィリピン) カセサート大学(タイ) トレンガヌ大学(マレーシア)	2014年8月19日			
共同獣医学部					
バングラデシュ	チ ッ タ ゴ ン 獣 医 動 物 科 学 大 学	2013年6月23日			
フ ラ ン ス	ヴェットアグロヌーブ(フランス獣医学農学高等教育学校)	2015年8月25日			
トルコ	ア フィ ヨ ン ・ コ ジャ テ ペ 大 学	2014年4月1日			
理工学研究科					
イ ン ド	南 グ ジャ ラ ー ト 大 学 大 学 院	2011年9月13日			
マレーシア	マレーシア工科大学機械工学部	2011年12月26日			2
	ペ ト ロ ナ ス 工 科 大 学	2012年7月6日			
台 湾	成 功 大 学 工 学 院	2005年12月23日	1	2	1
アメリカ合衆国	州立ニューヨーク・シティ大学エネルギー研究所	2015年11月30日		5	
フ ラ ン ス	リヨン化学物理電子学院(理工系高等専門教育機関)	2014年10月3日	2(1)		
医歯学総合研究科					
インドネシア	ジエンバール大学医学部	2008年3月25日			
	パジャラン大学医学部	2012年11月13日			
タ イ	プリンスオブソングラー大学医学部	2011年3月11日	2		
バングラデシュ	バングラデシュ医学研究所	2014年3月24日			
	ダ ッ カ 医 科 大 学 ・ 附 属 病 院	2014年6月17日			
ベトナム	ハ ノ イ 医 科 大 学	2008年5月9日			

(注) 受入数・派遣数欄は、教職員・学生の学術交流数。() は、学生交流数で内数。

■外国人研究者等受入状況

【受入身分別】

(平成27年度)

区 分	法学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学研 究科(理)	理工学研 究科(工)	医歯学総 合研究科	臨床心理 学研究科	学 共 施設等	事務局	合 計
外国人教員等	5	2		5			4	4		1	6	2				29
外国人研究員									1		2	3		2		8
国際協力機構(JICA)		6					2									8
日本学術振興会(JSPS)							1			4						5
科学研究費補助金	3	12								4	3			3		25
外国政府・機関等支弁による研究員		1					12	19	1	8	1			4		46
その他の研究員		1			1		9		1	2		2	1	2		19
視察・来訪等	11	14	3	9		3	49	9	1	3	15		1	16	10	144
合 計	19	36	3	14	1	3	77	32	4	22	27	7	2	27	10	284

■教職員の海外渡航件数

【地域別】

(平成27年度)

地 域	法学部		教育学部		医学部		医・歯学部 附属病院		農学部		水産学部		共同獣医 学部		理工学研 究科(理)		理工学研 究科(工)		医歯学総 合研究科		司法政策 研究科		臨床心理 学研究科		連合農学 研究科		学 共 施設等		事務局		合 計	
	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修	出張	研修
アジア	28	4	5		9		31	3	49	2	74	2	9	1	20	3	59	11	40	6	1		2				33	4	4		364	36
大洋州	2	1					1	1	2						1		3		2	1							9	1			21	3
北米	9	1	6	1	5		44	2	6		5		2		8		47	5	49	5	1		1			10	2		1	193	17	
中南米	1						3		1		3						1		3							1				13	0	
欧州	8	1	12	7			25	2	13	1	9		12		30	5	12	2	24	6			3		1	7	2	2		158	26	
中東	2		2										4						2							2				12	0	
アフリカ									1				1		3				1								1			6	1	
その他																														0	0	
計	50	7	25	8	14	0	104	8	72	3	91	2	28	1	62	8	122	18	121	17	3	0	6	0	1	0	62	10	6	1	767	83
合 計	57	33	14	112	75	93	29	70	140	138	3	6	1	72	7	850																

【経費別】

(平成27年度)

経費の種類	法学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学研 究科(理)	理工学研 究科(工)	医歯学総 合研究科	司法政策 研究科	臨床心理 学研究科	連合農学 研究科	学 共 施設等	事務局	合 計
自機関の運営資金	19	4	5	8	38	25	2	3	15	3		2	1	26	4	155
外 部 資 金	政 文 部 科 学 省	10	1		3	1	19	14	3	10		2		6		69
	政 府 科 学 研 究 費 補 助 金	10	16	2	12	12	5	3	35	34	11	3	18		161	
	政 府 日 本 学 術 振 興 会 (JSPS)								1	9					10	
	関 係 科 学 技 術 振 興 機 構 (JST)														0	
	機 関 そ の 他 政 府 関 係 機 関 等	1	3		2					1	1			1	9	
	外 国 政 府 ・ 研 究 機 関 及 び 国 際 機 関														0	
	奨 学 寄 付 金	2			73	8	10		2	24	19			1	1	140
	そ の 他 外 部 資 金													1		1
受託研究費・受託事業費	2			7	1	3	5	12	11	3				2	46	
共 同 研 究 費					6	4	1		11			1			23	
そ の 他	13	9	7	7	9	27	4	14	25	101	1			17	2	236
合 計	57	33	14	112	75	93	29	70	140	138	3	6	1	72	7	850

■部局別国際共同研究実施件数

(平成27年度)

法学部	教育学部	医学部・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医学部	理工学研究科 (理学系)	理工学研究科 (工学系)	医歯学総合 研究科	学共施設等	合 計
1	1	2	17	3	5	25	17	31	24	126

■出身国(地域)別(36か国・地域301名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(平成28年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	その他	合計	連合獣医学研究科
アジア地域	インドネシア		2	2①	9⑥	2	1①	1		1①			18⑨	
	スリランカ		1①							3②	1①		5④	
	タイ					1				3			4	
	ネパール				2①	1							3①	
	パキスタン			1①	1								2①	
	バングラデシュ			2	1	1①		2①			12⑧		18⑩	2②
	フィリピン		2					1①			2②		5③	2②
	ベトナム	5①			3②	6	5④				3		22⑦	1
	マレーシア	1		1		7							9	
	ミャンマー										2①	1①	3②	
中近東地域	韓国	9	6	2	4	4	4		1	1			31	
	台湾		1		1		1						3	1
	中国	51①	18①	3	3	23	11	11			10		130②	
アフリカ地域	イラン				1①								1①	
	トルコ	2	1										3	
	エジプト	1①		1						4①			6②	
	エリトリア									1			1	
	ガボン												0	1①
	ジンバブエ									1①			1①	
大洋州地域	タンザニア				1①					1①			2②	
	ナイジェリア			1									1	
	ベナン							1①		1			2①	
	オーストラリア	2											2	
北米地域	ソロモン諸島									1①			1①	
	バプアニューギニア							1①					1①	
	フィジー							1		1①	1①		3②	
中南米地域	アメリカ合衆国	1											1	
	アルゼンチン										1①		1①	
	バハマ									1			1	
	パナマ									1①			1①	
	ブラジル	1		2		1							4	
ヨーロッパ地域	ペルー	1											1	
	スペイン	1											1	
	ドイツ		2			1							3	
	ハンガリー			1①									1①	
合計		77③	33②	16③	26⑪	48①	22⑤	18④	1	49⑳	4④	0	294⑤③	7⑤

(注)○印内は内数で国費留学生を示す。

■在籍別

(平成28年5月1日現在)

在籍身分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	共同獣医学部	連合農学研究科	グローバルセンター	その他	合計	連合獣医学研究科
大学院 博士(博士後期)	4			6④								6④	1
〃 〃	3		4②	7④	1				15⑤			30⑪	2①
〃 〃	2	2	1	2①	4①				11⑦			20⑨	2②
〃 〃	1	3	1	5②					22⑧			31⑩	2②
〃 修士(博士前期)	2	11	4		6	3①	7①					33②	
〃 〃	1	11	3		6	6	4					30	
学部	6			3								3	
〃	5											0	
〃	4	2	1		5	1						9	
〃	3	1	3		2		1					7	
〃	2	2	1①		6	2		1				12①	
〃	1	1	1	1	10	6④						19④	
研究生	8①	2			3	1	3③					17④	
科目等履修生			2									2	
特別研究学生							2		1			3	
特別聴講学生	33②	24②		2	5	3	1					68④	
日本語研修コース生										4④		4④	
合計	77③	33②	16③	26⑪	48①	22⑤	18④	1	49⑳	4④	0	294⑤③	7⑤

※○印内は内数で国費留学生を示す。

※大学院連合農学研究科49名の内訳：鹿大30⑨ 佐大6④ 琉大13⑦(○内は国費留学生を示す。)

■経費種別

(平成28年5月1日現在)

種 別	大学院生		学部学生		研究生		科目等履修生		特別研究学生		特別聴講学生		日本語研修コース生		合 計
	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	大学院生	学部学生	
国 費 留 学 生	36 (19)	5 (3)			4						4 (4)		4 (1)		53 (27)
ブラジル政府派遣留学生							2 (1)								2 (1)
外国政府派遣留学生	7 (2)	2													9 (2)
鹿児島県費留学生					3 (2)										3 (2)
私 費 留 学 生	107 (54)	43 (18)	10 (2)						3 (1)		64 (45)				227 (120)
計	150 (75)	50 (21)	17 (4)		2 (1)				3 (1)		68 (49)		4 (1)		294 (152)
連合獣医学研究科															
国 費 留 学 生	5 (1)														5 (1)
私 費 留 学 生	2														2
計	7 (1)														7 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学部別

(平成28年5月1日現在)

学 部	国 費		ブラジル政府派遣留学生	外国政府派遣	鹿児島県費留学生	私 費		合 計	
	学部学生	研究生等	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等		
法 文 学 部		2 (2)				2 (2)	6 (3)	29 (18)	39 (25)
教 育 学 部		2 (2)						22 (16)	24 (18)
理 学 部	1 (1)		2 (1)				5 (4)		8 (6)
医 学 部							1		1 (0)
歯 学 部							3		3 (0)
工 学 部				2	1		21 (8)	4 (1)	28 (9)
農 学 部	4 (2)						5 (1)	4 (3)	13 (6)
水 産 学 部							1 (1)	1	2 (1)
共同獣医学部							1 (1)		1 (1)
合 計	5 (3)	4 (4)	2 (1)	2 (0)	3 (2)		43 (18)	60 (38)	119 (66)

(注) ()は女子を内数で示す。

■大学院別

(平成28年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科			1				22 (16)	8 (7)	7 (5)	38 (28)
教育学研究科							7 (6)		2	9 (6)
医歯学総合研究科		11 (7)			1			8 (2)	2 (1)	22 (10)
保健学研究科										0 (0)
理工学研究科		3 (1)		1 (1)			13 (2)	8 (2)	3 (3)	28 (9)
農学研究科	1 (1)						8 (5)			9 (6)
水産学研究科	1 (1)		3				10 (5)		2 (1)	16 (7)
連合農学研究科		20 (9)			5 (1)			23 (9)	1	49 (19)
合 計	2 (2)	34 (17)	4 (0)	1 (1)	6 (1)	0 (0)	60 (34)	47 (20)	17 (10)	171 (85)
連合獣医学研究科		5 (1)						2		7 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

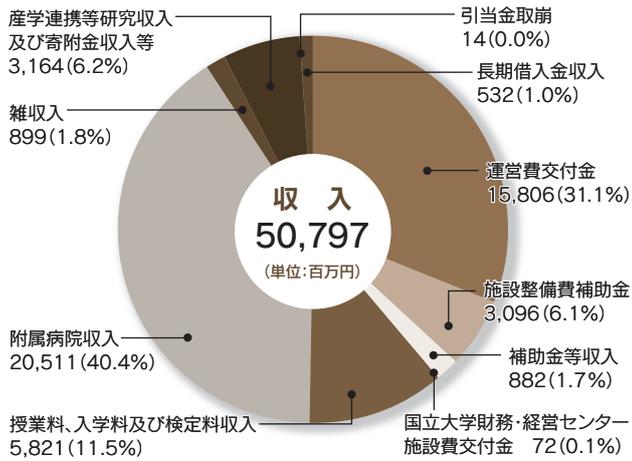
■学内共同教育研究施設別

(平成28年5月1日現在)

学内共同教育研究施設	国 費			ブラジル政府派遣留学生			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
グローバルセンター			4 (1)							4 (1)
合 計			4 (1)							4 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

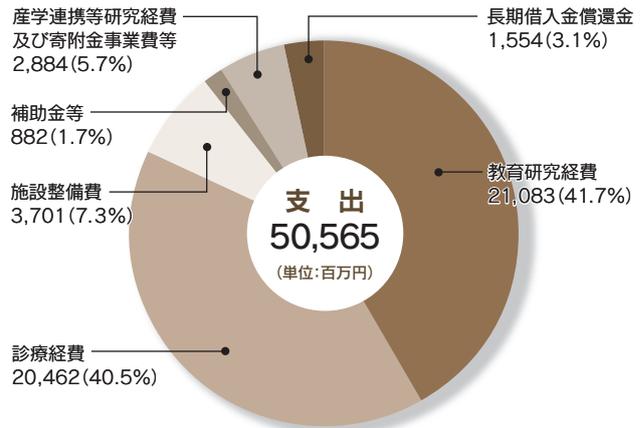
■平成27年度収入・支出決算額



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,806
施設整備費補助金	3,096
補助金等収入	882
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,821
附属病院収入	20,511
雑収入	899
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	3,164
引当金取崩	14
長期借入金収入	532
合計	50,797

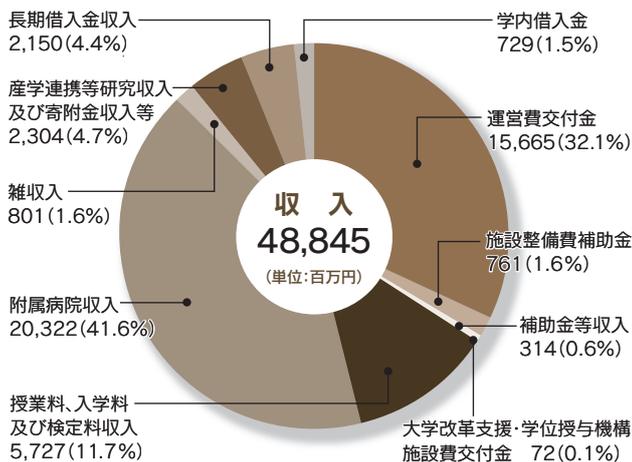
(注)端数処理上、合計額が一致しない場合あり。



(単位:百万円)

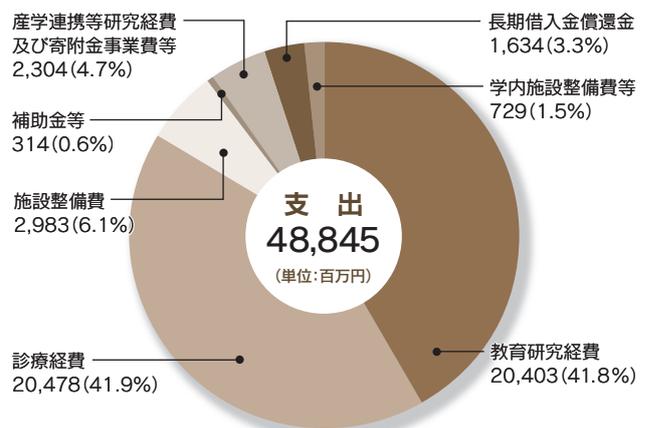
支出	金額
教育研究経費	21,083
診療経費	20,462
施設整備費	3,701
補助金等	882
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,884
長期借入金償還金	1,554
合計	50,565

■平成28年度予算



(単位:百万円)

収入	金額
運営費交付金	15,665
施設整備費補助金	761
補助金等収入	314
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,727
附属病院収入	20,322
雑収入	801
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,304
長期借入金収入	2,150
学内借入金	729
合計	48,845



(単位:百万円)

支出	金額
教育研究経費	20,403
診療経費	20,478
施設整備費	2,983
補助金等	314
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,304
長期借入金償還金	1,634
学内施設整備費等	729
合計	48,845

■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(平成28年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)	0	0	若手研究(A)	2	6,700
基盤研究(A)	3	32,900	若手研究(B)	88	92,700
基盤研究(B)	50	184,400	研究活動スタート支援	4	4,100
基盤研究(C)	283	329,500	奨励研究	4	1,940
特定領域研究	0	0	特別研究員奨励費	3	2,800
新学術領域研究	0	0	研究成果公開促進費 (学術図書)	1	500
挑戦的萌芽研究	48	53,600	合計	486	709,140

(注)金額は直接経費

【学部等別採択状況(平成28年度)】

(単位:千円)

学部等	平成28年度		学部等	平成28年度	
	件数	金額		件数	金額
学内共同教育研究施設等	24	44,300	農学部	22	34,200
法文学部	25	29,600	共同獣医学部	17	33,300
教育学部	36	32,600	水産学部	12	27,200
大学院理工学研究科(理学系)(~21.3理学部)	38	68,600	大学院医歯学総合研究科	157	246,000
医学部	13	11,900	司法政策教育研究センター	1	400
医学部・歯学部附属病院	80	99,500	大学院臨床心理学研究科 (~19.3 大学院人文社会科学研究科)	1	900
大学院理工学研究科(工学系)(~21.3工学部)	58	78,940	大学院連合農学研究科	2	1,700
			合計	486	709,140

■厚生労働科学研究費

(単位:千円)

研究事業名	平成26年度		平成27年度		平成28年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
創業基盤推進研究事業						
第3次対がん総合戦略研究事業						
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	1	17,600 (4,400)	1	32,800 (7,013)		
革新的がん医療実用化研究事業 (難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業)	1	93,790 (9,376)				
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合事業)	1	10,000 (3,000)				
難治性疾患実用化研究事業(★)	1	40,000 (2,000)				
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	1	2,400 (720)	1	2,496 (576)	1	1,539 (461)
地域医療基盤開発推進研究事業(★)	1	3,800 (1,140)				
合計	6	167,590 (20,636)	2	35,296 (7,589)	1	1,539 (461)

★26年度については、委託事業として実施

(注)平成27年度から厚労科研の一部は日本医療研究開発機構委託事業(AMED)へ移管されました。(受託研究として計上)

下段()書きは、間接経費で外数

研究事業名の()書きは、平成25年度までの研究事業名

■奨学寄附金

(単位:千円)

学 部 等	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	18	882,322	44	22,889	771	55,298
学内共同教育研究施設	3,554	60,661	3,100	52,790	3,708	45,528
法文学部・司法政策研究科・臨床心理学研究科	21	7,447	29	7,593	20	13,438
教育学部(附属学校含む)	35	17,095	16	9,274	27	11,808
理 学 部					1	500
医学部・保健学研究科	154	26,879	10	4,866	37	10,110
歯 学 部					1	1,000
工 学 部	-	-	-	-	-	-
理工学研究科	198	112,309	226	110,993	193	103,114
農 学 部	63	33,982	47	24,182	66	64,488
連合農学研究科					2	2,196
水 産 学 部	38	21,987	47	31,986	37	17,571
共同獣医学部	48	29,009	45	28,058	50	30,268
連合獣医学研究科					1	171
大学院医歯学総合研究科	1,152	1,030,319	1,168	1,008,147	1,160	1,032,843
医学部・歯学部附属病院	149	165,844	114	47,490	168	75,989
合 計	5,430	2,387,859	4,846	1,348,271	6,242	1,464,331

- (注) 1. 件数、金額には、平成25年度…3,860件、1,035,060,137円 平成26年度…3,371件、171,378,900円 平成27年度…4,029件、229,189,431円の現物寄附を含む。
(現物寄附の件数に図書の入冊数を含む。)
2. 千円未満切捨てにより作成。
3. 理工学研究科における件数、金額には工学部を含む。

■受託研究

(単位:千円)

学 部 等	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局						
学内共同教育研究施設等	7	26,316	6	18,395	10	82,787
法 文 学 部	1	493			1	2,000
教 育 学 部	6	14,806			1	1,500
理 学 部						
医学部・保健学研究科			1	588		
歯 学 部						
工 学 部	179	4,067	151	3,970	29	625
(うち、受託試験)	179	4,067	151	3,970	29	625
理工学研究科	45	267,189	42	443,535	43	438,559
農 学 部	13	25,727	18	38,785	25	39,519
水 産 学 部	15	36,766	16	134,926	16	33,875
共同獣医学部	301	10,986	297	231,888	297	86,626
(うち、動物病理組織検査)	292	3,961	278	3,705	286	3,876
大学院医歯学総合研究科	203	158,367	200	150,214	241	464,827
(うち、病理組織検査)	136	47,700	134	47,846	146	53,810
医学部・歯学部附属病院	96	140,709	113	96,962	88	108,797
(うち、医薬品等の臨床研究)	81	128,373	83	78,559	54	93,834
合 計	866	685,427	844	1,119,268	751	1,259,115
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	688	184,102	646	134,082	515	152,145

- (注) 1. 千円未満切捨てにより作成。

■共同研究

(単位:千円)

学 部 等	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局						
学内共同教育研究施設等	1	3,000	8	5,032	11	4,477
法 文 学 部						
教育学部(附属学校含む)	1	400	1	400	1	400
理 学 部	10	6,726	14	15,301	21	25,584
医学部・歯学部附属病院	3	4,925	5	10,619	7	13,863
医 歯 学 総 合 研 究 科	21	43,770	27	37,219	27	39,838
工 学 部	41	44,652	52	45,859	71	60,682
農 学 部	22	17,523	25	23,913	30	12,967
連合農学研究科					1	1,500
水 産 学 部	22	24,152	26	23,336	24	17,298
共同獣医学部	9	14,977	12	20,845	13	40,712
大学院臨床心理学研究科	-	-	1	540	1	990
合 計	130	160,125	171	183,064	207	218,311

- (注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。
2. 共同研究契約については、金額の受入がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)
3. 千円未満四捨五入により作成。

■土地・建物・船舶

(平成28年5月1日現在)

区 分	土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位: ㎡)		
		木 造	非木造	計			
郡元地区	233,630 (22)		11,241	11,241			
		事務局		902		902	
		保健管理センター		12,703		12,703	
		附属図書館		6,930		6,930	
		法文学部		13,841		13,841	
		理学部		38,540		38,540	
		工学部	169	24,958		25,127	
		農学部		11,530		11,530	
		共同獣医学部		17,440		17,440	
		その他の		14,310		14,310	
教育学部	118,265	690	42,378	43,068			
小計	351,895 (22)	859	194,773	195,632			
桜ヶ丘地区	218,183 (2)		21,992	21,992	看護師宿舎 (土地4,431 建物4,127)		
		医学部		3,115		3,115	
		歯学部		35,230		35,230	
		医歯学総合研究科		85,507		85,507	
		医学部・歯学部附属病院		1,978		1,978	
		附属図書館		4,381		4,381	
		自然科学教育研究支援センター		52		52	
		亀ヶ原総合グラウンド		3,122		3,122	
桜ヶ丘寄宿舎							
小計	218,183 (2)		155,377	155,377			
下荒田地区	49,154		93	12,106	12,199	宿舎 (土地3,383 建物2,028)	
		水産学部地区		1,430	1,430		
		国際交流会館(1号館)		1,259	1,259		
		国際交流会館(2号館)		1,507	1,507		
		国際交流会館(3号館)		686	686		
外国人研究者宿泊施設							
小計	49,154	93	16,988	17,081			
その他	35,937,762 (2,386)			5,694	5,694	その他宿舎 (土地25,234 建物15,338)	
		唐湊寄宿舎	24,391		1,207		1,207
		唐湊果樹園	72,682		19		19
		唐湊林園	9,958	19			
		寺山自然教育研究施設	300,855		885		885
		教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078		3,538
		桜島火山観測点	298		31		31
		霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415		4,421
		霧島リハビリテーションセンター					
		高隈演習林	30,617,478		1,530		1,530
		佐多演習林	2,974,908				
		入来牧場	1,478,451 (25)	178	3,856		4,034
		桜島熔岩実験場	372,714				
		指宿植物試験場	30,725	279	2,047		2,326
		東町ステーション	16,902		1,183		1,183
		鴨池臨海地	4,990 (94)		2,150		2,150
		外国人宿泊施設	344		294		294
		磯艇庫	408 (202)		243		243
		海音寺潮五郎記念館	456		389		389
		谷山心頭	(776)				
		平川艇庫	(340)		208		208
		甌島観測点	(49)		24		24
		伊集院観測点	(7)				
		屋久島観測点	(114)		40		40
		串間観測点	(58)		58		58
		紫尾観測点	(58)		58		58
		黒島観測点	(58)		58		58
佐多観測点	(58)		11	11			
高岡観測点	(58)		40	40			
吉松観測点	(47)						
田代観測点	(6)						
その他の	(313)		615	615			
小計	35,937,762 (2,386)	942	28,114	29,056			
合計	36,556,994 (2,410)	1,894	395,252	397,146	宿舎(土地35,762 建物22,313)		

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地。
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船名	トン数(トン)	機関	馬力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電気推進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年3月30日
南星丸	175.00	ディーゼル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々と
の交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の
教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研
究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる
施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題
の閲覧、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、農学部附属農場生産
物等の販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開館時間

月～金曜日
(祝祭日等除く)

9:30～16:30

販売物

鹿大ブランド焼酎(「進取の気風」、「春秋謳歌」、「きばいやんせ」、「天翔宙」、「天翔宙希望の空」)、オリジナルグッズ(ブックカバー、クリアファイル他)、ねじめびわ茶(ティーバッグ、ペットボトル他)、寮歌・学部歌集(CD)、全国藩校サミット鹿児島大会冊子、竹炭製吸臭・調湿材、農学部附属農場生産物(野菜、果物等)

主な展示物

水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大口ゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)

歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年
11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である
藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現
在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等
農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。第七高等学
校造士館時代の寮報やのほり、鹿児島高等農林学校時代の学生が
残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を
展示している。また、情報閲覧用モニター2機を設置し、広報誌等
が閲覧できる。



開館時間

月～金曜日

8:30～21:30

土・日曜日

10:00～18:00

休館日

国民の祝日

年末年始等(12月27日～1月3日)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、
初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、
約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊
滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。
この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実
習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹
木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北
アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後
も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園
の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れてい
る。キャンパス内の緑のオアシスに是非足を運んでいただきたい。



総合研究博物館常設展示室（国登録有形文化財）

鹿児島大学には数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、常設展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示しており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。



▲常設展示室外観



▲展示室内

開館時間	午前10時～午後5時
観覧料	無料
休館日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始 (その他、臨時休館・閉館あり)

稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長から寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。



キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

学習交流プラザ

学生、教職員等が相互に交流を深めることにより、学生の進取の精神を育み、活気ある交流と情報交換を促進することを目的として、平成25年10月に設置された。

グループ学習室、学習ラウンジ及び学習交流ホールがあり、飲食もできるなど多様な学習形態に対応している。また、学生の自学自習をサポートするための書店や売店も併設されている。

〈施設名及び用途〉

階別	施設名	用途等
1階	ライフサポート フードコーナー 学習ラウンジ1 スタディサポート	売店 軽食・喫茶等 学習、休憩、談話等 文具、書籍、福利厚生関連商品の販売等
中2階	学習ラウンジ2 学習ラウンジ3 学習交流ホール グループ学習室	学習、休憩、談話等 学習、休憩、談話等 学習、講演会、研修、会議等 学習、研修、会議等
2階	学習ラウンジ4	学習、休憩、談話等



大学会館

学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施設名	用途等
1	軽食堂	喫茶、食事 (52席)
	理髪室	理髪 (3台)
2	共用談話室	休憩、談話 (48人)
	音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (51人)
3	会議室(1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
	和室(1~5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホール	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で非常に有益であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館以外に、平成14年3月に設置された学生サークル会館Ⅱ、平成25年10月に改築された学生サークル会館Ⅰなどがある。

学生サークル会館Ⅰ及びⅡは、サークル間の交流・連携の場として、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室、多目的ホール及びサークル室等を配置し、文化系、音楽系、体育系合わせて119サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
学生サークル会館Ⅰ・Ⅱ	郡元地区	文化系・音楽系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施設名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347㎡	638席	郡元地区
軽食堂(ガロア)	121㎡	59席	郡元地区
郡元南食堂	882㎡	222席	郡元地区
フードコーナー(学際交流プラザ)	530㎡	188席	郡元地区
桜ヶ丘食堂	518㎡	252席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	130席	下荒田地区

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,696	99
合計			8,222	412

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。



(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡
建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡
建物構造/R4

(3号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡
建物構造/RC5

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



大崎活性化センター

大崎活性化センターは、大崎町との「大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定」の締結により平成23年6月、大崎ものづくり会館内に設置された。

地域社会の教育・文化活動、健康・医療の推進、企業や自治体等との産学官連携活動等を通じて地域の課題解決に取り組み、活力ある地域の活性化を図ることを目的とし、地域教育・研究・交流の拠点として活用されている。

〒899 - 8313
 鹿児島県曾於郡大崎町野方6222 - 1
 TEL099 - 478 - 2611 FAX 099 - 478 - 2900



首都圏交流拠点

東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター(CIC)内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報(大学概要・広報誌等)の提供、入試情報(各学部・研究科案内および募集要項等)の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する連絡調整、各同窓会との連絡調整を行っている。

また、CIC入居大学との合同イベント(大学説明会・新技術説明会等)に参画している。

〒108 - 0023
 東京都港区芝浦3丁目3番6号 キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室
 TEL・FAX:03 - 5440 - 9099 (CIC受付TEL03 - 5440 - 9020)
 ※現在スタッフは配置していない。



海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡(現伊佐市)出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生及び教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点(宿泊施設)として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始した。

〒156 - 0052
 東京都世田谷区経堂2 - 12 - 9



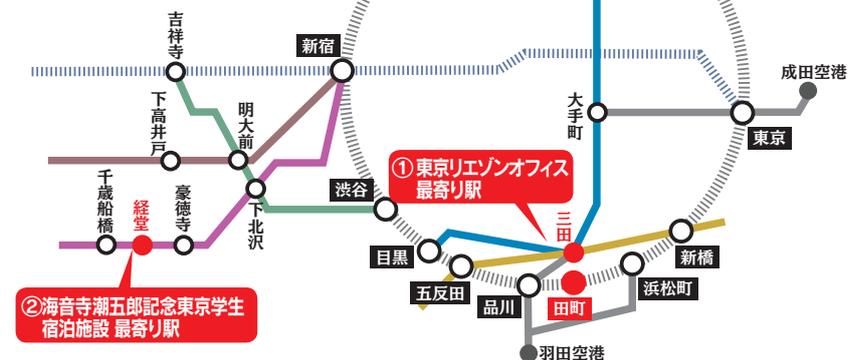
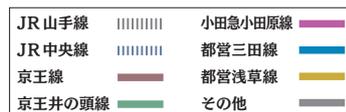
交通アクセス

①東京リエゾンオフィス

JR山手線・京浜東北線 田町駅下車 徒歩1分
 都営三田線・浅草線 三田駅下車 徒歩5分

②海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

小田急線 経堂駅から約400m、徒歩約5分



キャンパス

郡元キャンパス

- 法文学部
- 教育学部
- 理学部
- 工学部
- 農学部
- 共同獣医学部
- 理工学研究科
- 司法政策研究科
- 臨床心理学研究科
- 連合農学研究科

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り(稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 事務局車庫、埋蔵文化財調査センター
- 5 農・獣医共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 // 研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C(生物資源化学科実験研究室)
- 9 // 研究棟 D
(生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E(生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 共同獣医学部附属動物病院
- 12 軽種馬診療センター
- 13 焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 農学部温室
- 15 農学部植物研究実験施設(温室)
- 16 // (硝子室)
- 17 農学部附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 低温貯蔵実験棟
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室)
- 23 遺伝子実験施設
(自然科学教育研究支援センター)
- 24 アイソトープ実験施設(自然科学教育研究支援センター)
- 25 馬術部馬房
- 26 総合動物実験施設
- 27 連合農学研究科棟
- 28 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 29 大学会館
- 30 中央食堂
- 31 産学官連携推進センター棟 1
(かごしま COC センター・地域防災教育研究センター)
- 32 産学官連携推進センター棟 2
- 33 学術情報基盤センター
- 34 変電所
- 35 工学部情報生体システム工学科棟
- 36 地域コトづくりセンター
- 37 工学部電気電子工学科棟
- 38 // 建築学科棟



- 39 工学部環境化学プロセス工学科棟
- 40 // 機械工学科第一実験棟
- 41 // 機械工学科第二実験棟
- 42 // 機械工学科第三実験棟
- 43 // 機械工学科 2 号棟
- 44 // 機械工学科 1 号棟
- 45 // 化学生命工学科棟
- 46 // 薬品庫
- 47 // 海洋波動実験棟
- 48 稲盛会館
- 49 工学系講義棟
- 50 廃液処理センター排水分析室
- 51 工学部海洋土木工学科棟
- 52 // 共通棟
- 53 理工系総合研究棟
(自然科学教育研究支援センター・機器分析施設)
- 54 理学部 1 号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)、理系先端研究棟
- 55 理学部 2 号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 理学部 3 号館
(生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 57 総合研究博物館
- 58 共通教育棟 1 号館(管理室・講義室・教育センター・就職支援センター・グローバルセンター・ボランティア支援センター)
- 59 // 2 号館(文科研究室・講義室)
- 60 稲盛アカデミー棟
- 61 共通教育棟 3 号館(理科研究室・講義室・実験室・放送大学視聴室)
- 62 // 4 号館(理科研究室・講義室・実験室)
- 63 附属図書館中央図書館
- 64 総合教育研究棟(国際島嶼教育研究センター・司法政策教育研究センター・司法政策研究科・臨床心理学研究科)
- 65 法文学部 1 号館(管理・研究・講義棟)



- 66 法文学部 2 号館 (講義棟)
- 67 // 3 号館 (講義棟)
- 68 学生サークル会館 II - 1
- 69 屋内プール 50m
- 70 弓道場
- 71 学生サークル会館 II - 2
- 72 第一体育館
- 73 第二体育館
- 74 あおぞら保育園
- 75 教育学部体育科実験研究棟
- 76 // 武道館
- 77 郡元南食堂 (エデュカ)
- 78 教育学部管理棟・理系研究棟
- 79 // 実習棟
- 80 // 第一講義棟
- 81 // 第二講義棟 (アクティブラーニングプラザ)
- 82 // 生涯教育総合研究棟
- 83 // 文系研究棟
- 84 // 附属教育実践総合センター
- 85 // 音楽美術科棟
- 86 // 附属幼稚園
- 87 // 附属小学校
- 88 // 附属小学校家畜舎
- 89 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 90 // 附属小学校体育館
- 91 // 附属中学校
- 92 // 附属中学校体育館
- 93 学習交流プラザ
- 94 学生サークル会館 I



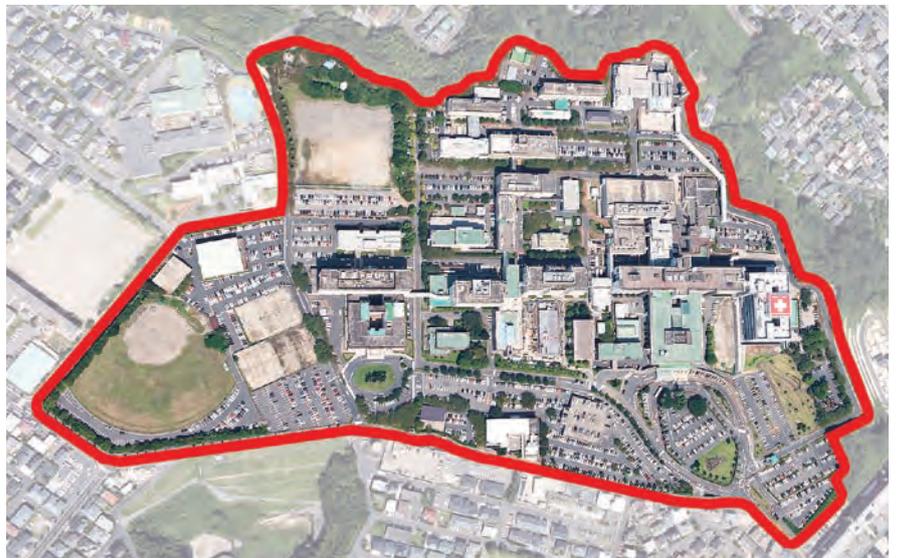
キャンパス

桜ヶ丘キャンパス

医学部
 歯学部
 医歯学総合研究科
 医学部・歯学部附属病院



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 医学部臨床講義棟 ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系) ③ // ④(新臨床医学系) 難治ウイルス病態制御研究センター ④ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系) ⑤ 医歯学総合研究科棟5 ⑥ RI実験施設 ⑦ 動物実験施設
(自然科学教育研究支援センター) ⑧ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館) ⑨ 学生寄宿舎 ⑩ 看護師宿舎 ⑪ 附属病院医科病棟 ⑫ 附属病院医科診療棟 ⑬ 附属病院管理棟 ⑭ 医学部基礎講義実習棟
医歯学総合研究科共同利用研究棟 ⑮ 中央機械棟 ⑯ ポンプ室 ⑰ 附属図書館桜ヶ丘分館 ⑱ サークル棟 ⑲ 実験廃液処理施設 ⑳ 附属病院歯科診療棟・病棟 ㉑ 医歯学総合研究科棟1(歯学系) | <ul style="list-style-type: none"> ㉒ 歯学部講義・実習棟 ㉓ 桜ヶ丘体育館 ㉔ 運動器具庫 ㉕ 医学部保健学科東研究棟 ㉖ 医学部保健学科西研究棟 ㉗ 地域医療支援センター ㉘ 共通教育棟 ㉙ MRI-CT装置棟 ㉚ 医療情報施設 ㉛ 鶴陵会館 ㉜ 医学部・歯学部課外活動施設 ㉝ 弓道場 ㉞ 患者用立体駐車場 ㉟ さくらっ子保育園 ㊱ 中央診療棟 ㊲ 救急集中治療棟 ㊳ レジデントハウス ㊴ C棟 ㊵ 医歯学総合研究科仮設研究実験棟 ㊶ 附属病院プレハブ |
|---|---|



下荒田キャンパス

水産学部



- ① 水産学部1号館
- ② // 2号館
- ③ // 3号館
- ④ // 5号館
- ⑤ // 6号館
- (1F:食堂、2F:附属海洋資源環境教育研究センター)
- ⑥ 実験・実習支援棟
- ⑦ 水産学部4号館
- ⑧ 大型回流水槽実験棟
- ⑨ 変電室
- ⑩ 車庫・倉庫
- ⑪ 倉庫
- ⑫ サークル棟
- ⑬ 附属図書館水産学部分館
- ⑭ 国際交流会館(1号館)
- ⑮ // (2号館)
- ⑯ // (3号館)
- ⑰ 職員宿舎
- ⑱ 外国人研究者宿泊施設A
- ⑲ 外国人研究者宿泊施設B
- ⑳ 外国人研究者宿泊施設C

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

学生寮

唐湊3丁目



- ① 男子寄宿舎A棟
- ② // B棟
- ③ // C棟
- ④ 女子寄宿舎
- ⑤ 共用棟

●所在地一覽●

1	【事務 局】	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1	【法 文 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1	【教 育 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
1	附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
1	附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
1	附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
	附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
1	附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
	寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
1	【理 工 学 研 究 科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
	附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
1	附属地域コトづくりセンター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8487
1	【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
1	【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1	【農 学 部】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1	附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
	唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
	指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
	入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
1	附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
	高隈演習林	〒891-2101	垂水市海瀨3237番地	☎0994(32)6329
	佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
1	附属焼酎・発酵学教育研究センター	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
3	【水 産 学 部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
3	附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
	附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤瀨1620-3	☎0996(64)5013
	附属海洋資源環境教育研究センター錦江湾ステーション	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目9	
1	【共 同 獣 医 学 部】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1	附属動物病院	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
1	附属越境性動物疾病制御研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
2	【医 歯 学 総 合 研 究 科】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2	附属難治ウイルス病態制御研究センター	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2	【医 学 部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2	【歯 学 部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
2	【医学部・歯学部附属病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
	霧島リハビリテーションセンター	〒899-6603	霧島市牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2538
1	【司 法 政 策 研 究 科】	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1	【臨 床 心 理 学 研 究 科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
1	【連 合 農 学 研 究 科】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
1	【附 属 図 書 館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
2	桜ヶ丘分館	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
3	水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
1	【保 健 管 理 セ ン タ ー】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
1	【教 育 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8821
1	【稲 盛 ア カ デ ミ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3751
1	【ア ド ミ ッ シ ョ ン セ ン タ ー】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7355
1	【グ ロ ー バ ル セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3601
1	【総 合 研 究 博 物 館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
1	【国 際 島 嶼 教 育 研 究 セ ン タ ー】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
	奄美分室	〒894-0032	奄美市名瀬柳町2番1号	☎0997(69)4852
1	【自然科学教育研究支援センター】	〒890-8520	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2	動物実験施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
1	遺伝子実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
1	機器分析施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7188
1	アイソトープ実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3594
1	【医用ミニボタ・先端医療開発研究センター】	〒890-8520	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3240
2	先端医療開発分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6357
2	臓器置換・異種移植外科分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
2	遺伝子発現制御学分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5493
1	【か ご し ま C O C セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8502
1	【産 学 官 連 携 推 進 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	
1	産学官連携部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
1	知的財産部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3881
1	事業化支援部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)3630
1	COC+推進部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)6487
1	管理部門	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7106
1	【地 域 防 災 教 育 研 究 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7234
1	【学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
1	【埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7270
1	【司 法 政 策 教 育 研 究 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3905
1	【就 職 支 援 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
1	【ボ ラ ン テ ィ ア 支 援 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
1	【障 害 学 生 支 援 セ ン タ ー】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)3287
1	【稲 盛 会 館】	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
1	【大 学 会 館】	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
	【学 生 寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
3	【国際交流会館(1号館・2号館・3号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
	【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
3	【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
	【北米教育研究センター】	560 S.Winchester Blvd., Suite 500, San Jose, CA95128, U.S.A アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼ市		

※ 1: 郡元キャンパス、2: 桜ヶ丘キャンパス、3: 下荒田キャンパス

鹿児島大学学章



創立 50 周年を記念して制定された。
KAGOSHIMA の頭文字『K』をデザインしたものである。
今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

鹿児島大学 マスコットキャラクター

学内公募・投票により選ばれたマスコットキャラクター。
桜島の噴火のように活発な学生生活を送り、薩摩の偉人たちのような素晴らしい才能を開花させることを願ってデザインされた。
名前は薩摩の「さつ」に西郷隆盛の愛犬「つん」をあわせて「さつっん」。



【編集・発行】 鹿児島大学 広報センター
〒890-8580 鹿児島市郡元 1丁目21番24号
代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854
URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

【発行日】 平成 28 年 6 月